

まる博ジャーナル

2025 Vol.5

●●×△△=??

歴史×物理×東海村

文芸×東海村

地学×考古学…

特集 ●●×△△=??

縄文人が選んだ石、瑪瑙。Episode2

とうかいまるごと博物館 年間活動レポート 2024.4-2025.3

硯の中の小さな大発見

シェリーのネイチャーラボ通信 とりどり、ときどき、鳥さき

東海村古文書調査隊 塙南家文書調査報告

講演録 東海村そして茨城県の名桜-記録の系譜

東海村及びその周辺の野鳥

まる博研究員レポート

博物館長と歩く植物観察会

とうかいまるごと博物館2024年度実績一覧



宇宙線ミュオンで古墳を透視プロジェクト

いよいよ、子ども達がつくった

測定器で古墳の透視を開始!!

結果は…こうご期待!



みんなで作った測定器を古墳に設置

歴史と未来の交流館は、活動を通して東海村の郷土を次世代へ伝えていくということが大きな柱となっており、その取り組みの根幹となる事業が東海村全体を博物館空間と捉えて活動する「とうかいまると博物館事業」です。「とうかいまると博物館事業」とは、東海村をまるごと屋根のない博物館と捉え、村内全域で活動を展開し、郷土理解・郷土愛の醸成を促進する事業です。

このまる博ジャーナルは、とうかいまると博物館事業の活動記録及び本村の歴史・自然に関する情報発信の媒体として発行するものです。

村内の文化財についての情報も盛り込まれておりますので、楽しんでいただければと思います。

まる博ジャーナル

2025 vol.5

contents

- 04 特集 ●● × △△ = ??
- 19 縄文人が選んだ石、瑪瑙。Episode2
- 20 とうかいまるごと博物館 年間活動レポート 2024.4-2025.3
- 26 硯の中の小さな大発見
- 30 シェリーのネイチャーラボ通信 とりどり、ときどき、鳥さき
- 34 東海村古文書調査隊 塙南家文書調査報告
- 39 講演録 東海村そして茨城県の名桜-記録の系譜
東海村及びその周辺の野鳥
- 54 まる博研究員レポート
- 64 博物館長と歩く植物観察会
- 74 とうかいまるごと博物館2024年度実績一覧

本誌は歴史と未来の交流館 林 恵子・山西 沙貴が編集・執筆した。
それ以外の執筆者は文末に記した。

特集

●●×△△=??

かけ合わさったら何が生まれる？

【会 期】 令和6年3月23日～令和6年5月12日
【場 所】 歴史と未来の交流館 企画展示室
【入館者数】 4,558人

春
3月～5月

March-May
MARUHAU JOURNAL
企画展示

記憶
×
モノ

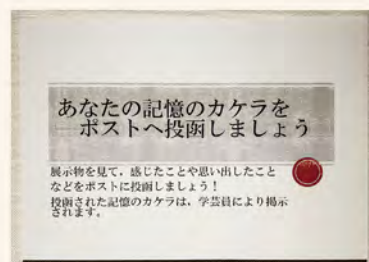
新規収蔵品展『記憶のカケラ』



毎年、寄贈される資料、その一つ一つには、
寄贈者やその家族の思い出が詰まっています。
そんな思い出の品を見ると、自分の記憶もよ
みがえってきます。
幼少期のこと、おばあちゃんの家の夕暮れ、
飲み歩いた大工町。
展示を通して、小さな記憶のカケラが呼び
起こされる、そんな展示です。

企画展示では、新規で寄贈された、喫茶店
などに名刺代わりに置いてあったマッチ箱コレ
クションや、徳利コレクション、レコードの蓄音
機や昔の陶製便器、そして寄贈者が集めた様
々なコレクションを展示しました。それと同時
に、来館者の方々が展示物を見て思い出した「
記憶のカケラ」も収集！その主な記憶のカケ
ラを5ページに掲載していますのでぜひご覧
ください。

なお、東海村の歴史と未来の交流館では、資
料の寄贈を募っております。もしも気になる
ことがあれば、お気軽にご相談くださいね！



モノ×記憶 集まった“記憶のカケラ”



みんなの記憶のカケラ

みんなの記憶のカケラ	年齢
学校で配られるプリントは、ほぼすべて「わらばん紙」だった。今も同じなのだろうか	30代
旧白方小に通っていました。懐かしいなあ…。	30代
はく製を見て、この前役場の職員駐車場にたぬらしき生き物が歩いていたのを思い出しました。	20代
埴輪の写真を見て願船寺の古墳から発見された人物埴輪を思い出した。東海村のハニワはどれもすごい!!	30代
白方小学校に通っていました。昔のものをみて使ってみたいなと思いました。	10代
むかしのとけいをみたらすうじがないからびっくりした。	—
おばあちゃんのおうちに黒電話!ありました!使ったことはなかったので今日はじめてさわりました。なつかしい…。	30代
・マッチコレクション・古時計・酒ビン 私の家にもある物、記憶の中かも?では現在はどこにある。頭の中です。	—
マッチのなかにあった「つかもと」は駅東に最近までホテルがありました。クロンボなど今では使えない言葉もなつかしいです。	60代
マッチ箱がなつかしいです!!我が子は初めて見たそうです。絵本のマッチ売りの少女と同じだと言っていました。	—
昔はレジの横にマッチ置いてありましたなつかしい!!	30代
黒電話をはじめて見ました!それでおばあちゃんの家について黒電話をさわりました。	10代
誕生日ケーキのろうそくにマッチで火をつけていたことを思い出しました。	20代
昔の電話が今のとはちがってまわして番号を入れるやつでビックリしました。	10代
数年前に70代のおじいさんがマッチが燃えるにおいをかいで「懐かしい」と言っていました。私は理科室の記憶がよみがえります。	30代
・マッチは仏壇に置かなくなった。 ・たぬきは最近見なくなった ・レコードなつかしい・標本の目を見るとちょっと怖い	—
毎年お盆にマッチでお線香をあげていることを思い出しました。ライターなども便利だけれども、やっぱり昔ながらのマッチが1番しっくりくる気がします。	10代
マッチ箱、今でいえばショップカードのよう。個性あふれる柄がたくさん。レトロブームもありとても楽しめます♡	30代
黒電話なんて初めて見ました!!ちびまる子ちゃんと一緒に!	10代
ガリ版、就職したての頃、印刷は鉛筆で…。手が痛くなりながら原稿書き思い出しました。	—
マッチ箱の展示が本当にすばらしくて、何度も来ています。会期が終わったあとは、どこに保管されるのでしょうか?常設していただけたらうれしいです。よろしく願います。	20代
高校時代修学旅行で海外に行った後東海の椿家に行きました。めっちゃうまかったです。最高!	20代
生まれた時は黒電話の形でボタン式だったなー	—
マッチの火で仏壇のローソクを点けたことやストーブのガソリンのにおいを思い出します。	40代
黒電話を間近で初めて見ました。動かしたらカラカラ言っておもしろかったです。	—
マッチの地味なものからはでなもののまでいろいろあってすごい。一番ぼくが気に入ったのは南極観測隊のやつです。	—
マッチの文化今の言い方でいうとエモイですね	—
地元にも、「黒デンワ」がありました。	—
むかしのトイレはちょっとおしゃれだなとおもいました!	—
ガリ版、高校の頃 文芸同人誌を作るのによく使いました。懐かしいです。マッチ箱コレクションも見事。地域ごとに個性があっておもしろいです。	60代
昔の時計がいがいときれいだったからびっくりした!	—
マッチ箱、素敵です。今もお店があれば、行ってみたいです。	—
とっくりでいっぽんちゅつといきたい。	—
私達の世代が60~70代となった時、「今」を示す展示に何が置かれるのか気になりました。(プリクラ機…とか…?)楽しかったです。	20代

春
3月～5月

March-May
MARUHAKU JOURNAL

まる博マルシェ

【会 期】 令和6年3月23日～令和6年5月12日
【場 所】 歴史と未来の交流館 展示室1
【入館者数】 4,558人

さくら色・いろ／みんなのさくら／



桜(サクラ)はバラ科サクラ属の種類で、日本を代表する美しい花のひとつです。

江戸時代までは花見のサクラと言えばヤマザクラでしたが、江戸時代末期から明治初期には染井吉野が全国に広がっていききました。現在は全国各地の学校、公園、お城などに植えられた染井吉野が花見の代名詞になっています。

日本におけるサクラの野生種はヤマザクラ、オオシマザクラ、エドヒガン、マメザクラ、チヨウウジザクラ、オオヤマザクラ、カスミザクラ、タカネザクラ、ミヤマザクラ、クマノザクラ、カンヒザクラなど11種類です。そしてこれらの野生種などを交配してできた園芸品種栽培種は数百種類あるとも言われています。

東海村内では3月上旬の河津桜に始まり、4月の染井吉野やオオシマザクラ、5月中旬の八重桜類まで約3ヶ月間、いろいろな種類の花見を楽しむことができます。

東海村のどこにどんな桜があるのか、さくらマップで探しに行きましょう。



みんなのさくら



来館者から投稿された桜の写真が展示されました!その一部をちょこっとご紹介!!



城址の桜



権現山古墳とヤマザクラ(平成 17 年)



花よりだんご?!



村松虚空蔵尊

実験コーナー

さくらで染めてみました!

- ①5種類のサクラの枝を拾ってきて、小さく刻んで煮詰めます。
- ②出来上がった染液に布を浸してミョウバン液につけて洗ったら天日干し…これを3回程度繰り返したら…こんな色になりました!!

桜の種類によって、色が違いますね!
あなたは、どの色が好きですか?

※左から、ヤマザクラ、河津桜、八重桜、オオシマザクラ、染井吉野
※野生種はカタカナ表記、園芸種は漢字表記にしています。



夏
7月～9月

July-September
MARUHAU JOURNAL

企画展

サイエンス×東海村

サイエンス×東海村×J-PARC展

「せかいはずぶ」からできている

【会 期】 令和6年7月20日～令和6年9月29日
【場 所】 歴史と未来の交流館 企画展示室・展示室1・交流スペース
【入館者数】 12,554人



東海村は、東西に約6km、南北に約6kmの総面積38km²の太平洋に面した村です。

東海村は、川や海や古墳がある歴史と自然豊かなムラです。

……でも実は、それだけではないのです。

「東海村」はサイエンスにあふれたムラだったので！実は、世界中の科学者が東海村に集まっています。

——何をするために集まっていたのかって？

もちろん、実験をするためです。

——え？ どこで実験をするのかって？

東海村にある巨大な大強度陽子加速器施設。その名も、「J-PARC」。

——そこで科学者たちは、究極の謎に日々挑んでいるのです。その究極の謎とは——

この宇宙は、モノは、私たち生命(いのち)は、なぜ生まれ、なぜ今ここに存在しているのか？
巨大な加速器の謎解きステージが歴史と未来の交流館に登場！

さあ、ステージの扉を開け、科学者になって、究極のナゾにチャレンジしよう！

夏
7月~9月

July-September
MARUHAKU JOURNAL

企画展

サイエンス× 東海村× 将来の夢

科学者の素顔

東海村はたくさん科学者たちが暮らすサイエンスが身近な村です。

科学者たちが一体どんなことがきっかけで科学者を目指し、そして今何を追求しているのか。東海村のJ-PARCで活躍する科学者たちの素顔を平成時代に流行したプロフィール帳をモチーフに展示いたしました。

J-PARCセンターの科学者たちに聞いた！
科学者を目指した「きっかけ」は？！

鉄腕アトムなどの
化学漫画・子どもの頃の
体験
(化学実験、天体観測、
ラジオ体操など)

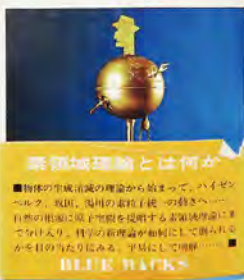


ホーキング博士の本。
アインシュタインロマン
というNHKスペシャル。
ニャロメのおもしろ宇宙論
という赤塚不二夫さんの
漫画。プラネタリウムの
先生との出会い



素粒子論の世界

物質と空間の起源に挑む
片山 泰久



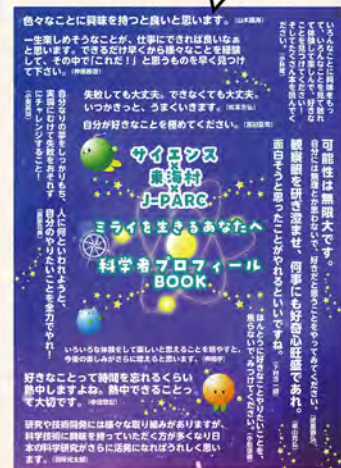
中学校2年生で
ブルーバックスの
『素粒子論の世界』を
読んですごいと
思った

週刊少年ジャンプ
「君たちは何になるか」



週刊少年ジャンプの
「好きなことをやれ」を
連載で見た頃。
化学へのロマンがかきたて
られ、自分でも研究や化学に
かかわる事をやってみよう
というスイッチが
入りました

科学者プロフィールBOOK
をつくっちゃいました！
歴史と未来の交流館で
読むことができますよ！



科学者に聞いちゃいました！
東海村の好きなところは？

夕日が
きれいなところ

お寺と神社と
最先端の
科学施設が
混在していること

一生涯
生活できる環境が
整っている

みんなのプロフィール帳

自分でプロフィール帳を作るコーナーでは、展示期間中、約200人の来館者のプロフィール帳が集まりました。その中からちょこっとご紹介します！

名前	将来は何になりたい？	それはなぜ？	何をやっている時が楽しい？	好きな食べ物？	好きな学校の科目？	東海村の好きなところは？	10年後の自分へ
1	最強の学芸員兼魔法古生物学者	私になりたいから！生きもの・化石のおもしろさを伝えたいから	生きものを観察しているとき、化石を観察しているとき	ペリー系の食べもの・紅茶	理科（特に生物と地学）・音楽・国語	地形が豊かなので、生きものもいろんな種類がいるところ	次はどんな生きものや化石を研究したいですか？♥私はいまカイギュウをきわめたいです！
2	漆芸作家	おだやかな気持ちになるから	サッカーを観ているとき	うなぎ・カレー	特になし	研究がさかんなところ	心身ともに、健康でありますように
3	マンガ家、イラストレーター、バンドマン	マンガが好きだから、絵をかくことが好きだから、ギターを持っているから	マンガを読んでいるとき、絵をかいているとき	パン	図工・社会	・住みやすいところ ・さつまいもがさかん、干し芋が美味しいところ	・ギターはたくさん曲をひけるようになってますか？ ・面白いマンガは作れましたか？夢を叶えて下さい。
4	医者になって、ユニセフで働く	CMに影さようされたいから	ゲームで遊んでいるとき	だいたいのは好き	家庭科	・ほしいものが多い ・自然がたくさんある	夢叶える 少しくらいな食べ物あるけど、こくふくしてください。作文うまくなってください。
5	しょうぼうし	多くの人を救いたいから	かそくとあそんでいる時	チョコレートケーキ	図工	しぜんがおおい	ぜったいになるぞしょうぼうし
6	宇宙、心理学に興味がある	とにかくおもしろそうだから	お買い物をしているとき	ドーナツ・パスタ	国 理 etc	飲食店おいしい	→24歳どんなことしてる？ なりたかった自分にはなれたか？隣人と自分のやりたいこと、どちらも大切にするんだぞ！
7	LEGOビルダー・将棋のプロ	LEGOが立体的につくれるから・しょうががすきだから	みんなの笑顔	サーモン	体育・クラブ	自然ゆたか	自分じしんの感性をもとにして未来を考えよう
8	バスケットボールプレイヤー	なりたいしバスケが楽しいから	ゲームをやっている時	おすし	体育・社会・英語	おみせが多いところ	バスケをうまくして、バスケを世界一のスポーツにして
9	ピアノです	ピアノが大好きだから	おりょうり（ままと）	ハンバーグ	たいいく	いっぱい	いっぱいピアノひいてね♡
10	ケーキ屋さん	おいしいケーキをたべてもらいたいから	チアをしているとき	なまはむ	算数	おいもがおいしいところ	ピアノがうまくなってますように
11	研究者、デザイナー	自分が大学生になったら、ハイパーカミオカンデについてのことに研究できると思ったから	イラストを書く、計算しているとき	からい食べ物・野菜	数学・音楽・美術	東海村のほしいものがいい	24歳健康でいて生活習慣病にならないで
12	料理人	たくさんの人に笑顔を見たいから	料理	ラーメン	家庭科・音楽	自然がいっぱい	料理人になれた？人生楽しんで
13	人を助ける仕事	人の命をすくいたいから	友達と遊んでいるとき	水	音楽	サイエンスもたくさん！	今何してますか？これからはがんばれ〜！
14	音楽家	えんそうしている時が楽しいから	理科の実験をしている時	パン（特にカレーパン）	音楽	さいせんたんのけんきゅうしせつがあるところ	夢をかなえてください！！
15	びょうし	きたときよりもうつくしくかえってほしいから	いとことおとまりやおかい物をしているとき	いちご・みかん・おかあさんがつくったおむらひす	体育・算数・理科・社会	東海村の人ではないから、これからとうかいむらの好きなところをみつめていきたい	みんなにしんせつで、びょうしのゆめをかなえていますか？大人になっても元気に生きてほしい
16	うちゅうけんきゅう	いろいろな星のことを、しりたいから	いとことおとまりをしているとき	パイナップル・ぶどう・うどん	たいいく・ずこう・くく・さんすう（デスト）	いもそうがいてるこがすき	いっぱい、星のことをしてね。がんばって
17	サッカー選手	サッカーの試合を見てかっこいいと思ったから	サッカー	みかん	算数	村松小学校	苦しい時間もあると思うけど、くじけずがんばって！！
18	ナゾキがとける人	たくさんナゾキをやったあたまがよくなりたいたから	べんきょうをやっているとき	やさしい	全部	おばあちゃんたちがいるところ	たくさんべんきょうして大人になつてくになれるようにがんばってください。
19	衣装デザイナー	作るのが楽しいから	衣装関係のことをしているとき	ずし	家庭科	勉強に力をいれている	「なりたい自分」になれましたか？これからも目標に向かってがんばれ！
20	菓子食人	作るより食べる方が好きだから	お菓子を食べているとき	和菓子	数学	自然が多くて住みやすい	好きなことを思いきりやって、「若さ」を思う存分楽しんでほしい。
21	トリマー	犬の毛やどうぶつの毛、いろいろなかみがたにできるから	本をよんでいるとき	梨・もも	図工・理科	みんなやさしいところ	元気できてね。夢をかなえてね。11才のまるまるより
22	小学校の先生	子どもと関わるのが好きだから	夜集まってしゃべること	ミネストローネ・キーマカレー	算数・社会・音楽・体育	公園が沢山あるところ	仕事はホドホドに。楽しむこと!!健康で!!
23	ウェディングプランナー	テレビで見てすこいと思ったから	友達とあそんでいる時	もんじゃ焼き	特になし	中丸小をたててくれたところ	夢叶えてかっこいいだんなさんつかまえて がんばれよ〜
24	じゅう医師	動物が弱っているのを見て、自分もかなしくなったから	ベットとふれあっているとき	ブドウ・イチゴ	English	土器がたくさん見つかる所♡	がんばってね!! えがおを忘れずに生きてね!! ホッケー大好き♡ LOVE♡

とうかいサイエンスラボ

J-PARCの研究者と歴史と未来の交流館がコラボして、とうかいサイエンスラボが開講！
全部で、11講座、楽しくサイエンスに触れました。

No	月 日	講座名	参加児童数
1	7月20日	のぶちゃん先生と神谷博士率いるチーム・ゲタポンの真空ってなんだ教室	70名
2	7月27日	ジェットコースターを走らせろ！ 超伝導コースター体験	70名
3	7月28日	宇宙から降り注ぐナゾの宇宙線を目撃せよ！	14名
4	8月1日	かたむいているのに倒れない！ 不思議なコマづくり【低学年対象】	20名
5	8月2日	かたむいているのに倒れない！ 不思議なコマづくり【高学年対象】	11名
6	8月3日	のぶちゃん先生と高柳博士のおもしろビーム教室II イライラ棒選手権！	60名
7	8月21日	ハドロンでアクセサリーをつくろう	30名
8	8月27日	ジェットコースターを走らせろ！ 超伝導コースター実験	25名
9	8月28日	大実験★ 生物の神秘！生命の設計図「DNA」を取り出そう	33名
10	8月29日	大実験★ 生物の神秘！生命の設計図「DNA」を取り出そう	24名
11	7月20日～ 8月31日	君はぐるぐる加速器迷路を攻略できるか！ 謎解きミッション	500名



のぶちゃん先生と神谷博士
率いるチームゲタポンの
真空ってなんだ？教室
J-PARCの大強度陽子加速器でとて
も重要な「真空」。でも、一体真空って
何だ？実験しながら真空に
ついて学びました。

宇宙線ミュオンで古墳を 透視プロジェクト

子ども達がつくった測定器をついに古墳に設置！



東海村には、過去から貴重な古墳が受け継がれてきた一方で、最先端科学の叡智が集結した研究機関が立地する「科学のまち」としての顔があります。1955年、石神村と村松村が合併して誕生した東海村は、その翌年には日本原子力研究所の設置が決定しました。その後、当地には数々の原子力関係の事業所が立地し、原子力研究の拠点として今日まで歩んできました。2001年には、日本原子力研究所（現：JAEA）と高エネルギー加速器研究機構との間で、JPARC建設と研究開発に関する協定が成立し、その後、2006年に設置されたJPARCセンターは基礎科学の研究拠点となっています。全国から集まった多くの研究者が暮らす東海村は、まさに科学が身近な地域でもあります。

私たちは、これらの東海村の魅力を最大限に活かし、通常は真逆のテーマに見える「古墳（歴史）」と「科学」を融合させることで、全国に類を見ない東海村独自の新たな取り組みを開始しました。その名も「宇宙線ミュオンで古墳を透視プロジェクト」です。本プロジェクトの面白いところは、宇宙線ミュオンを捉える測定器づくりから古墳透視、その後の発掘調査までを、子どもたちの郷土教育や加速器関連科学教育の学習プログラムとして行うことです。果たして「歴史（考古学）×科学（物理学）」の先には何が生み出されるのでしょうか。

今回は、2024年度（第二期）の活動成果をご紹介します。

2024年度の 活動内容

— 歴史×科学 —

● 7月 第2回

古墳講座と城里町 徳化原古墳の見学会

プロジェクト2期目の2024年度は、31名の小中高生が参加する「ミュオンにコーンクラブ」と共に、全10回の活動を行いました。目標は二つあり、一つは2023年度に完成した「歴史と未来の測定器（1号機）」による舟塚古墳群2号墳の内部透視を開始し、古墳内の埋葬施設（空洞）の情報を得ることです。もう一つは、2台目のミュオン測定器を製作することです。その他に宇宙線や古墳について学ぶ講座などの基礎学習を行いました。

ここでは、2024年度の活動内容の一部をちょこっとご紹介します。

● 9月 第4回

石室位置と測定器設置 場所を考えよう

ミュオンで透視する埋葬施設のイメージをつかむため、徳化原古墳（城里町）を訪れました。この古墳は7世紀後半に造られた方墳で、直に横穴式石室を見学できる古墳として有名です。

古墳講座では、古墳のどこに、どのような種類の埋葬施設が造られたのかについて学び、舟塚古墳群2号墳の埋葬施設の位置を予想しました。

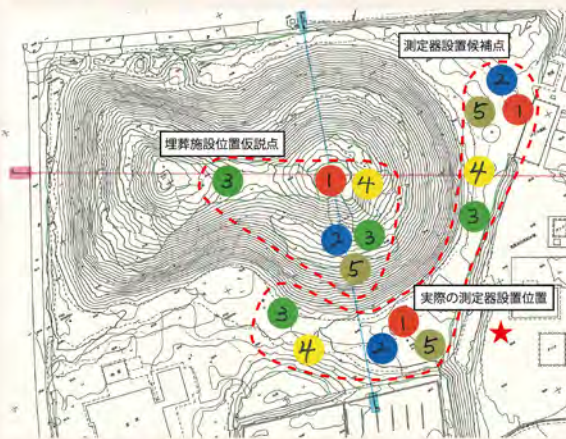
● 10月 第5回

歴史と未来の測定器を 古墳に設置しよう

子ども達は「古墳のどこに王が眠る埋葬施設があるのか?」「ミュオンで埋葬施設を見つけるためには、どこに測定器を置けば良いのか?」について話し合い仮説を立てました。

後半は、埋葬施設の推定地と測定器設置場所の候補地を記した図面（左図）を持って舟塚古墳群2号墳を確認し、実際に測定器を置けるかどうかを考えました。

子ども達が考えた測定器の設置案を踏まえ、荒谷台住宅配水場内に歴史と未来の測定器を設置しました。200kgある測定器をクレーンで設置後、カウントダウンの合図で電源が入れられ、ついに古墳透視が始まりました。測定器は、無事に空から降り注ぐミュオンの信号を捉えることに成功し、今後の古墳透視に期待が高まった一日となりました。



プロジェクトは日々進行中!最新情報はHPをチェック!

秋
10月

October-November
MARUHAU JOURNAL

まる博マルシェ

帰ってきた！

東海村鉄道大作戦2024

今年の鉄道大作戦は……！

村松軌道1/1模型が復活！！

さらに、新発見資料である

「村松軌道の切符箱」も初公開しました。

裏面に、
昭和二年阿漕駅備品
ということが
書いてあります。



東海村を飛び出そう！

まる博

×

とうかい

子どもキャンパス

のぶちゃん先生と行く

「ひたちなか海浜鉄道」

10月14日 参加者60名

ひたちなか海浜鉄道に乗って那珂湊駅で駅員体験をしました。

村松軌道ももしかしたら、ひたちなか海浜鉄道とつながっていたかもしれない……そんなロマンを感じつつ、身近にある「鉄道」の魅力を体感しました。



東海村マップ絨毯には、縦横無尽に走る夢の鉄道が完成！！
(協力：中古ブラレール専門店 isseco)

【会 期】 令和6年11月2日～令和7年1月26日
 【場 所】 東海村歴史と未来の交流館 企画展示室
 【入館者数】 7,679人

冬
 11月～12月

October-November
 MARUHAKU JOURNAL

企画展

文芸 × 東海村

村発足70周年記念 塙南可・千里展 むらをうつす



由く春の光り ゆらぎあふ
 庭にせりあか梨つゝ 露の華
 しげる

昭和四十五年作 塙南可

千里 昭和四十五年春書

関連企画！ 初めてのスケッチ教室

日時：12月14日（土） 参加者4名
 場所：東海村歴史と未来の交流館 活動室2



東海村美術連盟の先生たちが優しくスケッチを教えてくださいました。先生の指導により参加者はみるみる上達！気軽に絵に親しめるようになりました。

東海村70周年を記念し、郷土を代表する人物について取り上げました。
 塙南可・千里の親子は、昭和の時代に、それぞれ画家、歌人として活躍した人物です。
 南可氏は、農業や役場の職員を勤めながら、木村武山最後の弟子として画を描き、また村松虚空蔵尊の僧侶、村松子ども会を創立・運営するなど多方面で郷土のために活躍しました。千里氏は農業を営みながら、斎藤茂吉の孫弟子、佐藤佐太郎の弟子の歌人として長年活躍し、文化財保護審議委員や村史編纂事業にも関わりました。
 展示では、塙南可氏のスケッチや絵、千里氏の短歌を展示しました。

短歌会「令和7年埴千里歌会始」

【日時】 令和7年1月15日

参加者9名

自由なテーマで短歌を詠み、意見交換をしました。講師は三原由起子先生です。当日は、それぞれが詠んだ短歌について、その意味や言葉について意見交換をしました。歌会初体験の参加者ばかりでしたが、和やかな雰囲気、歌の楽しさや面白さに気づかされた時間でした。

「埴千里歌会始」作品一覧

1	底ついた知恵も資金も頼るなら前世古い戦国武将
2	空駆ける銀河鉄道スターリンク 君は見たのかスマホの時代
3	乾風 からかぜ や微動 あおさぎ だにせぬ 蒼鷺 あおさぎ にシャッターを切る霜焼けの指
4	好きな石拾うと決めた固い意思 手にするまでは帰ることなし
5	摩りやりし手を洗い日常に 戻り来る戻れぬ姉を病棟に残して
6	静けさは日々を彩る間と余白濃淡のある珈琲の道
10	よみがえる奇跡の埴輪石神に 令和に息吹く匠の呼吸
11	凍てつく夜十五夜にみぬスキゅれ 照りつく日々をうち覚ゆれど
12	子どもらに縄文時代の服を問う 「割烹着！」との即答に意表突かれる
13	グランプリ鹿毛のテイオー 奇跡みておけら街道短く感ず
14	冬が来た柿 こずえ の梢にジウビタキ腹の朱色と羽の白斑
15	小春日に誘われて来しホームセンターに パンジー提げつつあいのりくん待つ

7 咳ひとつ遠音に独りじゃないのだと
壁の薄さに安堵し眠る

8 天衣あまのろもきみが咲かすや

雪の華日の光にてはれてかがやく

9 イヤホンで笑顔で闊歩ワイヤレス

「補聴器？」と聞かれ苦笑い

16 孫からの年賀状の字は
去年より大人らしくて元旦の冷氣

17 菊の淀イタリア人に渋沢託すが露と消え我虚ろむ

18 朝散歩いつもの時刻ランドセル

親子3人励ます母の声

決定！東海村短歌大賞！

展示と連動して交流館内やX(旧Twitter)で東海村に関する短歌を大募集。たくさんの方の作品の中から東海村短歌大賞が決定しました！



教育長賞

東海に幾星霜を重ね来て七十年の

慶事言祝ぐ(近江董花)



交流館賞

真崎浦の朱金の秋の夕暮れに

小休みしたる常陸の旅路(近江董花)

仁王立ち呪む奥には虚空蔵子らの

未来を映す輝き(やすのじ)

桜さくあこぎがうらの夜桜の

あわいピンクが夜に光る(みり)

細浦の青畝に夏の来たるらし

微かな風に稲穂囁く(近江董花)

恋人になれないのならわたし、

君の胸を貫くニュートリノになる(しえりー)

縄文人が選んだ石、瑪瑙。

Episode2



私は普段、遺跡の発掘調査や出土品の研究を行っています。当館は2024年7月24日に開館3周年を迎えましたが、自分自身の活動を振り返った時に、真っ先に頭の中に浮かんだモノは「石」でした。

石と聞いて、遺跡と何か関係があるモノなのかと疑問を感じた方もいるかもしれませんが。実は、村内遺跡からは、岩石（鉱物）で作られた石器・石製品が多数出土しています。私はこれらの出土品に利用された石の種類や、それらがどの地域（産地）から入手できる石なのかを調べています。

石器・石製品には、様々な種類の石が利用されていますが、その中で注目したのが「瑪瑙」でした。瑪瑙は玉髓の仲間^{せきやく}で、石英の小さな結晶が集まってできた鉱物です。色彩豊かな宝石で、一般的にはシマ模様のある玉髓を瑪瑙と呼んでいます。

瑪瑙を調べるようになったきっかけは、



写真1 御所内貝塚出土黒瑪瑙製石鏃

押延十字路付近に位置する御所内貝塚から出土した石鏃（写真1）でした。石鏃^{せきやく}は縄文時代の狩猟具ですが、その石材に黒曜石のように見える黒瑪瑙が使われていました。

私は黒瑪瑙の入手地が非常に気になりました。そこで、茨城県の瑪瑙調査

を行って、県北部の奥久慈地域や、ひたちなか市海岸地域の瑪瑙の特徴をまとめました。その結果、黒瑪瑙は、ひたちなか市阿字ヶ浦〜磯崎の海岸で入手できることが分かり、縄文人の石材利用を考える上で重要な成果となりました（「まる博ジャーナル」vol.3（2023年刊行）参照）。

ところで、瑪瑙を調べ始めると、河原や海岸に石を採りに行く機会が増えました。初めは石材調査という目的でしたが、休みのたびに久慈川や磯崎海岸などで瑪瑙を集めるうちに、気づけば瑪瑙に夢中になっており、今では「石拾い」が趣味になりました。

ある日、瑪瑙に関する願ってもない情報を得ました。それは、東海村の村松海岸にも瑪瑙があるという話です。実際に村松海岸に行ってみると、白、赤、黒と様々な色の瑪瑙（写真2）を見つけることができました。まさか自分が暮らす地域でも大好きな瑪瑙が採れるとは驚きでした。

さて、石鏃は狩猟中の破損や紛失に備えて、日頃から作る機会が多かった道具だったとすると、東海村の縄文人は村松海岸のように身近な海岸で拾っ

た瑪瑙で石鏃を作っていたのではないのでしょうか。今後も縄文人の謎にせまる瑪瑙の調査を続けていきたいと思えます。

本年度は、村松海岸に何度も足を運んで瑪瑙を探し、今では私が思う東海村の魅力の一つになっています。是非、皆さんも村松海岸の宝石を探してみてください。もししたら、縄文人がこの石を選んだ理由が分かるかもしれません。

（学芸員 中泉雄太）



写真2 村松海岸の瑪瑙

とうかいまるごと博物館 年間活動レポート

2024.4-2025.3

とうかいまるごと博物館(通称:まる博)は、東海村全体を屋根のない博物館空間と捉え、村内全域に活動を展開する事業です。東海村では、様々な団体が、郷土を感じ、学べるイベントを実施しています。それらの多様な事業を「まる博」というネットワークでつないで、大きな博物館空間を構成しています。どんなイベントをどんな団体がやっているのか、その一部をご紹介します。

歴史と未来の交流館 2024.4.27-5.5



「歴史と未来の交流館ゴールデンウィークフェア」では、延べ3千人の方が遊びに来てくれました。

サメの歯化石の発掘体験、小さいお子さんから大人まで気軽に参加できるニュースポーツ体験、歴史と未来の交流館の裏側に眠るお宝バックヤードツアー、イノシシの的を狙う弓矢体験、ロケットのように飛び出すこのぼりの工作、2万個の紙コップを積み上げる競争など、日替わりで楽しいイベントが盛りだくさんでした。歴史と未来の交流館バックヤードツアーでは、展示では見ることのできない埴輪などの遺物の数々に目が釘付けの子どもたち！実際に本物の土器やクジラの肋骨にも触れ、子どもたちだけでなく大人の方も大興奮の1日でした。

Report
歴史と未来の交流館
ゴールデンウィークフェア

だんだん潮が引いていく平磯海岸で、県環境アドバイザーの川島先生といろいろな魚やマダコなどの生き物を見たりつかまえたり、海釣り体験に挑戦してギンポを釣ったりして楽しい半日を過ごしました。先生からは海の生物についての詳しいお話やマイクロプラスチックのお話を聞いてみんなで海岸のゴミを拾いましたが海外製品のゴミがあったのは驚きでした。生活の中でゴミはきちんと分別して捨てること、ゴミを出さない生活することとを心がけ、次の世代にも磯の生き物観察会を楽しめるきれいな海岸を残したいです。また参加者だった小学生が社会人になってお手伝いに来てくれることも嬉しいです。ぜひみなさんも機会があればご参加ください。

磯の生き物観察会

東海村の環境調べ隊 2024.5.26



5
May

東海村自然倶楽部 2024.6.23



令和6年6月23日(日)雨天により「新川河口ゴミ拾い・海の生き物観察会」のフィールドワークを中止し、東海村歴史と未来の交流館のフロアにて「海の生き物のお話し会」に内容を変更して開催しました。小学生11名、当倶楽部関係者を含む大人18名の方にご参加いただきました。「ウミガメ」について、アクアワールド大洗水族館魚類展示課の鈴木理仁先生、「海岸の植物」について、歴史と未来の交流館副館長・博物館長の安嶋隆先生に講話を頂きました。

フィールドワークを楽しみにしていた小学生のために、イベント当日、新川のウナギ・カワエビ・モズクガニ・マハゼ・ヨシノボリを採集し、大型水槽で展示をしました。展示した海の生き物の解説をする鈴木理仁先生の周りには、目を輝かせる小学生の輪ができました。

Report
新川河口ゴミ拾い・生き物植物
観察(大洗水族館職員派遣)

歴史と未来の交流館 2024.7.23

7
July



Report
石ころ×考古学★ロッコロジー
「村松海岸にコロがる漆黒の宝石
(ブラックオニキス)を追え！」

縄文人が矢じりの材料として使っていた黒メノウ、実は東海村で拾えることをご存じでしょうか？ 快晴で絶好の石探し日和の中、村松海岸に打ち上がったたくさんの石の中からメノウを探し出すため、子どもたちは暑さも忘れて夢中でメノウ探しをしました。

最初はメノウがどうか見分けるのも難しい様子でしたが、学芸員からの説明や実物のメノウを見て特徴を掴むと、少しずつ見分けることが上達した子どもたちでした。メノウ探しの場所となった村松海岸についても、「東海村にこんなすてきな場所があったなんて！」との感想もありました。村内外から親子で多くの方にご参加いただき、東海村の海で宝石拾いを楽しんでもらえた1日でした。

J-PARCセンター／歴史と未来の交流館 2024.8.28-29

Report
大実験★生物の神秘！
生命の設計図「DNA」を取り出そう

歴史と未来の交流館では、令和6年度夏季企画展において、J-PARCセンターと東海村が「サイエンス×東海村×J-PARC展」を共催しました。はつぶからできている「」を共催しました。

その中でも、科学者と一緒の実験ができる「とうかいサイエンスラボの企画の一環として、生命の設計図であるDNAを身近な野菜や果物から取り出す実験を行い、幼稚園年長児から中学生までの57名の方にご参加いただきました。野菜や果物をすりつぶしてろ過して、手順どおり慎重に作業を進めていくと、抽出されたDNAが白く揺らめき立ってきました。これが生命の設計図だなんて本当に神秘的ですよ！

8
August



東海村自然倶楽部 2024.8.25

8
August



Report
東海村のサンショウウオ
みんなでシンポジウム

令和6年8月25日(日)、東海村歴史と未来の交流館活動室2で、とうかいまるごと博物館及び東海村エンジニアースクール講座として「東海村のサンショウウオみんなでシンポジウム」を、茨城県のサンショウウオ研究の第一人者である早瀬長利先生をお招きして開催しました。

自然や生き物が大好きな小学生以下の子ども18名及び当倶楽部関係者10名を含む大人47名が参加し、東海村のサンショウウオを語り合う会場は活気にあふれました。

J-PARCセンター 2024.9.28

Report
J-PARC施設公開2024

9月28日(土)、J-PARCセンターは、最先端の研究に直接触れる機会として、J-PARC施設公開を開催しました。約1,000名の家族連れや科学好きの方々が訪れました。物質生命科学実験施設(MLF)、ハードロン実験施設、ニュートリノ実験施設及びメイリング加速器(MR)、直線型加速器(リニアック)に加え、今回は、原子力科学研究所内にある研究用原子炉JRR-3を同時公開しました。各種工作・体験イベントや、最近のトピックスを織り交ぜた5つの講演も行い、来場者が熱心に耳を傾ける姿が見られました。来場者からは「理科が好きなので、将来は研究者になりたい」や、大人からも説明者の熱量がすごいなどの嬉しい声が多数寄せられました。

9
September



Report
キノコ観察会

本会は慶應義塾大学の糟谷大河先生と15年くらい前から東海村のキノコ調査を行っています。今年も真崎古墳公園でツチグリ、ヒビワレシロハツ、マントカラカサタケ、サトタマゴタケなど87種類のキノコを採取しました！今回昆虫に寄生して昆虫の体をたべつくすと、宿主をあやつって都合の良い場所で絶命させるキノコを見つけました。種が違うのに、虫博士でおなじみ筑波大学の藏満先生がご研究されている寄生バチとキノコが、全く同じことをしているのです。（人間には寄生しないのでご安心ください）

まだまだ謎が多いキノコの世界。糟谷先生は東海村で新種キノコを発見されていますし、今までの私たちの調査の中でも新種とわかったキノコもあります。一緒に新種キノコ発見を目指しませんか！

東海村の環境調べ隊 2024.10.5



10
October

健康増進課 2024.10.5



10
October

Report
みんなですこやかウォーキング
「中丸：パワースポットと
芋葉をめぐるコース」

10月のみんなですこやかウォーキングでは22名の方にご参加いただきました。天候に恵まれ、参加者の方からは「気持ちよく汗かけたよ。」「1人だと歩こうと思わないけれど、このウォーキングがあるから歩こうと思うよ。」などの声が聞かれました。

村内には、子どもから高齢者までの方が安心して歩けるウォーキングコース（ヘルスロード）が9つあります。

東海村の歴史や文化、四季折々の豊かな自然を感じながら歩いてみるというですね。

歴史と未来の交流館 2024.11.23



11
November

Report
東海村および周辺地域の野鳥
— 撮影裏話 —

東海村にお住まいの川上仁司さんをお呼びして、東海村やその周辺で見られる野鳥の撮影裏話をお話いただきました。川上さんは日本全国あちこちへ出向き、自然の中の様々な野鳥を撮影されています。

この日は、オオタカなどの猛禽類の捕食場面をリアルに捉えた写真や、珍鳥と言われるオオカラモズが東海村で姿を現し野鳥好きを賑わせた出来事など、撮影時の楽しさや苦労したお話のほか、実際に野鳥撮影で使っているカメラも見せていただきました。

当日飛び入りで参加してくれた小学生たちの中には鳥好きな子もあり、野鳥の写真を「いいねー！」と和気あいあいとした講座になりました。

原子力科学館 2024.12.8



12
December

Report
冬の星座と宇宙のひろがり&
星空観望会 ～土星食と冬の
星座を見てみよう～

茨城県立土浦第三高等学校の岡村典夫氏を講師にお招きし「冬の星座と宇宙のひろがり&星空観望会」と題して、地球や太陽系の大きさ、天の川銀河系の広がりや恒星の進化について、ご講演いただきました。講演は、未就学児でも飽きることなく、クイズ形式で楽しく分かりやすく進めていただきました。

また、星空観望会では、2台の天体望遠鏡で、南の夜空に浮かぶ半月に土星が隠れる瞬間と再び見え始める瞬間をスクリーンに投影しながら観望しました。土星食の瞬間、参加者から歓声が上がリ、珍しい天体ショーに感動されていた様子でした。

げんでん東海原子力館別館 2024.12.14-15



げんでんウィンターフェア

12月14日(土)・15日(日)に「げんでんウィンターフェア」を開催し、2日間で延べ672名の皆さまにご来館いただきました。

パネルクイズ、東海第二発電所の安全性向上対策工事状況の紹介や手回し発電動物園などの遊んで学べる体験をはじめ、工作キットの配布やクリスマスチャレンジラリーといった親子で楽しめる催しを行いました。小学生以下対象のクリスマスチャレンジラリーでは、「サンタさん・トナカイさんをさがせ」などのミニゲームもあり、小さなお子様にも楽しんでいただきました。サンタさんへのお願いごとを展示するブースでは、お子様が悩みながらも真剣にお願いごとを書いている様子が見受けられました。



12
December

原子力科学館 2025.1.10・1.24



親子星空観望会& ナイトミュージアム

小学生とその保護者を対象として実施しました。

始めに、研修室にて、天文シミュレーションソフト「ステラナビゲータ」を使って、今夜見える冬の星座等を説明し、次に外へ出て、望遠鏡で木星や火星、月などを観望しました。

また、ナイトミュージアムクイズラリーやパネルクイズ、放射線測定体験を行い、参加者からは「星に興味を持つことができ、子供が喜んでいた」「木星の縞模様が見えて感動した」「放射線について学べた」などの感想が寄せられました。

1月24日はあいにくの曇天でしたが、観望を先にし、雲間から見える土星や木星を見ることができました。



1
January

とうかい子どもキャンパス 2025.2.22



ミュージアムパークの 石塚先生による季節先取りの 昆虫教室

とうかい子どもキャンパスでは、東海村図書館2階の研修室で、「ミュージアムパークの石塚先生による季節先取りの昆虫教室」を行いました。昆虫教室といえども暖かい季節の方がいいかもしれませんが、昆虫の行動はすでに始まっています。ですからこの時期に行いました。今回、16箱の昆虫標本や数多くの写真資料、そして40年以上にわたる先生の研究成果の一部をお話いただきました。

その中で、昆虫の生態、昆虫採集のコツや研究の仕方、昆虫採集の道具やその扱い方など貴重な話を聞くことができました。特に、茨城県南西部の自然を例に挙げ、クマゼミやナガサキアゲハなど南方系の昆虫が流入している話が興味深く、親子で熱心に聞いている姿が見られました。



2
February

歴史と未来の交流館 2025.3.22



博物館長と歩く 植物観察会「春の植物」

博物館長と歩く植物観察会は、毎月第3土曜日に歴史と未来の交流館の博物館長が身近な植物について解説しながら村内各地を散策する講座です。3月は「春の植物」をテーマに、約10名の方にご参加いただきました。

この日は歴史と未来の交流館周辺の植物を観察し、散策日和なお天気の中、ホトケノザやタネツケバナ、セイヨウカラシナなど、春の気配を感じさせる植物が見つかったほか、ヤエザクラの蕾も見つけ、桜の開花が待ち遠しく感じた皆さんでした。



3
March

Special thanks!

とうかいまるごと博物館は多くの
団体の協力によって運営を行っています!



J-PARC



J-PARCセンター主催のハローサイエンスは、世界で活躍する研究者や技術者と研究成果や技術開発について気軽に語りあえるイベントです。2016年12月から始め、2025年3月まで92回実施しました。参加費無料、オンラインからも参加できます。サイエンスの世界を覗いてみませんか?

詳細はHP▶



東海村の環境調べ隊



私たちは年間を通じて様々な先生方と私たちが暮らしている「東海村を知る」活動を行っています。東海村の里山の雑木林の虫やキノコや野鳥の観察会や、夜空の星をじっくり探す天体観測会、小さな虫たちの不思議な暮らしを研究する大学の先生のお話、劇団主催者から自分らしく楽しく発表するスキルを学んで環境問題を考えてみたり、野鳥を身近に感じる小鳥のマスコットを作ったり。親子で楽しく参加して、子どもたちがたくさんの心の宝物を見つけられたらいいな、と思っています。大人だけの参加も歓迎です。興味がある方は生涯学習課までお問合せください。広報とうかいでも行事ごとに若干の募集をしていますので、お気軽にご参加ください。

原子力科学館



原子力科学館は、東海村にある放射線や原子力について詳しく学べる展示館です。展示物等のリニューアルを令和2年度から5カ年計画で実施し、令和7年3月に第五弾「ボイスフィールドー未来のわたしたち」が完成しました。これにより、すべてのリニューアルが終了しています。ぜひ一度新しくなった展示をご覧ください。

詳細はHP▶



げんでん東海原子力館 別館



来て、見て、知ってほしい!東海原子力館 別館は楽しいことがいっぱい♪手回し発電などの発電体験や、パネルを見ながら答えられるクイズを通して、エネルギーや原子力発電について学べる施設です。また、地域の皆様の作品を展示したギャラリー展も開催しております。どなたでも自由に見学ができますので、お気軽にお越しください。

詳細はHP▶



とうかい子どもキャンパス



「与えられる学びから、自ら求める学びへ！」
 とうかい子どもキャンパスは科学実験や工作、野外活動やスポーツなど、多岐に渡る体験活動を1年間通して提供していきます！今年も科学実験やものづくりをはじめ、色々な体験活動を計画しています。少しでも興味や面白そうだなと思った講座には参加してみてください。新しい発見がありますよ！ 東海村HP ▶



東海村自然倶楽部



東海村自然倶楽部は、生物多様性を意識した心豊かな暮らしの実現や、市民科学を広め、社会への貢献を目的とした会です。日頃は、会員それぞれが興味を抱くテーマの自然観察を行い、情報共有しています。倶楽部として、新川の生物多様性調査、カワゴケの保護保全活動、サンショウウオ産卵場所の整備と里親活動、自然観察会などを企画運営しています。また、東海村中央公民館が運営するスカシユリ増殖サポーター事業や、とうかい環境フォーラムに参加して、日ごろの活動報告をしています。観察会や報告会は、広報とうかいでお知らせします。

歴史と未来の交流館(事務局)



歴史と未来の交流館は、博物館機能と青少年センター機能を併せ持った複合施設です。事務室には、東海村生涯学習課の職員及び学芸員が常駐しています。東海村の歴史や文化の発信拠点、子どもたちの体験や遊びを通した活動拠点として、村内の自然や歴史についての様々なイベントや講座を実施しており、企画展ではテーマに合わせたマルシェを開催したり、専門家をお招きした講演会を行ったりしています。

歴史と未来の交流館HP ▶



健康増進課



東海村健康増進課では村民の健康づくりに取り組み、様々な事業を行っています。令和7年度のすこやかウォーキングは、4月、5月、10月、1月の計4回行う予定です。ロングコースとショートコースがあり、ご自身の体調に合わせて歩きたいコースをお選びいただけます。事前予約は不要です。ぜひ、みんなと一緒に健康づくりに取り組みましょう！

まる博では年度初めに協力団体・企業等募集しています

「まる博」事業に登録すると、登録事業がリーフレットに掲載され、村内外に周知されます。事業を内外にPRでき、さらなる参加者の増加が見込まれます。

- 対象事業 村内の歴史・民俗・文化・科学・自然・郷土を題材とした講座・見学会・体験・イベント
- 対象事業例 ハローサイエンス(J-PARC主催)、天体観測会(東海村の環境調べ隊)、すこやかウォーキング(健康増進課)など
- 登録方法 事業名と内容、時期を明記の上、東海村生涯学習課 博物館・文化財 担当までご連絡ください。東海村で講座やイベント・体験などを計画されている事業者の皆様、ぜひ「とうかいまるごと博物館」へご登録ください！

硯の中の小さな大発見

『硯石の謎にせまる』

今から約200年前、東海村の海岸部に位置する村松白根遺跡(図1)から室町時代(約600年前)の硯が発見されました。本遺跡の発掘調査はJ-PARC建設に先立って実施され、調査の結果、中世以降の塩作りのムラの跡であることが分かりました。また、出土品には塩作りに関わるものの他に、複数の異なる

地域から運び込まれた陶磁器や様々な加工品が見られました。その中で硯は、当地に文字を書く人がいたことを示す重要な証拠です。

もしかすると、出土した硯は製塩を管理した人物が塩の生産量や出荷先などの情報を書き記すために使用したものだったのかもしれません。



図1 村松白根遺跡・石神城跡の位置図
(国土地理院2.5万分1地形図「常陸久慈」(平成20年発行)に加筆・作成)



写真1 村松白根遺跡出土硯(※熱を受けて全体的に赤く変色。)

本稿では、村松白根遺跡から出土した硯(写真1)に注目してみましょう。この硯は石で作られていましたが、私たちと同様にそれぞれの石にも名前と故郷(産地)があります。果たして、中世の東海村に暮らした人々は、どの地域から入手できる石を利用した硯を使っていたのでしょうか。硯石(石材)の故郷の謎にせまりましょう。

『茨城県の有名な硯石』

日本の歴史を見ると、硯は飛鳥時代に大陸から伝来したと考えられており、その後、奈良・平安時代にかけて陶器の硯が国内に広まりました。平安時代の中頃からは石製の硯も使われるようになり、中世には石硯利用が本格化したと言われています。国内には有名な硯石の産地が複数存在しています。

茨城県の硯石としては、八溝山地の粘板岩が有名です。県西北部に位置する八溝山地(図2)は、福島県・栃木県との県境を成し、谷や低地により隔たれ、北から八溝山塊、鷲子山塊、鶏足山塊、筑波山塊に分かれています。

八溝・鶏足山塊の地層は、笠間ユニット、高取ユニット、烏山ユニットと呼ばれています。その中で、大子・常陸大宮地域の笠間ユニットでは、中生代ジュラ紀(約1億7千万年前以前)の砂岩や泥岩が見られます。また泥岩の一部は、熱を

受けて粘板岩、頁岩、ホルンフェルスに
変質しています。

これらのうち頁岩や粘板岩は、良質な
硯石となりました。大子地域(写真2)で
は「小久慈石(国寿石)」と、常陸大宮地
域では「梶畑石(久慈黒石)」と呼ばれる
八溝山地の粘板岩は、江戸時代の頃より
硯石として重宝され、水戸藩が一般の採
取を禁止したとも言われています。

では、村松白根遺跡出土土硯にも本地
域の石が利用されたのでしょうか。観察
の結果、石材は粘板岩でしたが、その産
地は八溝山地ではありませんでした。し
かし、粘板岩中には硯石の故郷を特定
する「あるモノ」が含まれていました。



図2 茨城県の地質図

(常陸大宮市史編さん委員会 2022『常陸大宮市史 別編2 自然(地質)』に加筆・作成)

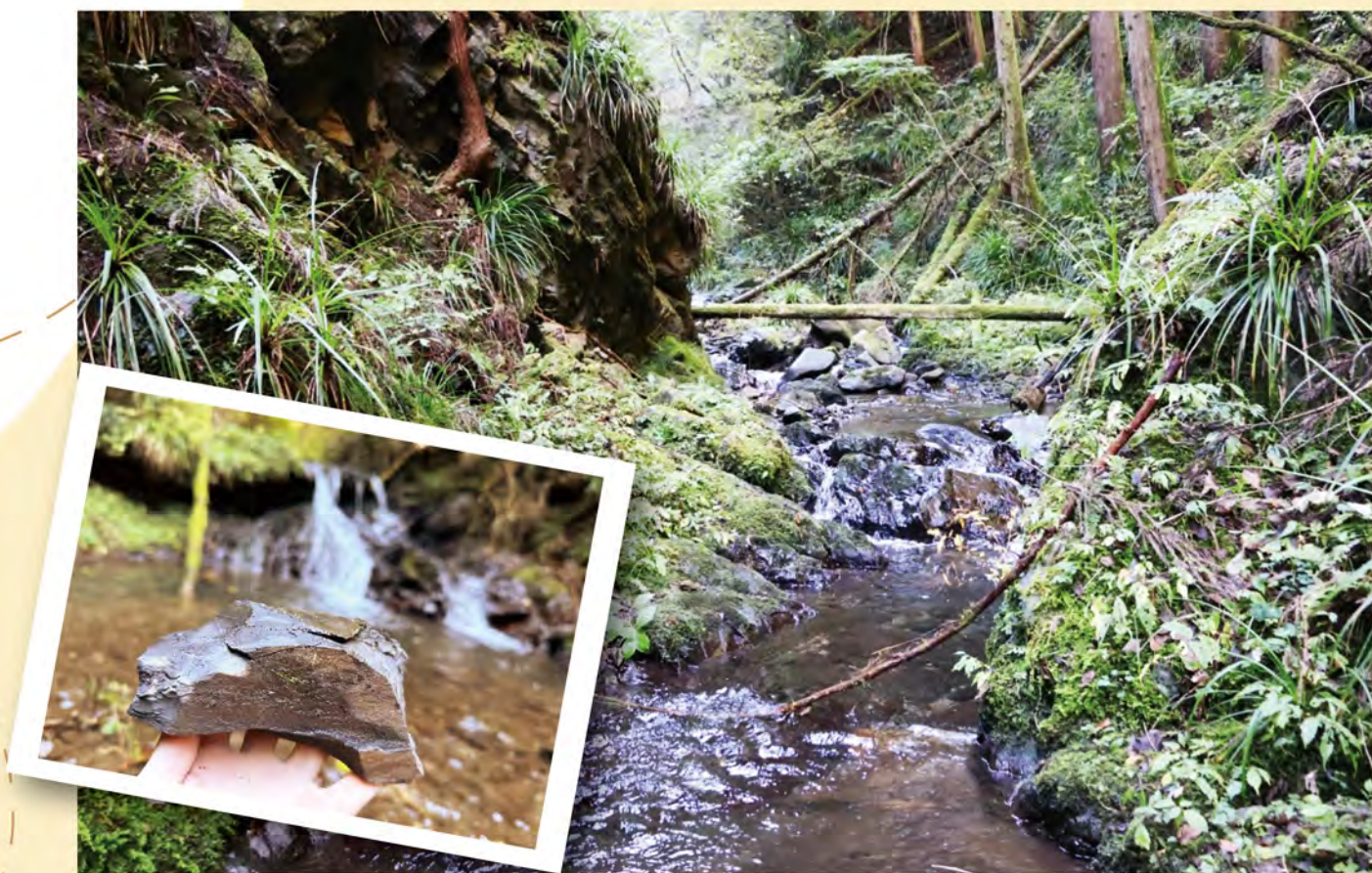


写真2 八溝山地の粘板岩の故郷(大子町槐沢)

『化石が語る硯石の故郷』

粘板岩(写真3)は、泥岩が変質した岩石です。色彩は黒色系が一般的で、薄く剥がれやすいという特徴があります。石と人との関わりを見ると、粘板岩は縄文時代以降、様々な石器・石製品の石材に選ばれてきました。現代では、八溝山地の粘板岩で作られた「国寿石大子硯」が茨城県郷土工芸品に指定されるなど、古くから人々に親しまれてきた石であることが分かります。



写真3 茨城県の粘板岩(左：多賀山地産 右：八溝山地産)

茨城県内には粘板岩の産地が複数存在していますが、村松白根遺跡出土硯には一体どの地域の粘板岩が利用されたのでしょうか。硯石の謎を解く鍵は思わぬところにありました。それは、硯の裏側の割れ口で「コケムシ(フェネステラ類)」という小さな動物の化石(写真4)を発見したことです。

コケムシは、現在も海や湖に棲息する無脊椎動物で、非常に小さな個体が集まって群体をつくり暮らししています。外側に石灰質でできた骨格をもち、その中に軟体から成る小さな動物が暮らす部屋(虫室)が沢山あります。コケムシは触手を使い呼吸をしたり、水中の微生物



写真4 村松白根遺跡出土硯中のコケムシ化石

物を食べています。

注目すべきことは、東海村周辺でコケムシ化石を含む粘板岩の産地は、宮城県南部から茨城県北部にかけて連なる阿武隈山地(高地)の南西部に限られるということです。本地域は多賀山地(図2)とも呼ばれ、久慈川を境に東海村と接する日立市の西部に位置しています。

多賀山地を構成する地層の一つである「鮎川層」からは、古生代ペルム紀(約2億6千万年前)の粘板岩が産出し、その中から「フェネステラ類」という種類のコケムシの化石(写真5)が見つかることが分かっています。

筆者らが硯中で発見した小さな化石は、まさに鮎川層に起源するフェネステラ類と同じものでした。このことは、硯石の故郷が多賀山地であることを示す重要な証拠となりました。今後、他地域の(遺跡)から出土した硯の中にも同種の化石が見つかることを期待しています。



写真5 鮎川層の粘板岩に含まれたコケムシ(フェネステラ類)化石

『驚きの発見に至るまで』

皆さんは、ある事に興味が湧いて調べものを始めた時、気づいたら最初の目的とは違うことを夢中になって調べていたという経験はありませんか。筆者の場合、今回の硯がまさにそうでした。

実は、硯石の謎を追うきっかけは、令和5年度に村北部に位置する石神城跡(図1)から出土した硯(写真6)でした。

石好きな筆者は、この赤紫色の石で作られた硯に興味を湧きましたが、石の



写真6 石神城跡出土の石製硯

種類や産地が不明でした。その後、硯の謎を解明する手掛かりを得るため、過去の発掘調査資料に当たっていた際、今回の化石を含む粘板岩製硯に偶然出会ったのです。残念ながら石神城跡出土硯の石材の特定には至っていませんが、石質から石の供給源となる地域や含まれる地層は茨城県外にあると考えられます(菊池博士談)。

当初の目的からは脱線しましたが、興味が派生して始めた村松白根遺跡出土硯の調査では、県北部における中世以降の硯石利用や流通を考える上で重要な成果を得ることができました。豊富な石材を産する日立地域の山々(写真7)は、昔から人々の暮らしを支えてきた重要な場所だったのでしよう。

今回、石神城跡出土硯に興味を抱かなければ、他の遺跡から出土した硯を見返すこともなかったため、幅広い視野で物事を見ることの大切さを改めて感じました。また石材調査では、あらゆる可能性を検証するため、県内の粘板岩産地である大子町槐沢や常陸大宮市彦沢を訪れて、実際に産地の様子を確認し、

さらに出土品との比較に必要な原石を採取しました。こうしたフィールドワークは、石器・石製品の石材解明には欠かせないプロセスであり、とくに自分の目で現地を確認することの重要性を実感しました。はからずも硯石の謎を解いたコケムシ化石の発見でしたが、硯の持ち主も見慣れた硯の中に、まさか太古の化石が含まれていたとは夢にも思わなかったことでしょう。

最後になりましたが、硯調査の実施にあたり、菊池芳文博士(千葉科学大学)、藤井節男氏に大変お世話になりました。心より感謝申し上げます。

(学芸員 中泉 雄太)



写真7 東海村から見る多賀山地(撮影地：石神城跡)

「ゆびゆび、ゆきゆき、鳥やわね」

今年度から「シエリーのネイチャーラボ」と題して東海村の自然に関する講座を実施することになった。本通信では、講座で取り上げた内容について、ゆるく楽しく、筆者の考えたことをエッセイとしてお届けしたい。

1 鳥入門

バードウォッチングの楽しさに目覚めたのは、入庁して間もない令和二年度の



ある冬の朝、二羽のオオハクチョウが優雅に飛んでいた。

冬である。東海村の環境調べ隊が主催していた探鳥会にスタッフとして参加した際、偶然会うことができたカワセミの美しさに心を奪われてしまった。その後、入ったばかりの初ボーンナスでマイ一眼レフを購入し、バードウォッチングに入門した。

自然が相手だと、「はいこつち向いて！ポーズして！」「ちよつとそのまま待って！」なんて、決して通用しない。それでも、鳥の好きそうな場所を探して長時間歩きまわり、ここだと思ったところで気配を消して辛抱強く待つて、目当ての鳥や期待以上の鳥、いわばスペシャルゲストに出会えた時の喜びといったらーそしてその鳥たちの生き生きとした姿をカメラに収められたとき、本当に嬉しくて仕方ないのである。

2 鳥もとりどり

真新しい一眼レフを片手に揚々と歩き回ってきた私だが、四年間を過ごしてみるとなかなかたくさん鳥たちに出会えたのではないかと思う。試しに、真木広造・大西敏一・五百澤日丸『決定版 日本

の野鳥650』（平凡社）のページを繰りながらこれまでに東海村で見かけた鳥たちを数えてみると、怪しいものを除いても七十種ほどに出会えていることが分かった。その二部を紹介したい。



村松で出会ったカワセミ。

村松のカワセミ

近場でカワセミに出会いたい方がいたらぜひおすすめしたいのが、村松地区の新川や用水路の近辺である。あの辺りには結構「出る」のである。カワセミ以外にもたくさん鳥は見られるので、冬に鳥探しをしながら歩くならぜひ挑戦していただきたい。

カワセミに話を戻そう。ある時、用水路にかかる橋の上で、あー、カワセミいな

いかなー」とぼんやりしながらカメラを手持無沙汰にいじっていた。すると、カワセミに会わせてくれるご利益のある神様かなにかの耳に、私の願いがたちどころに入ったらしい。不意打ちで、橋の下からすぐ近くの草の枝の上にメスのカワセミが飛んできて留まった。まさに大チャンスである。というのも、カワセミは警戒心が強く、三十メートルよりも近くには近づけないのである。それが、たった十メートル先に現れて、どうぞお撮りください！とばかりにカメラ目線をくれている。

さすが「映え」を分かっている彼女は、つややかな翡翠の背を数アングル撮らせてくれた挙句、水面に張り出した枝の上に移動し、狩りの様子まで特大ファンサをかましてくれた。カワセミの神様、いるならありがとう。獲物を狙って真剣に水面を見つめる横顔、完全に惚れました。そうして二分ほどそこにいた彼女は、やがて「チー」と一声鳴いて、上流の方へ一目散に飛んでいった。



水面を真剣に見つめ、獲物を狙うカワセミ。



小魚を獲るのに成功し、食事を楽しむ。

虚空蔵尊の雑木林のフクロウ

村松の虚空蔵尊の奥之院周辺には、雑木林が広がっている。毎年春になると、ここにフクロウが子育てをしに来ると聞いて、ある時期の夕方張り込んでいたことがあった。

張り込みをはじめたまさにその日、なんとさっそくフクロウに直面することができた。数羽のガラスが「ギャーギャー」とモビング※をする声が聞こえてきたので、そちらへ行ってみると、ガラスに追われたフクロウの成鳥が目前の木の枝に留まったのである。フクロウが私の方を向き、二秒ほど互いにじっと見つめあった。そして、ほとんど放心状態の私を置いて、フクロウは飛び去っていった。

この時はあまりに一瞬のことであったので、残念ながら写真に収めることはできなかった。悔しがりつつ、それから数日間張り込みを続ける。すると、四日目にして、巣立ちをしたふわふわのヒナが枝の合間に姿を現してくれた。成鳥のときは安心してしまったが、今度ばかりはとカメヲを構えると、ヒナは二ポーズだけ撮らせてくれた。そしてすぐ、青々とした若葉の茂る森の中へ、姿を消してしまった。



ヒナ特有のもふもふ感はまるでぬいぐるみのよう。

久慈川に集まるサギたち

夏になると、背が伸びてきた青い稲の苗の間に、白くて首が長い鳥がしゃなりしゃなりと歩いていることがある。彼らは

サギと呼ばれる鳥たちで、東海村ではアオサギ、ダイサギ、チュウサギ、コサギ、アマサギ、ゴイサギの六種に出会うことができる。特に、夏鳥であるアマサギが、橙色の頭を伸ばして青畝の中にたたずむ様子は本当に美しい。このサギたちは、初春から初秋にかけて、久慈川の河畔に茂るメダケの林にコロニーを作っていた。残念ながらこのコロニーは解消してしまったようだ。村内にコロニーを移転したらしく、専門家と追跡調査を実施している。



久慈川のサギのコロニーの上空を飛ぶアマサギたち。オレンジ色の頭部が美しい。

草むらを行くキジ

おそらく、多くの東海村民にとって身近な鳥であるキジ。草むらが軽くガサゴソと音を立てているときは大抵彼らなのだ。



キジのつがい。メスの居場所が分かったら鳥探し上級者である。

春の初めのある日、桜の調査のため外に出てみると、橋の下で草むらからガサゴソと物音が聞こえた。小枝を踏み折るような音は聞こえないので、イノシシのような大きな動物ではないだろう。顔を出して何がいるか覗いてみても大丈夫そうだな、と判断して、そっとのぞき込むと、キジのつがい※が歩いていた。ちょうどこれから繁殖期という時期だったので、成立したペアなのだろう。食べ物を探していたのか、巣を作る場所を探していたのかはわからないが、私に見つかったことを察して、はたと動きを止めてこちらを見つめてきた。お邪魔のようなので、数枚だけ写真を撮らせてもらい、私はすぐに首を引っ込めた。

キジに出会う度感心するのが、オスと

メスの色合いの対比である。オスは派手な色だが、メスは地味な保護色^{※3}だ。草むらに紛れるキジのメスは、遠目からではまず見つけられない。その様はまるで忍びの者である。一方で、キジもしかしだが、鳥のオスに派手な色が多いのは、「こんなに派手で天敵にも見つかりやすいくらい目立ってるけど、天敵に狙われる数々の修羅場を切り抜けてこれるくらい俺は強いんだぜエ」というアピールに役立つのだから。

3 鳥の声をききたい

そうこうして、初心者ながらもバードウォッチング歴四年となった私であるが、鳥を撮っていて痛感したのは「もっとたくさん鳥がいるはず」ということであつた。アオサギのような大きな鳥は遠目にもわかるし、カモ類は声が大きくすぐ分かる。だが、小鳥たちはどうしても警戒心が強く近づけないうえに、小さいので遠目にはそこにいることがいまいち分からないのである。声はたくさん聞けるのに、写真に収められたのは0羽、ということもしょっちゅうであつた。

それでも、どんな鳥がいるかを知るにはまだ解決策があつた。それこそ、鳥の声を聞き分けるということである。ふだん私たちが耳にする鳥のさえずり^{※4}や鳴き声というのは、多くがスズメ目（スズメ

のなかま）である。いわゆる「小鳥」と称される鳥たちも大部分がスズメ目に分類される。つまり、私が見つけるのに失敗してきた小鳥たちは、鳴き声を聞き分けることさえできればそこにいることが分かるのである。そもそも、鳥の種数で一番多いのはスズメ目の鳥たちなのに、今までこれに取り組まず何をしていったんだろうかと過去の自分を恨めしく思いながら、鳥のリスニング教材に取り組んだ。

外に出る用事があるときは、五分ほど暇があれば鳥の声に耳を傾けた。最初はどうしても鳥を目で追いたくなつたが、まずは目を閉じて、聞こえる音に集中した。目で見える情報を遮つてみると、不思議と二羽一羽の音が鮮明に聞こえてくる。いつも聞き流していた鳥の地鳴き^{※5}にも、こんなにたくさん種類があるのか、と感嘆したり、「ぐぜり^{※6}」という鳴き方があることにも驚いたり、一方でさえずりらしいさえずりを聞くと、その美しさやバリエーションに心打たれたり。鳥の声を聞くのはなんだか忙しいが、それでもとても楽しかった。

この体験をぜひ共有したく実施したが、十二月一日開催の「シェリーのネイチャーラボ」^{※7} 鳥の鳴き声だーれだ？」である。当日は、鳥好きの村民の方が四名集まってくださつた。冬の交流館周辺で聞こえる声や見かけた鳥たちを、



冬になるとみられるジョウビタキ。
地鳴きは「ヒッ ヒッ カッ カッ」。

音声と写真で紹介して、交流館前の広場と、歩いて三分のふれあいの森公園に繰り出した。当日は、メジロ、ヤマガラ、シジュウカラ、ヒヨドリ、ハシブトガラス、ハクセキレイ、ジョウビタキ、コゲラ、スズメの音が聞こえた。声の方向を探すと、近くに寄ってきたヤマガラや、木の幹をコツコツたたくコゲラなどに会えた。

ふれあいの森公園は、冬になるとナンテンの実がたくさん実るうえ、木や生垣に隠れやすいのがいいのか、実はとてもたくさん野鳥に出会うことができる。そのほとんどが小鳥なので、目で観察することはなかなか難しいが、彼らの声に耳を澄ましてみてはいかがだろうか。よく目にする鳥たちの声が意外と分らなかったり、これはこの鳥！と思ってい



ふれあいの森公園にいたシジュウカラ。
「ツツピーツツピー」「ツピーツピー」などとさえずる。



ヒヨドリは大きな声で「ピーヨ ピーヨ」と鳴く。
まれに歴史ドラマでも声だけ出演する。

たら、別の鳥が鳴いていた、なんてこともあったりして、なかなか面白いものである。

4 とりどり、ときどき、鳥さき

【用語解説】

※1 モビング

鳥の鳴き声の勉強を始めて感じたのは、鳥を探すというのは、私の場合ただ観察することとか、聞いて楽しむだけではないのだということである。生き生きとした姿を見たい、写真に残したい、その鳥がなんという名前なのか知りたい、彼らがどう鳴くのか知りたい、そしてそれを実際に聞きたい。それらがすべて合体すると、私の鳥を探す行動というのは、「とりどりの鳥さき」とでもいうべきものなのだと思う。今号のタイトルも「鳥撮り」と「とりどり」、「鳥聞き」と「鳥さき」をかけてみたものである（拍手喝采！どうもありがとございます）。鳥を語るにはまだ若輩者かもしれないが、私の鳥さきが村民の皆様のご興味にこたえられる活動となっていれば幸いである。

※2 つがい

繁殖期のオスとメスのペアのこと。鳥によつては、繁殖期が終わって子育て期になっても、つがいで子育てをすることもある。

※3 保護色

生きものが持つ、周囲の環境に溶け込んで天敵に見つかりにくい色や模様のこと。鳥の場合は、子育てをすることが多いメスの方が保護色を持つ傾向がある。

※4 さえずり

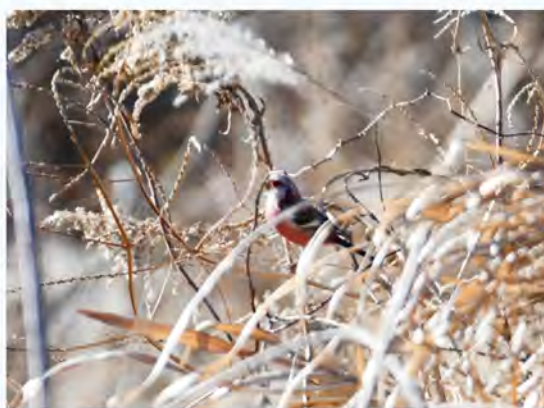
繁殖期になると発する、歌声のような美しい鳴き声のこと。ウグイスの「ホー、ホケキョ」もさえずりである。

※5 地鳴き

一年を通して発する、地味で単純な音で構成される鳴き声のこと。繁殖期以外に聞こえる声はたいいていの鳴き方である。ちなみに、ウグイスの地鳴きは「チャッ チャッ」である。

※6 ぐぜり

さえずりに似ているが、より小さな声で発する鳴き声のこと。



久慈川の河川敷の草むらで見かけたベニマシコのオス(右)とメス(左)。オスはきれいな紅色のおなかと目が印象的である。メスは背中しか見せてくれなかったが、それもまたかわいいものである。



東海村古文書調査隊

塙南家文書調査報告

東海村古文書調査隊の活動は、令和4年9月から始まりました。まる博研究員を中心に毎回10名程の参加者とともに活動しています。昨年度まで約1年半をかけて、「須和間住吉神社資料」を調査してきました。宮司がもともと大洗磯前神社の祢宜であったことから、東海村だけでなく、大洗町の貴重な資料が含まれることや日本近代の神社がどのようなものであるかを知ることができました。令和6年度は、歴史と未来の交流館所蔵の「塙南家文書」を調査しました。また、襖下張り調査を並行して行いました。



9月の活動にて、村松大神宮の御用留を翻刻した時の様子。写真掲載の班は、ヤンサマチ記述の箇所を翻刻しました。11月から企画展のキャプションとして成果が生かされました。

1、今年度の活動

基本的な活動は、目録作成、翻刻（くずし字を解読して文字起こしをする）の2つをとって調査を行いました。昨年度までの活動で、崩し字や近代文書に慣れてきた参加者が多く、翻刻作業をとって、より詳細な調査を行うことが出来るようになってきました。

●4月…今年度調査を行う①「塙南家文書」の概要及び塙家の確認、②常陸太田市茅根の襖下張り文書について、地誌情報及び襖下張り文書の調査方法を確認した。最後に襖下張り文書の調査を行った。

●5月…前回行った襖下張り文書の成果を確認。2班に分かれ、①襖下張り文書の剥離作業、②塙南家文書について、合計28点の目録作成。

●6月…前回の塙南家文書調査の確認。塙千里氏が戦時中に武山海兵团にいたことや、村松軌道関係の文書があったことが分かった。塙南家文書について、36点の目録作成。

●7月…前回の振り返りとして、千里氏の学生生活に関わる文書や妻貞子氏関係の資料について確認。2班に分かれ、①父から貞子氏への手紙、②千里氏の父・南可氏と村松虚空蔵尊の関係について書かれた資料をそれぞれ翻刻

●8月…前回翻刻した資料について、メンバーで考察。「メートル」という表現について、メンバーより参考資料の提出があり確認した。塙南家文書について、31点の目録作成。

●9月…前回の振り返りとして、南可氏の祝儀関係、塙家葬送（神葬祭）関係、塙節子氏（塙南可長女）華道関係があったことを確認した。また、前回目録を作成した御用留について、翻刻作業を行った。

●10月…前回の翻刻について、崩し字や御用留全体について把握・確認。寛政4年ころの御用留で、塙家が村松大神宮の祠官であったことから、水戸藩の寺社奉行所から大神宮への御達が内容の中心であった。活動は引き続き御用留の翻刻作業を行った。

●11月…前回の振り返りとして、朱印地・除地など江戸時代の寺社制度について確認。11月に始まった企画展をおして、塙南家文書の調査成果や塙千里氏の

短歌、塙南可氏の日本画などを鑑賞した。

●12月…襖下張り文書の調査。近世の年貢割付帳部分について、翻刻作業を行った。

●1月…前回の振り返りとして、近世によくある人名とその崩し字の確認を行った。

また前回論点として挙げた印鑑について、千葉真由美氏（茨城大学教授）論文をもとに確認した。引き続き、襖下張り文書の年貢割付帳部分について翻刻作業を行った。

●2月…今年度の振り返りとして、塙南家文書・襖下張り文書の成果を確認した。どちらも調査は完了しなかったため、来年度も継続することとした。



襖下張り文書を翻刻している様子。東海村古文書調査隊の活動をはじめて、2年以上が経過し、崩し字を読むことに慣れてきたメンバーが多く、教え合いながら正確な翻刻文が書かれています。

2、文書群概要

塙南家文書は、歴史と未来の交流館所蔵の文書で、東海村村松にある旧家に残されていた資料を寄贈していただきました。同じ家の資料の一部が「塙千里家文書」として茨城県立歴史館に所蔵されています。同館の解説には左記のように書かれています。

那珂郡村松村内の鎮守等の祀官として、社例の神祭・神事等に関わったとされる塙家に伝えられた史料300件513点。本資料群には、虚空蔵堂と村松大神宮の関わりを示すものや、村内鎮守の神事やその執行をめぐる庄屋から寺社奉行宛願書などが含まれており、在地における宗教問題を検討する上で極めて貴重な史料である。

塙南家文書は、近代が中心で、塙南可氏・塙千里氏に関わる手紙やハガキといった資料が多くを占めます。調査未了のため、文書群全体の点数は分かりませんが、およそ700点と概算できます。このうち本年度の調査では、80点近くの資料を調査しました。点数の半分近くを占めるスケッチは、画家であった塙南可氏が描いたものです。木村武山最後の門人といわれ、花鳥画が中心です。また虚空蔵尊の僧侶であったことから、仏像の研究のため仏画を描いたことが分かっています。

10点近い襖には歌人・塙千里の短歌が直筆で書かれています。この襖で構成された自宅の和室で、歩道短歌会茨城北部支部をひらいていました。ハガキや手紙、千里氏と交流のあった人たちからの聞き取り調査をおして、南可氏と千里氏の人物像が少しずつ明らかになってきました。来年度の調査完了を予定しています。

3、資料紹介

拝啓一月二十日お前御はがき昨日拝見いたしました。
お変り無く元気で通勤している由何より結構です。

寒い時は体も重いし、道路も悪いし、自転車通勤はなかなか骨が折れましよう殊に身重の体では僕は相当無理をして少しくらいの病気はがまんして欠勤をしなかったが今考えればそれが別段このためにもなっていないような気がします。そのために反って子供や先生方に迷惑をかけたではなかったかと思う位ですが、それはそれとして女の先生は僕から見ればもつとやれないかなと思ふことが随分あるようですから精々頑張ってお勤めなさい。それから僕も遠いところ（三里位は）通勤もしたが、ろばた等でつまらない話を訊くなくれば決して他の人より仕事が遅れるようなこともなし三十四年間御家まで学校の仕事を家まで持つて来た等は殆どなかったような気がします。

昨年はポナスをたくさんいただいたそうですね、結構なことでした。お家の方々へもお年玉をいろいろおあげ出来たとの事、皆さんどんなにかお喜びになったでしょう。僕は先月は保険を一八〇万ばかり契約いたしました。

（全部先生方でした）僕の家でも七〇万契約しました他に何か無くても子供等の学資にも大体安心です。

だが着物等は勿論余計な物等は何一つ買はない事に家中でやっていきます。（でもふろば、井戸、かまど、おかつてなどは現代なみに改造しました。電燈も一月中にはメートルになる予定）あると思つて出したらいくらあったって

何時かが足りないから、そのつもりで僕は収入もないから何も遣ふ気にならないから大して金に不自由もしない

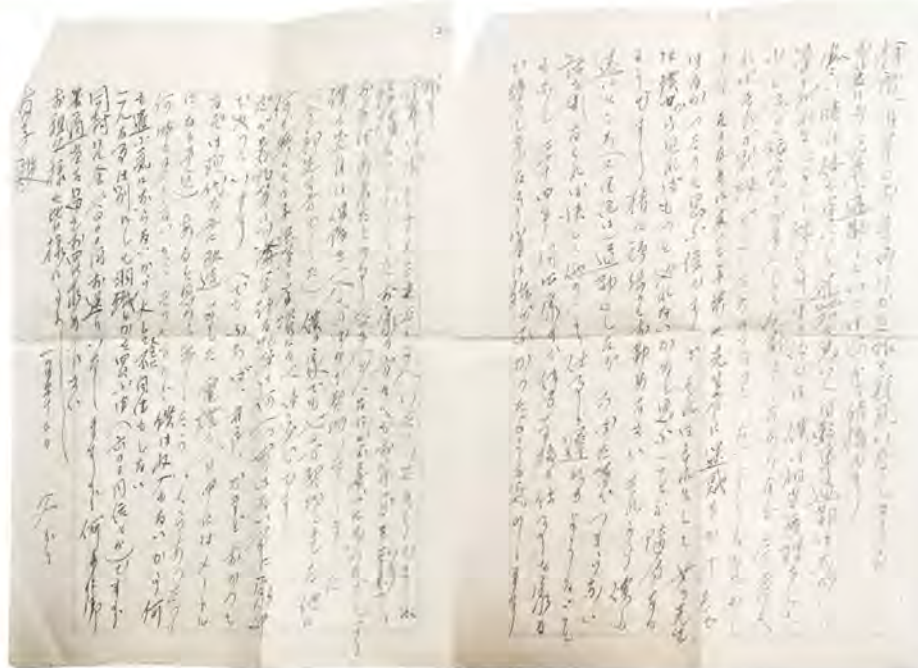
こんな事は別にして羽織とかを買う位（六〇〇円位とか）ですから同封見金二〇〇円お送りいたしますから

適当な品をお買求め下さい
お祖父様や皆様によろしく

一月二十二日 父より

貞子殿

塙千里の妻・貞子氏へ、父・會澤準氏から送られた手紙を掲げました。父娘ともに教員をつとめ、仕事の苦労や家事、人間関係への心配などが書かれています。貞子氏が書いた家計に関する資料や学校事務の資料が見つかっており、父・準氏が慮るようなことが実際にあったと考えられます。古文書調査活動において、父の心情や塙千里・貞子夫婦の関係性と時代性について話し合ったほか、史料中の「メートル」という表現が調査課題となりました。調査隊メンバーの調査結果、漫画『サザエさん』に電気メーターを計測する人が「メートル屋さん」と呼ばれている場面がありました。明治時代以降の様々な資料と勘案し、英語の「meter」を日本語では「メートル」または「メーター」と表現し、現代と逆の呼び方をすることが分かりました。



寛政四年子九月

村松神社

一、鳥井

〈高七尺但シ樽木迄、横七尺〉

一、馬場

〈鳥居元より石壇下迄長四拾間、横八間〉

一、玉串門

〈表四間、妻式間〉

一、神供所

〈表四間、妻式間〉

但シ入もや作り

一、神楽所

〈表三間、妻式間〉

入りもや作り

一、向拝 破風

〈表六間、裏二間〉

一、本殿 但し三宝入もや

〈表九尺、裏七尺〉

一、玉垣 折廻シ

式拾壹間

宮中末社

鹿嶋社 天神社

天王社

稻荷三社 富士権現

津明神

大杉明神

右之外末社無御座候

一、宝物之義ハ前々より無御座候

居宅

一、長家門

〈表式間、走り五間〉

但し入りもや作り

一、居宅之儀者当六年已前未ノ歳焼失

仕、小家掛同様二御座候間書上不申候

全ク村分

一、百姓地山

式丁五反歩程

但シ裸山二御座候

一、百姓地山

五反歩程

但シ裸山二御座候

一、社山

式反歩程

右之外山所持不仕候

御朱印式拾三石

内 拾五石八斗三升 田

拾壹石九斗八合 畠

式石五升三合 屋敷

右之通り少も無相違書上申候以上

寺社御奉行所

村松大宮司



明治時代の神社資料や現在と境内社や末社、建造物の様相が異なり、寛政4年(1792)当時の村松大神宮の様子がわかります。宝物がないとされ、水戸藩主光圀から献上された宝物がないかのような記述になります。居宅が小屋掛け同様、つまり仮の建築物のような状態になっていることから経済状況が推測されたり、村松村持ちの山林は「裸山」とあり、薪が材木資源として大いに使用されていることなどが伺えます。

4、展示

塙南家文書調査による成果の一部が、令和6年秋季企画展「塙南可・千里展－むらをうつす－」で披露されました。この企画展は塙南可氏・塙千里氏のそれぞれ画家・歌人の一面を取り上げたもので、兩人の人物や人間関係、家系図などについて、東海村古文書調査隊の活動成果が反映されました。



令和6年秋季企画展
「塙南可・千里展－むらをうつす－」 御用留の展示箇所



寛政4年(1792) 御用留

掲載箇所には競馬行事(ヤンサマチ)の事が記されている。現在の東海村・ひたちなか市域にある村から馬が集まり、競走馬となっていることがわかります。昨年度まで調査していた須和間村も含まれています。

同年四月九日祭礼		寺社方立会
		小川勘介殿
		御郡方
		江橋吉衛門殿
同		
金久十衛門馬	下高場馬	奈左衛門馬
一横道	二須和間	三高野村
金久甚介馬	嘉吉馬	大野馬
四横道	五高野村	六横道
引馬		
一、競馬		
篠原半左衛門殿		

【襖下張り文書の調査】

常陸太田市茅根町の旧家の解体工事に伴い、調査依頼のあった襖下張り文書の調査を東海村古文書調査隊で行いました。

下張り文書は3～4層の構造になっていて内側から①江戸時代の年貢割付帳 ②大正時代の税金関係書類(白紙) ③昭和9年ころの読売新聞が貼られていました。

年貢割付帳について、翻刻作業などを通じて調査を行いました。資料の状態が悪く、きれいに剥がす事が難解だと判断し剥がしていない部分も多くあります。このため、割付帳を復元することは難しく、年代などもわかりませんでした。しかし調査の結果、下記のことが分かりました。

- 田んぼの等級が「いろは」、畑の等級が「イロハ」と表現されていて、他事例との比較から水戸藩天保検地より後の年代と考えられる。年貢率は下記のとおり。
〈田んぼ〉別：43% イ：36% ロ：32% ハ：20% 〈畑〉別：43% い：34% ろ：27%
- 田んぼと畑の比率はおおむね1：1である。
- 茅根村は石高362石で、村内に組が3つある。石高が362石であることから、赤須村と合併した天保13年以降の資料であることが分かる。

崩し字に慣れてきたメンバーが増え、今年度は史料翻刻をたくさん行うことができました。秋季企画展については、東海村古文書調査隊の力なしには実現できませんでした。また、まる博研究員第3期生の加入もあり、とても充実した活動を送ることが出来ました。

高増 慧





まる博講演録



《東海村そして茨城県の名桜―記録の系譜》

(3月24日)

坂野 秀司(常磐百景PROJECT代表)

みなさんはじめまして坂野と申します。

ご紹介いただきましたように茨城県の名桜とその歴史を記録しています。そしてその記録を講演や桜番付、ウェブサイトなどで発表するという活動をしています。早速ですが講演を始めたいと思います。

徳川光圀公の言葉に「彰往考来」という言葉がありまして、これを私はとても大事に考えております。過去を明らかにして未来を考えると、言葉でして、歴史というものは、いま私たちがどこに立ってどこに向かつて歩いていくべきかという、ひとつの座標になるかと思えます。ですので歴史を知ることがとても大事ではないかと思えます。今日は前半に記録の歴史を紹介します。茨城県の桜は実に多様な記録が成されてきました。それらをダイジェストで紹介していきます。

スライドがとてたくさんありますが、今日の会場は東海村なのでここから行きます。幕末に徳川齊昭とていふ偕楽園を造成した有名な水戸のお殿様がいますが、その右腕として活躍した学者に藤田東湖がいました。藤田東湖は水戸藩下屋敷で謹慎していた時に『正気歌』を書きまし

た。正気歌というのは、国学を取り入れて尊王の心を大事にする、日本という素晴らしい国の中心に天皇がいるということが詠われた漢詩です。その歌の中に「発いては、万朶の桜となり」という一節がございます。これが後々日本人の桜花観に大きく影響していくことになります。

万朶の桜というのは日本人が持つ「正気」の象徴、正しい心持の事だといっています。(前半の部分を)少し訳してみますと、「世の中にある正しい気は純粹清らかで日本に集まっている。それは地を駆け巡り富士山となり威厳をもって幾千年もそびえたつ。さらに流れては大海原の水となり日本をめぐる。そしてたくさんの枝に咲き誇る満開の桜になり、他の多くの花々とは比較にならないほど美しいのだ。」いわゆる日本人の心の象徴を桜に例えているのです。なぜこの正気歌を紹介したかというと、ここ東海村の名前はこの歌の一節「卓立す東海の濱」からきているからです。正気歌と東海村はゆかりがあるということです。この正気歌が日本人の桜花観に大きくかわって来るといふことになるのです。

日本ではじめて桜の本を出したのは、

彰考館で『大日本史』を編纂していた青山延光です。この方が書いた桜の本には、全国の桜の名所や桜の神様の話、各地に伝わる名桜の話が載っています。その中で今の桜川市の「名勝桜川」が関東最古の桜名所であるとか、その桜川から江戸小金井に桜が移植されたであるとか、常陸太田の旌桜寺という源義家ゆかりのお寺なども徳川光圀も関わりがある桜名所として紹介されています。

文天祥 正氣ノ歌ニ和ス(正氣の歌)

藤田東湖



正氣の歌

誰力能ク之ヲ扶持ス
卓立ス東海ノ濱
忠誠皇室ヲ尊ビ
孝敬天神ニ事フ

藤田東湖の姪の豊田英雄は日本最初の保育士で、茨城最古の女学校「発桜女学校」の教師でありました。発桜というのには正気歌の「発いては、万朶の桜となり」から

とられています。正気歌がつながっていくということですね。豊田英雄は童謡の『ちようちよ』の作詞をした人といわれています。『ちようちよ』の歌詞には「さくら」や「栄える御代」という言葉が出てきます。これはまさに正気歌というわけです。

そして今日の話のキーマンにもなります。洪沢栄一。数年前に大河ドラマの主役に取り上げられました。今年1万円札が洪沢栄一になりますが、洪沢は藤田東湖の正気歌を大変気に入っていました。様々な演説で「万朶の桜」の部分を引用しています。水戸の尊王攘夷の尊王の部分に惹かれていた人で、その精神「万朶の桜」という考え方を仕事に活かしていこうとした人です。

明治26年に『新編桜花集』という歌集が出ます。ここにも旌桜寺の旗桜などいろいろな名桜が載っていますが、先ほどの『桜史新編』という桜の歴史書からの引用が多くみとれる本になっています。

ここで日清戦争が起こります。明治になり、近代化、国民国家化、欧米列強と戦って負ければ植民地になってしまうという状況の中で、日本国は強くななければいけないという時代です。今の桜川市の名勝地が江戸時代までは全国的にも有名で1000年の歴史がある名勝地ですが、明治時代になって少し廃れていました。ここで桜川の石倉重継さんが桜川の事蹟を調べて全国に発表しました。これ

が『櫻川事蹟考』という文献です。このことが後の桜川に大きく影響してきました。石倉重継さんは『名勝雑誌』というものも出して、桜川のことや源義家ゆかりの常陸太田旌桜寺の桜の事などを書いています。

『花はさくら』これも参考文献に『桜史新編』が入っています。水戸光圀公の桜の逸話や桜川の桜が隅田川に移植されていることなどの歴史が語られています。「東国にて古より花をもつてあらわれたるは常陸の桜川なり」と、桜川は当時から圧倒的な知名度があったことがわかります。

明治34年、高萩出身の松村任三がソメイヨシノの学名を登録します。NHK朝の連続テレビ小説「らんまん」というドラマで、牧野の上役で登場した東京大学の徳永教授のモデルが松村教授で、牧野富太郎に教えた立場のひとです。小石川植物園の初代園長でもありまして、小石川植物園のソメイヨシノを標本木として学名登録したといわれています。松村任三の弟子に桜博士の三好学がいます。

ここで日露戦争がありました。大変大きな戦争です。明治37〜38年にありました。日本はその日露戦争に苦労して勝つのですが、その直後に『桜川戦勝記念誌』が発行されます。ここでもまた桜川の事が語られるのですが、この本の題字が陸軍大将の児玉源太郎です。政治や軍と桜がつながっていきます。その次の年、有名な軍歌が造られていきます。『歩兵の本

領』に「万朶の桜が襟の色花は隅田に嵐吹く大和男子と生まれなば散兵線の花と散れ」とあります。これはつまり万朶の桜という本来であれば日本人の正気の象徴、正しいもの、美しいものとうたわれたものが、今度は桜のように散ってこいという軍歌にかわっていく、桜が軍事利用されていくのです。

この頃、先ほどの桜博士三好学、そして桜が大好きな徳川頼倫が桜川に視察に行きます。大正2年には林学博士本多静六が、『大日本老樹名木誌』という本を出します。これは巨木をまとめた本なのです

が、その中の桜のコーナーで茨城県は常陸大宮市の「大宮の大桜」という桜が出ています。今は現存していない桜なのですが、別名「墨染めの桜」として源義家公御手植えの伝承があった桜です。そして本多静六は巨樹の番付を出します。これは素晴らしい番付で、今回の展示では安嶋先生が拡大して展示されました。その頃、日立鉾山による煙害が大変な問題になっていた。住民の代表が関右馬允で、日立鉾山と交渉して最終的には日本一の大煙突を造るということがありました。この話は何年前に映画化されて、主役の関根三郎のモデルが関右馬允です。この問題が解



決したあと、荒廃した山々を回復するためにさまざまな樹木が植林されました。そのメインになったのがオオシマザクラでした。伊豆大島原産の桜で、伊豆諸島は噴火の多い島が多く、煙にも強いだろうということで選ばれて、なんと260万本が植林され、同時に72万本が日立市内に無償配布されて広まってきました。農事試験場では強いオオシマザクラを台木としてソメイヨシノを接ぎ木で大量生産していきました。その農事試験場がこの近く、東海村にあったということで、実は日立の桜の歴史にも東海村という地域はゆかりがあります。そのソメイヨシノを社宅や学校、鉾山住宅沿いに2000本ほど植林して「さくらの街ひたち」がスタートしたのです。

『茨城県地誌』という本には勝田百色山が出ています。これは徳川光圀が百種以上の樹木を植えた樹木林です。江戸藩邸の小石川の方からも移植して造られたということが載っています。また、「名勝桜川磯部稲村神社に巨桜あり、関東の一名鏡」とあり、桜川にも触れています。

この頃東京で「桜の会」というのが発足しました。この会長が渋沢栄一、名誉顧問に徳川頼倫、顧問に三好学ということで、錚々たるメンバーが桜の雑誌にかかわり連載を始めます。

大正8年『全国大桜番付』というのが東京朝日新聞に寄稿されます。浅田淵橋という方が寄稿するのですが、幹周り、これ

は人間というウエストですが、3メートル以上の巨桜100本を番付にしたものです。すごいことに茨城県は100本中8本。特筆すべきは39・40番に同じ場所、磯部地区の「桜川」から2本選ばれていることです。普通全国100本の番付といったらあちこちから選びますが、2本選ばれているのは桜川の威厳あればこそです。

この頃茨城町の大戸の桜の樹勢が全盛期でした。いま国指定天然記念物になっていまして、三好学が日本一のヤマザクラといったほどの素晴らしい桜です。その三好学が、『桜に関する図書解題略』、いわゆる桜の参考文献の一覧ですが、その中で日本の七名所が紹介されています。1番が吉野山、2番が桜川、3番嵐山・嵯峨、4番隅田川（隅田川は桜川の山桜が移植されて歴史が始まっています）、5番上野山（こも桜川の山桜が移植されたといわれています）、6番小金井（こも桜川・吉野の山桜が移植され交互に植えられました）、7番荒川堤、ということ7名所中4つが桜川に関わる名所であったということになります。それだけ桜川が偉大だったということです。

『桜花図譜』という本があります。昔はカメラはまだまだ高級品で出回っていませんでしたので、絵に描いて桜川の桜11種を図譜にしています。のちに国指定天然記念物になる11品種です。またその

解説版も発行されました。

大正11年に霞ヶ浦海軍航空隊が設立されます。土浦は海軍の町なのですが、今でも繁華街に桜町という町名があります。昔はもつと区分が細かくされていました。その中には敷島町、大和町、匂町、朝日町、小桜町がありました。この隣には桜川市からつくば市、土浦市と流れて霞ヶ浦にそそぐ「河川・桜川」があります。敷島の大和心を人間はば朝日に匂ふ山桜花」という桜の世界で最も有名といってもいいでしょう。本居宣長の和歌から町名がとられているのです。こういったところからも桜と海軍の関係がわかります。そして大正11年に借楽園が名勝地に指定、関東大震災後に桜川が名勝地に指定されました。今年で名勝指定100年になります。

洪沢栄一が揮毫した書があります。「発いては、万葉の桜となり凝っては百鍊の鉄となる」。ここでも洪沢栄一は正気歌の「万葉の桜」を大事にしていたことが分かります。

大正14年『桜名木番付』を松川二郎さんという人が発行します。勸進元は「京都御所の左近の桜」にしています。関脇に三春の滝桜が入っていたり、前頭に常陸大宮の大桜が入っていたりします。この頃の温泉案内書にも桜川の桜や土浦城址、藤田東湖のお墓や瑞竜山などが名所案内に載っています。

昭和3年『老樹銘木誌』という古い木を記録した本にもたくさん茨城県内の桜が記録されています（13本）。現存しているものは黄色の字で書いたものだけです（3本、茨城町大戸の桜、潮来市築地の御手植桜、桜川の桜）。大戸の桜は昭和7年に国の天然記念物に指定されます。真ん中に写っているのが三好学です。

徳川光圀が那珂川沿いに百種類の樹木を植えた百色山が廃れていました。そこで木村伝兵衛という方が光圀公生誕300年にあたる昭和3年に計画し、昭和8年に開園したのが、今の水戸にある百樹園です。ここには牧野富太郎も現場にきて指導しました。牧野富太郎関わった庭園が水戸に在るのです。

三好学が大戸の桜の調査報告書を出したのが（昭和9年）、『櫻の日本』（佐藤太平）という本では全国の名桜が紹介されていますが、真ん中にあるのが巨大な桜川の山桜です。また、三好学の『日本巨樹名木図説』にも常陸大宮の大桜などが紹介されています。

そして、大きな出来事に『茨城県巨樹老木誌』の出版があります。日立鉾山で大煙突を建てるに至るまで村の代表として交渉した関右馬允が、被害の記録をするために買ったカメラで、今度は茨城県内の巨木を撮影して回りました。そして『茨城県巨樹老木誌』として上下巻にまとめ

した。ここまでの事例は全国にもございません、すごい偉業だと思います。この本の題字に牧野富太郎と三好学、そして本多静六が序文を書いています。このような日本を代表する人たちが関わるほどこの本と関右馬允さんはすごいということです。この本の中から桜を抜粋すると、合計30本載っています。大戸の桜は上下巻どちらにも載っていますので実質29本です。現存しているのは黄色字だけです。（7本、那珂市額田神社の山桜、北茨城市西明寺の糸桜、常陸太田市泉福寺の糸桜、常陸太田市七反の枝垂桜、茨城町大戸の桜、龍ヶ崎市般若院の糸桜、石岡市神生家の種蒔桜。）これが巨樹老木誌に載っている茨城県の桜の写真です。

洪沢栄一が会長をつとめた桜の会の雑誌『櫻』から三好学博士が連載していたものをまとめた『櫻』という本があります。桜の世界では最も有名な本の一つです。この中で桜川の桜を大絶賛しています。吉野に次いで最も大事な名所であると断言しています。

関右馬允さんも本多静六に倣って茨城県内の巨樹を番付にしました。監修に本多静六が入っています。こちらの番付も本日展示されています。また、『櫻』の中の連載をまとめた『櫻史』（山田孝雄著）もあります。この本は現状で桜の歴史を書いた一番すごい本だと思います。

昭和12年から昭和20年にかけて日中戦争と大東亜戦争、いわゆる第二次世界大戦が起きます。この後半に神風特攻隊のロケット人間爆弾「桜花」という飛行機が出てきます。こちらは鹿嶋市にあるレプリカの写真ですが、この隊の名前にも桜に関する名前が多くつけられています。朝日隊、敷島隊、万葉隊、正気隊などです。

戦争が終わりまして、日立の平和通りに桜が植えられます。平和の象徴として植えられました。当時の細い桜の写真です。

昭和26年の全日本観光連盟の本『さくら』には桜川は吉野に次いで紹介されています。これも『櫻川事蹟考』の功績が大いのだと思われまふ。

そして、(昭和38年に)偕楽園に左近の桜が植えられます。

大戸の桜の所有者である当時のご主人斉藤源之丞さんが『水戸学朗誦文集』を発行します。正気歌などを声に出して読む案内本のようなものです。そして(近年)斎藤家のおばあさまに客間に案内してもらって撮った写真がこちらです。右側の3枚の襖に正気歌、左側の襖に水戸八景が書かれています。大戸の桜の斎藤さんは水戸学に心酔していたということです。

NHKの「新日本紀行」で昭和49年に三春の滝桜が取り上げられましたが、この時

「ひたち巨樹の会」の初代代表をつとめた川上千尋先生がTVの取材クルーを案内しました。(同じ年に)桜川のサクラが国の天然記念物に指定されます。そしてその記念誌も発行されました。

写真家のなかで、桜の写真家の元祖を突き詰めていった結果たどり着いたのが、藤井正夫さんです。水戸市常盤町在住です。特に『さくら』という昭和58年の本は、日本さくら会の、日本花の会のそれぞれ会長が序文を寄せるような名著です。藤井先生はその後たくさん桜の写真集や本を出されています。風景写真の世界では第

一人者で重鎮です。

ひたち巨樹の会というものがあります。私も入っていますが、そのメンバーである川上千尋さんが昭和57年から撮り集めた全国の一本桜を収めた写真集が限定で発行されました。ここに写る「諏訪の山桜」や「高原の石割桜」が全盛の頃でとても驚きました。記録というのはとても大事で、樹木の風景というのはその時その時で衰退したり変わったりするものです。こちらでも偉大な記録です。昭和50年代に全国を歩いて撮影している人はなかなかいませんのでとても貴重で誇り高い記録だと思います。



さきほどNHKで三春の滝桜を案内したのが、川上千尋先生だと紹介しましたが、先生は『茨城桜見立番付』を発表しました。最初が昭和58年、ひたち巨樹の会発足後は協力者にひたち巨樹の会が入って、昭和60年代に第2版を出しています。また協力に桜写真の藤井正夫先生、指導者に関右馬允さんが入っています。関右馬允さんは当時もう亡くなっていましたが、川上先生は関右馬允さんの功績に感銘を受けたので指導者として記載されたのでしょう。さらに金沢大学の里見信生先生が指導に入っています。安嶋先生は里見先生の教え子であり、川上先生の教え子でもあります。そうです、記録の系譜、運命的なつながりです。

昭和60年代に更新された桜番付ですが、大関に「東海村・権現山の山桜」が入っています。昔日の名横綱に大戸の桜・磯部の桜が入っています。ひたち巨樹の会が昭和60年4月に発会します。会は今も続いていて、会報誌は400号を超え合本が4冊も出ています。そのなかで見つけたのは樹医、樹木医という言葉が出る前の時代の樹の先生です。日本初の本の先生で山野さんという伝説の人がいます。川上千尋先生とお話している写真が載っていました。

桜の愛好家には欠かせない資料が『日本の巨樹・巨木林』でして、その関東版で茨城県の巨樹調査をしたのが茨城生物の会の川上千尋先生です。やはり川上先生

がここでも活躍されています。この生物の会は現在もありまして、なんと副会長が安嶋先生です。こうして受け継がれているんですね。調査本数は1540本、全国1位です。このうち桜は71本です。ひたち巨樹の会発行の『茨城の巨樹』という本に、桜川で伝説の「青柳の糸桜の二代目」が載っています。ひたち巨樹の会では、関右馬允さんが撮影した巨樹写真で本に載っていないものも含めて現像をして、目録と一緒に博物館に寄贈しています。

この当時ニュースステーションで恒例の人気コーナーに夜桜中継がありました。3年間ほど放送されたようです。これで全国的に一本桜を見に行く人が増えたそうです。もちろん当時は一本桜写真集なども出ていましたが、テレビの影響力は大きく、この番組のコーナーは一本桜ブームのきっかけになったそうです。

石川県巨樹の会、金沢大学の里見信生先生が手書きの全国巨樹番付を発行されました。

1998年にWindows 98のサービュスが始まります。インターネットの世界がやってきます。桜についてもホームページに載せるということが始まります。今はありませんが「桜巨木伝」というサイトがその元祖になります。平成10年の段階で出されていました。またこちら「気まぐれ桜旅」というサイトは中西さんという方が開いて

いるサイトで現状最古の桜サイトです。ちょうど昨日もテレビに出ていました。

私がパイブルとした本が、『茨城の桜名所』。この本には桜名所・名桜が110ヶ所載っていますが、紹介文などこの本に協力したのが安嶋先生です。また川上仁司さんも協力者に入っています。つまりひたち巨樹の会は関右馬允さんからつづく記録の歴史を継いでいる方がたくさんいらっしゃるということです。

『櫻の名木100選』が平成14年に出ました。一本桜ブームが起きていることが分かります。

数島館は全国3000本以上の櫻を調査されてた方で私の先生でもあります。

平成15年にデジタル一眼レフ、キャノンのEOS 50Dが発売されました。写真がフィルムから画像という概念に変わりホームページやブログに載せるということになり情報発信がとて容易になりました。

『大人の桜旅』というとても素晴らしい雑誌が何年も続いています。茨城県の桜もたくさん紹介されました。

桜川市も「サクラサクリプロジェクト」が立ち上がり、ブログで情報発信をしています。

桜写真の力スマ竹内敏信さんという

方が、桜写真を記録から芸術写真に押し上げました。

『関東の桜（小林隆）』という本は県単位で深掘りした本です。

私が影響を受けた「桜日和」という一本桜のサイトです。これをみて一本桜の世界に入っていました。当時はプロガーだったので、いわき市で桜のことを記事にして賞などもいただきました。

SNSがはじまり、東日本大震災が起ると、私たちの「水戸桜川千本桜プロジェクト」の活動が始まりました。震災からの復興を意図したものです。

インスタグラムのブームがきて、私も本『茨城の一本桜』を出したり、ホームページ（茨城県の桜・常陸国一千三百年の桜史）を出しました。

川上千尋先生に会って、昭和の桜番付の平成版を作りました。平成26年から発表して平成31年に平成春場所の完全版として発表しました。本日講演が終わったら皆さんに配布します。桜番付については数年後に平成令和春場所として更新版を出す予定です。偕楽園左近の桜が令和元年台風で倒れてしまいました。私が桜番付で東の横綱にしたのが左近の桜だったので倒れてしまいました。

またすごい本が出ました。『日本の古桜一本桜探訪』です。4504本の桜が掲

載されています。一番手が長野県で853ヶ所、2番手が福島県で698ヶ所、3番手が茨城で266ヶ所です。しかし実際は福島県では愛好家の先生がすでに1100ヶ所発表していますので、おそらくは圧倒的に福島県が一本桜王国でしょう。次が長野、そして次が茨城県です。私は茨城県で800本ほど記録しています。それ以降は差が開いていますので、ベスト3に茨城は入れましたということをお伝えしたいです。

『水戸維新』という本にも桜の写真を提供しています。日立のシビックセンターにも壁の写真の大島桜の写真を提供しました。桜川市のさくらめぐりMAPにも写真を提供しました。そして、昨年の3月16日に台風で倒れてしまった左近の桜を京都御所から宮内庁経由で苗木をもらって佳子様が御手植えされました。こちらは昨年末に出た本『桜の日本史年表』、ここにも茨城県の桜の歴史が記載されています。日本が一番古い民間人のお花見の歴史は茨城県です。『常陸国風土記』に筑波山に花見に行ったことが記載されています。今年2月関東東海9県が参加する、日本で最も権威があるお花の展覧会なのですが、そこに今年の担当が茨城県でした。偕楽園を模したつくりにして展示していました。私は左近の桜の写真を提供協力しました。この展覧会の初日に佳子様がいらして、御手植え後の桜に逢ったということになります。

先週、アド街ック天国に桜川市が取り上げられました。いま、桜守養成講座を行ってまして私も少し映りました(笑)、観光客がすでに桜川にきています。まだ桜は咲いていませんが、名勝指定100年というところで4月に桜シンポジウムが開催されます。

洪沢栄一のお札には桜がたくさん描かれています。まさに万葉の桜です。

以上が記録の歴史ダイジェストです。

写真の上映を見ていただく前に、国指定の天然記念物はほとんどん衰退しています。本体の主幹がなくなっていて、^{ひばえ}不定根という新しい根から再生しているという姿に変わってきています。滝桜のように元気なものもありますが、桜というのは衰退するものということを知ってください。大戸の桜の姿を疑問視する人もいますが、生きているだけで500年以上の歴史をつないでいる名桜です。ひたち巨樹の会のHPをオープンします。現在、『茨城県の染井吉野』という本を編集中です。320頁420か所の桜を掲載しています。まずは染井をつくってそのあと山桜を作っていこうと考えています。

桜というと皆さんソメイヨシノだと思えますが、満開の時に葉っぱは出ません、シダレザクラもそうですが、日本古来の山桜は満開と同時に葉っぱ、葉芽といいますが、この風景が最上級です。葉桜

ばかりと誤解しないでください。桜花観を提唱します。日本人はこのような言葉で愛でてきました、一本桜、群桜、桜並木、桜堤。ここからがご存じないかと思いますが、遠山の桜。遠くの山々に咲いている野生の桜を愛でて和歌などに詠むということがありました。今この概念を復活させたいと思っています。遠山の金さんは、桜の入れ墨をしています。遠山の桜だとしてシャレにかけています。遠近の桜。目の前に一本桜があつて、遠くに山桜がある、それを同時に愛でることを言います。庭前の桜。お寺の庭、大名庭園の桜。墓守の桜。お墓に素晴らしい桜が多くあります。種蒔き桜としても墓守の桜は大事にされてきました。寿ぐ桜、これは「桜川」の言葉ですが、開花をお祝いする心持でじっくり間近で観察する。そして藤田東湖の万葉の桜、日本人の正気の特徴として気高く桜を愛でる。

この後上映する写真にぜひ注目してみてください。里には植えられてきた構造があります。染井吉野などが出てくる前は、山桜や彼岸桜が何とかなり入りました。が、染井吉野は明治20年代以降にならないと茨城県には入ってきません。昔は神社は神、日本、春秋祭礼、依代とするのが山桜です。稲々サの神が憑依する座々クラが語源と言われています。つまり日本人と稲、神様、桜というのがすべてつながっているということです。

特に関東の人はお彼岸の時期に彼岸桜、

しだけ桜が咲きます。江戸の彼岸に咲くから江戸彼岸桜というのですが、お彼岸に咲くからお寺に植えようということです。お寺は仏、威信、天蓋が糸桜ということ、シダレザクラが植えられてきました。

茨城県は、この神社がヤマザクラ、お寺がシダレザクラという住み分けがはつきりしています。寒いところではエドヒガザクラしか生きられない、ヤマザクラはほとんどない。長野県、福島

県との大きな違いは植え分けです。また、桜の異名から植えられた意図や桜への思いが分かります。

写真は三分割構図というのを駆使して撮っています。こうすると美しく見えるというコツがあります。徳川慶喜公や昭武公なども同じように撮っています。これが基本です。また、望遠レンズによる圧縮撮影をしています。一本桜は50メートルくらい離れてズームして撮っています。こうすると花弁や枝が圧縮されてより存在感や花の豪華さを演出してくれます。桜の目の前で撮ったものと比べると枝の隙間が小さく、背景の好文亭などは大きく映ります。最後に光、ライティ

ングです。風景では太陽がライティングとなりますが、光の角度などを計算して撮影しています。やはり観桜の最上級は朝日や夕日が当たって花びらが透過する最も美しいタイミングだと思います。(写真上映)

【参考引用】
水戸桜川千本桜プロジェクトHP



西

東

景御免

茨城一本桜番付

平成春場所

制作者



横綱 松岩寺の山桜(高萩)



横綱 徳楽園左近の桜(水戸)



大関 徳楽園の江戸流桜(高萩)



大関 徳楽園の結露桜(高萩)



大関 徳野井の結露桜(つくば)



大関 徳楽園の結露桜(高萩)



大関 徳楽園の山桜(高萩)



大関 上野の結露桜(大宮)



大関 徳楽園の山桜(高萩)



大関 徳野井の結露桜(つくば)



大関 徳楽園の結露桜(高萩)



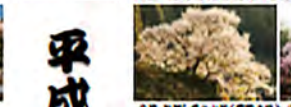
大関 徳楽園の結露桜(高萩)



大関 徳楽園の山桜(高萩)



大関 上野の結露桜(大宮)



大関 徳楽園の山桜(高萩)



大関 徳野井の結露桜(つくば)



大関 徳楽園の結露桜(高萩)



大関 徳楽園の山桜(高萩)



大関 上野の結露桜(大宮)



大関 徳楽園の山桜(高萩)



大関 徳野井の結露桜(つくば)



大関 徳楽園の結露桜(高萩)



大関 徳楽園の山桜(高萩)



大関 上野の結露桜(大宮)



大関 徳楽園の山桜(高萩)



大関 徳野井の結露桜(つくば)



大関 徳楽園の結露桜(高萩)



大関 徳楽園の山桜(高萩)



大関 上野の結露桜(大宮)



大関 徳楽園の山桜(高萩)



大関 徳野井の結露桜(つくば)



大関 徳楽園の結露桜(高萩)



大関 徳楽園の山桜(高萩)



大関 上野の結露桜(大宮)



大関 徳楽園の山桜(高萩)



大関 徳野井の結露桜(つくば)



大関 徳楽園の結露桜(高萩)



大関 徳楽園の山桜(高萩)



大関 上野の結露桜(大宮)



大関 徳楽園の山桜(高萩)



大関 徳野井の結露桜(つくば)



大関 徳楽園の結露桜(高萩)



大関 徳楽園の山桜(高萩)



大関 上野の結露桜(大宮)



大関 徳楽園の山桜(高萩)



大関 徳野井の結露桜(つくば)



大関 徳楽園の結露桜(高萩)



大関 徳楽園の山桜(高萩)



大関 上野の結露桜(大宮)



大関 徳楽園の山桜(高萩)



大関 徳野井の結露桜(つくば)



大関 徳楽園の結露桜(高萩)



大関 徳楽園の山桜(高萩)



大関 上野の結露桜(大宮)



大関 徳楽園の山桜(高萩)



大関 徳野井の結露桜(つくば)



大関 徳楽園の結露桜(高萩)

行司 真鍋の桜(土浦)

常磐風景

名譽横綱 神楽坂の結露桜(高萩)



名譽横綱 大戸の桜(茨城)

平成十一年～平成三十一年 三月下旬～五月上旬 於 茨城県金城 一本桜番付行役所

茨城一本桜番付平成春場所絵番付 撰者：坂野 秀司

《東海村及びその周辺の野鳥（11月23日）》

川上 仁司

日本列島は南北に長く、北海道稚内から沖縄県与那国島までの距離がおよそ3000kmに達します。国土面積は小さいものの排他的水域を含めると、実は世界で6番目に広い面積を持っているので、北は亜寒帯から南は亜熱帯までには多種多様な動植物が沢山生息しています。中でも野鳥の種類は現在6000〜6500種が確認されています。ここ東海村は久慈川下流に位置し、広大な水田地帯、沼地、湿地、長い海岸線、丘陵、森林地帯など多様な豊かな自然環境があり、そのような豊かな環境を目指して、四季折々、様々な野鳥がやってきます。地域により異なりますが、野鳥を留鳥、漂鳥、夏鳥、冬鳥、旅鳥、迷鳥に分類できます。東海村及びその周辺で見られる野鳥を紹介します。

1 留鳥

多少移動は見られるが、一年を通して同じ地域に生息する鳥。しかし、本州で繁殖したものが冬季はより南に移動し、北から移動してきた集団と入れ替わっている場合もある。

オオタカ、ハヤブサ、ノスリ、チョウゲンボウ、ハイタカ、モズ、カワセミ、ヤマセミ、フクロウ、トラフズク、オシドリ、トビ、スズメ、ハシブトガラス、ハシボソガラス、シジュウカラ、イソヒヨドリ、

ムクドリ、ダイサギ、コサギ、ホオジロ、カケス、オナガ、キジ、ヤマドリ、ヒヨドリ、メジロ、クロサギ、カワウ、ウミウ、キセキレイ、セグロセキレイ、ハクセキレイ、アカゲラ、アオゲラ、シロチドリ、ヒバリ、タマシギ、ヤマドリ、シジュウカラ、コゲラ、ヤマガラ、ヒクイナ、他

オオタカ…タカ目…タカ科…ハイタカ属

オオタカの名称は大きい意味ではなく、羽の色が、青みがかったことからこの名がついた。中型のタカで、タカ類の中の狩りの王様、カラス大の大きさでハトやムクドリなどの中型の鳥やウサギなども襲う。1993年絶滅危惧種に指定、2017年解除、他と比較して翼が広いので、機動性に富み、森林の中でも容易に活動できる。時には自分と同じ大きさの鳥を水中に沈めて水死させることもあります。



▲オオタカの成鳥（羽毛の色が灰褐色）



▲オオタカの幼鳥（羽毛の色が茶褐色）



▲ゴイサギの幼鳥を襲い、水死させるオオタカ



▲ゴイサギの幼鳥を水死させた後、鋭い爪で引っ掛けながら陸の茂みに運ぶオオタカ



▲左：雌（下嘴赤い） 右：雄（上下嘴黒い）

カワセミ…ブツボウソウ目…カワセミ科

…カワセミ属

水辺の宝石として知られるコバルトブルーの羽を持つ美しい鳥、スズメより大きく羽毛の青い色は、羽毛にある微細構造によって光の加減で光の波長が微妙に異なる水色や緑色に見えたりします。小魚などを頭から呑み込んで消化できないものは球状にしてペリットとして口から吐き出す。春の繁殖期に崖などに小さな穴を掘り営巣します。繁殖期以外は単独行動をとる。

ヤマセミ…ブッポウソウ目…カワセミ科

…ヤマセミ属

水辺のハンターとして、カワセミと同様に水中に飛び込んで魚を捕らえます。大きさはカワセミの倍ほど、ハトほどの大きさで頭には冠羽を持つ。1年を通して単独またはつがいで行動し、春の繁殖期には溪流沿いの垂直な崖斜面などに巣穴を掘り、4〜7個の卵を産む。巣立った後でも、しばらくの間親からの給餌を受けます。



▲瞬膜で眼球を保護し、水中に飛び込んで獲物を捕えます



▲水中に飛び込み魚を捕らえた雄のカワセミ



▲親から餌の給餌を受けた巣立ったばかりの幼鳥：脇腹に茶色い模様が残る。成長するごとにこの模様が消えていく。
左：雌 右：雄



▲雌：頸から腹にかけて白黒の斑模様、翼下面は茶色



▲雄：頸から腹にかけて白黒と茶色の斑模様、翼下面は白色



▲繁殖期には雌をめぐって雄同士の激しいバトルが展開されます。雌が見つからない雄はその年は独身生活を送ることになるようです。繁殖期以外の雄の羽色は雌とかわらない地味な羽色になります。これを雄エクリプスと言い、雌に似るが嘴の色が赤いので区別できます。

オシドリ…カモ目…カモ科…オシドリ属
オシドリの繁殖期は、秋から春にかけて群れをつくり、雄は雌へのアピールのために美しい繁殖羽となり、それぞれ相手を見つけてつがいをつくりまわす。樹洞に巣をつくり交尾後、雌はその中に卵を産む。羽化した雛は雌が育雛します。オシドリは、一生を共にする相手を持つのでオシドリ夫婦と呼ばれますが、実際は毎年相手をかえるようです。強い遺伝子を残すためなのでしょう。



▲巣立ったばかりの幼鳥、まだ自力で餌を獲ることができないので親の給餌が必要

夏の繁殖期は亜高山に生息し、冬は非繁殖期は餌を求めて平地から山地の林、樹木の多い公園や常緑広葉樹林で過ごす。
越冬期は縄張りを持ち単独で生活します。主な餌は昆虫類、ミミズ、クモ

ルリビタキ…スズメ目…ヒタキ科

…ルリビタキ属

留鳥であるが国内で繁殖地と越冬地を変え、小規模で季節移動します。留鳥の多くはこれに当たる。例として夏季、亜高山の森林などで繁殖し、冬季には平地にやって来るウンやルリビタキなどがその例です。
アオジ、クロジ、ホオアカ、ルリビタキ、イカル、ウン、ビンズイ、クロジ、ミンサザイ、ウグイス、ベニマシコ、カヤクグリ、キクイタダキ、セツカ、トラツグミ、オオジュリン、ヒガラ、他

2 漂鳥



▲秋から春にかけて大きな群れをつくりまわす。そこで気に入った相手とペアをつくり繁殖行動に入ります。

類など。特に雄成鳥は美しい青色の羽を持つ。



▲ルリビタキ雄：美しい羽色になるのに4年以上かかる。ジョウビタキのように人の近くに寄って来ることがある



▲ルリビタキ雌：尾羽の一部が青いのが特徴

ベニマシコ…スズメ目…アトリ科

…ベニマシコ属

夏季、主に北海道で繁殖し、九州以北で越冬。平地から山地の草原、河原、ヨシ原などに生息。冬季、久慈川の河川敷の草地で群れをつくりヒヒイと鳴きながら草の

種子を啄む光景が見られます。マシコとは猿のことで、容貌が猿に似ていることでこの名が付けられた。



▲ベニマシコ雄：全体が赤く猿顔、繁殖期には羽色が美しい紅色に換羽します。



▲ベニマシコ雌：全体に淡い黄褐色

キクイタダキ…スズメ目…キクイタダキ科

…キクイタダキ属

日本で最も小さい鳥の一つ。夏の繁殖期は山地から亜高山に生息し、冬は平地から山地の林に移動します。頭頂に黄色い冠羽が黄色い菊の花を想わせることでこの名が

付いた。メジロやカラ類などと混群をつくり樹幹を移動しながら虫等をホバリングして捕食します。



▲頭頂部の黄色い冠羽が特徴、樹木の葉などに潜む小さな昆虫などをホバリングしながら捕えます。

3 夏鳥

春季に日本より東南アジアなどの南の地域から渡来して繁殖し、秋季に南の越冬地へ帰ります。

キビタキ、オオルリ、サシバ、ホトトギス、カッコウ、ツミ、コマドリ、アマ

サギ、チュウサギ、コアジサシ、コルリ、サンコウチョウ、クロツグミ、オオヨシキリ、ツバメ、コシアカツバメ、コサメビタキ、コチドリ、アマツバメ、ツツドリ、サンショウクイ、アリスイ、他

オオルリ…スズメ目…ヒタキ科

…オオルリ属

春、東南アジア方面から繁殖のために日本列島にやって来て平地から山地の落葉広葉樹林、溪流沿いの暗い林に生息します。雄は背にかけて美しい瑠璃色をしています。ウグイス、コマドリ、オオルリと日本三鳴鳥の一つとして美しい鳴き声でさえずり、縄張りを主張します。美しい羽を持つオオルリは、幸せの青い鳥のモデルになったのは容易に領けます。



▲オオルリ雄

夏、繁殖のために本州以南の海岸、河口、河川、湖沼等にやって来て海岸の砂浜などに簡単な穴を掘り抱卵します。現在、海岸開発などで営巣地の急激な減少やカラスなどの捕食者の影響で、絶滅が心配されています。繁殖地では大きな群れをつくりカラスなどの天敵を追い払う行動が見られますが、小さな群れでは捕食者が優位となり、追い払うことができません。主に海で泳ぐ小魚を上空から飛び込んで嘴で啜って捕えます。

コアシサシ…チドリ目…カモメ科

…アシサシ属



▲オオルリ雌



▲海岸で群れ飛ぶコアシサシ



▲小魚を捕らえたコアシサシ成鳥



▲サンコウチョウ雄：
尾羽の先に長い飾り羽を持つ。これは、営巣中、天敵から雛を守るために雛から注意を逸らすためや威嚇に使う。

夏鳥として東南アジア方面からやって来て、本州以南平地から山地の針広混交林の暗い林で繁殖活動を行います。ツキ(月)、ヒ(日)、ホシ(星)ホイホイホイと鳴くことで三つの光から、サンコウチョウと命名された。雄は尾羽から出た長い飾り羽が特徴。その理由は、雌へのアピールやこれを大きく揺らして自分を大きく見せ、天敵への威嚇行動などと言われています。

サンコウチョウ…スズメ目…カササギヒタキ科

…サンコウチョウ属



▲巣立ったコアシサシ幼鳥



▲サンコウチョウ雌：
雛への給餌の回数は雄と比較して雌の方が遙かに多い。



▲巣立ったばかりの雛に給餌する親鳥
へびに襲われて全滅するのを防ぐために雛に出来るだけ早く巣立ちを促す。

4 冬鳥

秋季に日本より北の地域から越冬のため渡来して、春季には北の地域へ帰って行きます。

チュウヒ、ハイロチュウヒ、コミミズク、ツグミ、カワアイサ、ウミアイサ、ミコアイサ、シノリガモ、マガモ、オオワシ、コガモ、ヒレンジャク、キレンジャク、マヒワ、アトリ、タヒバリ、ミヤマガラス、タゲリ、マガン、オオハクチョウ、コハクイチョウ、オオヒシクイ、カシラダカ、クイナ、ジョウビタキ、ホオジロガモ、ユリカモメ、カモメ、マガン、セグロカモメ、ヨシガモ、他

ハイロチュウヒ…タカ目…タカ科

…チュウヒ属

冬、北方方面から越冬のために局地的に日本の平地から山地の草原、湖沼、河川等にやって来ます。主にネズミや小鳥などを捕食。県内では涸沼のヨシ原を主な場とし、早朝、場を飛び出しその周辺の水田地帯を巡りながら獲物を捕食し、夕方、場に戻ってきます。大きさはハシボソガラスと同大かやや小さい。他の猛禽と比較して機動性に富んだ飛翔能力を持つので、ヨシ原に潜むネズミや小鳥などを容易に捕獲します。「チュウヒ」の名の由来は「宙飛」から来ているようです。



▲ハイロチュウヒ雌成鳥：全体が茶褐色、猫顔



▲ハイロチュウヒ雄成鳥：頭部から上面は全体が青灰色、虹彩は黄色い



▲コミミズクは翼をゆっくりとした上下動させ、草むらに潜む獲物を探しながら優雅に飛び回ります



▲止り木に止まり、辺りを警戒するコミミズク

冬、北方方面から越冬のために日本にやって来ます。平地から山地の草原、農耕地、河原などの生息し、主にネズミやモグラ等を捕食します。捕らえた獲物の多くは蛙の窪みなどに保存します。昼間でも風のない日などは、草で覆われた土手の上空を低空飛行しながら、ネズミの行動する振動音を察知して捕らえます。風が強い日は狩りができないので、草むらの中に潜んでいます。

コミミズク…フクロウ目…フクロウ科

…トラフズク属



▲キレンジャク：尾の先端が黄色



▲ヒレンジャク：尾の先端が赤色

冬、北方方面から越冬のために全国の平地から山地の林、果樹園、市街地の公園の林などにやって来ます。ヒレンジャクは主に南西日本に多く、キレンジャクは北日本に多い。繁殖期には昆虫類を主食にするが、越冬期はヤドリギなどの木の実やイチゴ、カキ、リンゴなどの果物を好む。数年前、ひたちなかで市で生産する干し芋の廃棄物を食べに大群でやって来た。餌が不足すると餌を求めて群れを作って移動していく。

ヒレンジャク、キレンジャク

…スズメ目…レンジャク科…レンジャク属

5 旅鳥

春季と秋季の渡りの途中、短期間日本に立ち寄り通過していく。主にシギやチドリ類が多い。

セイタカシギ、**タカブシギ**、**タシギ**、**ムナグロ**、**オオシギ**、**チュウシャクシギ**、**コシャクシギ**、**ホオロクシギ**、**クサシギ**、**ソリハシシギ**、**キアシシギ**、**キョウビシギ**、**ギ**、**トウネン**、**キリアイ**、**ミユウビシギ**、**ダイゼン**、**メダイチドリ**、**アカアシシギ**、**オオハム**、他



▲数年前、ひたち海浜公園近くの畑に、捨てられた干し芋の廃棄物を食べに大群でやって来たキレンジャク、ヒレンジャクの群れ、みんなで芋レンジャクと呼んでいた。

セイタカシギ…チドリ目…セイタカシギ科

…セイタカシギ属

旅鳥として干潟、河口、水田、湖沼、湿地などに渡来します。長旅をする途中、本県では霞ヶ浦や涸沼周辺の水田地帯に一時的にやって来ます。大きさはキジバトぐらいで、赤く長い足と細長い嘴が特徴。



▲涸沼近くの水の張られた水田で採食に励む一羽のセイタカシギ、赤く細長い足が特徴

チュウシャクシギ…チドリ目…シギ科

…ダイシャクシギ属

旅鳥として干潟、海岸の岩場、農耕地、河川等によって来ます。通常群れでいることが多く、数百羽の群れのつくることもある。初夏、毎年涸沼周辺の水田に一時的に立ち寄る。

6 迷鳥

通常は分布も渡来もしないが、台風などの気象条件やその他の要因により出現します。若鳥の場合が多いようです。

ケアシノスリ、**ヤツガシラ**、**オオカラモズ**、**レンカク**、**コモンシギ**、**アカガシラサギ**、**コクガン**、**クロガモ**、**ハクガン**、**ツクシガモ**、**ハシジロアビ**、**アネハヅル**、**コイカル**、他

ケアシノスリ…タカ目…タカ科

…ノスリ属

生息地が北極海沿岸で、越冬のため主に日本海側沿岸の農耕地、牧草地、河原などにやって来る数少ない猛禽、太平洋



▲長距離移動の途中、涸沼近くの水田に休息するチュウシャクシギの群れ、長く下向きに反った嘴が特徴



▲太平洋側にやって来るケアシノスリは幼鳥が多い。ケアシノスリは尾羽に数本の黒い帯があるのが特徴。留鳥であるノスリには見られない。ケアシノスリの幼鳥は全体に白さが目立つ。



▲空中でホバリングしながら、草むらに潜む獲物を探す。

側にやって来ることは稀であり、特に2016年の冬、ひたち海浜公園にやって来た時は大騒ぎとなった。草原に生息するネズミ、小鳥、カエル、昆虫などを捕食する。跼蹐に羽毛があることでこの名が付いた。

オオカラモズ…スズメ目…モズ科…モズ属

日本産モズ類の中で最大で、日本では数少ない記録があり、特に西日本に多い。2022年1月の僅か1か月間、東海村亀下、竹瓦地区の久慈川近くの農耕地に現れた。主にネズミ類、鳥類、爬虫類などを捕食。時には土中に潜むミミズを食べる。見晴らしの良い止り木に止まり、ホバリングしながら獲物を探す。



▲畑の上を低空で飛行しながら獲物を探すオオカラモズ



▲灌木に止り獲物を探すオオカラモズ

レンカク…チドリ目…レンカク科

…レンカク属

日本では数少ない稀な旅鳥。湖沼、ハス田、水田、湿地などにやって来ます。茨城県では、涸沼近くの水田に2020年7月の僅か1日だけ現れた。涸沼周辺には珍しい野鳥が時々姿を見ることがあります。レンカクはタマシギと同じように雌の方が雄と比較して羽色が濃く、一妻多夫で繁殖します。雌は3〜4個の卵を産んだ後、新しい雄を見つけて交尾します。これも子孫を残すための知恵なのでしょう。



▲夏羽に換羽したレンカク、水に張られた水田で餌を探すレンカク

7 外来種

本来、日本に生息していなかったが、海外から人為的にもたらされたか自然に入ってきて、自然繁殖している種。

コジュケイ、ソウシチョウ、ガビチョウ、ドバト、他

ソウシチョウ…スズメ目…チメドリ科

…ソウシチョウ属

本来ヒマラヤ、ミャンマー北東部、中国西部から中南部に分布。日本では江戸時代頃からその美しさから愛玩用として移入されたものが、現在では関東以南で自然繁殖し増加しています。平地で越冬し、夏季に山地に移動繁殖します。在来種への影響が強く、現在特定外来生物に指定されています。



▲美しい羽を持つ小鳥、群れで行動し繁殖力旺盛

ガビチョウ…スズメ目…チメドリ科

…ガビチョウ属

本来は中国南部、インドシナに分布。日本には江戸時代頃愛玩用として移入され、自然繁殖のもと九州、四国から現在では関東地方まで広がりに増加しています。いろいろな鳥の鳴き声を真似て、1年中やかましい大きな声で鳴く。現在特定外来生物に指定されています。



▲眼の周りに白色の勾玉模様が特徴

【参考文献】

真木広造・大西敏一・五百澤日丸『日本の野鳥650』平凡社
水谷高英・叶内拓哉『フィールド図鑑 日本の野鳥第2版』文一総合出版

まる博
研究員
レポート

村内で活躍する「まる博研究員」からの報告です。

まる博研究員とは？

約1年間の養成講座を修了し、歴史と未来の交流館を拠点に地域の歴史や自然に関心を持ち調査・研究・情報発信を行っている方々です。

レポート
1

10月26日は「原子力の日」

まる博研究員 木内 伸幸

10月26日は「原子力の日」です。昭和38年、東海村の日本原子力研究所（現日本原子力研究開発機構）が動力試験用原子炉（JPRD）により我が国で初めて原子力

によって発電に成功した日です。また昭和31年、国際原子力機関（IAEA）への加盟のために我が国が同機関憲章に署名した日でもあります。この原子力に関する歴史的な出来事を記念するため、昭和39年に閣議決定により制定されました。

昭和31年、原子力委員会は、日本原子力研究所の誘致に関し、東海村を候補地として選定しました。昭和32年8月27日には、同研究所に設置された研究1号炉（JRR-1）が臨界実験に成功して、日本最初の原子の火がともりました。

昭和30年に誕生した東海村の歴史は日本の原子力の歩みにつながっています。

「原子力の日」に「東海村と原子力」の歩みについて振り返ってみるのも良いかもしれません。



レポート
2

真崎浦の干拓の始まりについて

まる博研究員 佐藤 理花

東海十二景に指定されている広大な水田地帯「真崎浦夕照」「細浦青畝」は、江戸時代には鰻や鯉・鮒が採れ、レンコンの栽培もおこなわれている風光明媚で豊かな

汽水湖でした。しかし、この湖面が満潮時の海面より低かったため大雨の度に水が溢れ、治水工事が年中行事となり長年周辺の村々を苦しめていました。さらに18世紀

後半からの寒冷期による飢饉もあり食糧増産をはかる必要がありました。そこで安政3年（1856）郷校平磯館の館長で那珂湊の造り酒屋「榎屋」を代々営んでいた西野長治郎（以下、西野）が立ち上がりまし

た。それらを解決するためには水戸藩に真崎浦の干拓を申請し許可されたのです。

西野は村松村に居を移し、全国各地から21戸の「西野新農」と呼ばれた人々を集め、周りの農民とも協力しながら、まず水を排出するため、幅10〜15m、深さ1m以上長さ約1kmに及ぶ新堀（今の新川）を開削しました。さらに、細浦の中央に水路（掘割）を通し、西側の山裾の道に沿って用水を導く水門を建設するなどして、細浦20町歩、東川根、南川根を開墾しました。

しかし、元治元年（1864）西野が天狗党の乱に参加し

離村するとい、開墾した土地も荒地に逆戻りしてしまいます。西野の始めた干拓はわずか8年で終わることになったのです。



石神城跡を見学

まる博研究員 後藤 ひろ子

令和6年5月21日石神コミュニティセンターの先を曲がり細い道をくねくねと走り樹木とうっそうとした夏草に覆われた小さな山とも思える石神城跡に私たちまる博研究員養成講座の受講生が集合し学芸員さんの説明を受けながら石神城跡を見学しました。

なぜいつ頃この場所に築かれたかは資料によると要害機能と水運機能を備えたとあります。築城は約400年以上前、200年くらい存在したことになります。

石神城の歴史を知るために実際にその場所を歩いてみると城こそないものの広大な城跡でした。堀に囲まれ敵を防ぐのに適した地形、今は田園地帯となっているが昔は水路もあり高い場所にも湿地がありありました。滑るところあり、坂あり、やつと道路に出ると城跡を外から見ることができ



ました。周りには住宅があり田畑がありました。城の人々の暮らしに想像が膨らみます。

新川の旧河床に広がる水田風景を追って

まる博研究員 三浦 早苗

太平洋に面した東海村は、北に久慈川、南に那珂川の下流域をもつ那珂台地上にあり台地は海面上昇期の海成層（見和層）からなる隆起海岸平野と河岸段丘で構成されています。台地表面は3m内外のローム層で覆われ、見和層とローム層の間には厚さ3〜4mの粘土層（茨城粘土層）が挟まれています。地域の南側を流れる新川は勾配が緩く兩岸を崖で画され広く沖積低地が

は南台団地の崖下を通りさわの杜を経て、那珂市菅谷棚倉街道沿いの権現宮溜池に出ます。さらに進むと眼下に那珂川とポンプ場が見えてきました。下江戸揚水機場で那珂川から取水し那珂中部幹線、水那幹線、新川の農業水利事業の看板を目にしました。新川は生活排水の出口としても重要な位置づけにあります。

発達しています。出口を海岸砂丘で阻まれたため真崎浦、細浦など沼沢地が広がりましたが、1856年以降、1930年まで続いた干拓により水田地帯と変わりました。



デジタルカメラとアナログカメラ

まる博研究員 床井 博見

現在主流のデジタルカメラ（デジカメ）と約数十年前主流だったアナログカメラ（フィルムカメラまたはアナカメ）には機能的に大きな相違がある。

デジカメは撮影直後に写真を見ることのできるがアナカメは現像をするまで見ることができない。

デジカメは修正（脚色）が素人でも簡単にできるがアナカメは長年修行をした者でないとできない。アナカメは大きなフィルム（はがき大以上）が使える繊細な写真を撮ることが出来る。一方デジカメはカメラの画面サイズなので大きくできない。以上よりデジカメにもアナカメにも異なった魅力があるの



で今後の人々がデジタルだけに価値を見出しアナログを忘れないようにしてほしい。

昔は良かった。歳のせいだよ、君は!!

『友末知事』県民に笑顔と元気を届ける!! 「茨城百景」の碑建立と選定、 各々の観光協会より名所旧跡を応募。

まる博研究員 三浦 輝男

昭和25年といえは戦後5年しか過ぎておらず、県民はおろか国民全員が疲弊していました。知事は県民に元気をだしていただくために次の施策を実施しました。

当時各地の観光協会より自慢の名所旧跡を応募したところ、180カ所の候補地が寄せられた。厳選の上統合等組み合わせて百景にまとめ、茨城百景の誕生です。



東海村では虚空蔵堂・大神宮・水戸八景「村松晴嵐」の碑です。近隣の水戸市は偕楽園、弘道館、水戸城址ほか。日立市は日立の大煙突、助川城址他。常陸太田市は西山荘、瑞竜山、真弓山と寒水石他。ひたちなか市は阿字ヶ浦、平磯海水浴場ほか。那珂市は静神社と小場江堰他が選ばれております。設立当時の友末知事の考察がいかに県民の歓びを考えて設立されたかに思いを馳せて皆さんも百景巡りをされるのもよろしいのではないかと思います。

ちなみに茨城県の最初の県令は西郷隆盛と勝海舟が江戸城無血開城に貢献された方、山岡鉄舟（天保7年生まれ1836）です。公選で最初に選ばれた知事は友末洋治（明治33年7月5日生まれ1900）第1期昭和22年〜第3期昭和34年。2人目は岩上二郎。第4期昭和34年〜第7期



真崎区自治会内の班(常会)名の由来を解く

まると博研究員 大内 隆彦

班(常会)名の由来は分からないが、阿漕ヶ浦周辺と村松小学校周辺には昔の地形を想像させる名前がある。この付近は縄文時代以前から人が住み始め遠方との繋がりがあった。付近の貝塚の出土品が証明している。この時代は文字が存在していなかったはずで、他の集落の住民に自分の居住地を説明する時や、同じ集落の人達が待ち合わせする時には、必ず目印となった場所があり、その場所は地形に特徴があり分かりやすい場所と思われる。

現在の阿漕ヶ浦や細浦は縄文時代以前には、今よりも海面が上昇していたことで海と繋がりが湾になっていた。須和間古墳の下は崖面に打ち寄せる波でできた波蝕崖が見られる。それ以降は時代が経過するとともに湾の出入り口付近に砂が堆積し始め、合わせて海面の後退で汽水湖から湿地帯、沼地、池に変化しその周辺の水辺に海から渡って来た私達の祖先が住み始めたと思われる。大昔の先人たちが住んでいた同じ場所に今私たちが暮らしていると思うと長い歴史の時間を感じることができる。また最近まで地元のお年寄りが「○○さんは「入」の人だよ」とか「荒谷」から来た人だね」の会話が蘇る。

1. 砂岸班

阿漕ヶ浦運動公園の周辺の班 大昔は阿漕ヶ浦と太平洋は繋がっていて海水が流れ込んでいた。その河口が砂の堆積や風による砂の移動で徐々に河口が閉ざされ現在の阿漕ヶ浦が長い年月をかけて汽水湖から沼地そして現在の形に変化してきた。汽水湖周辺に砂が堆積していく中で砂の岸ができ、食べ物が容易に確保できたので住み始めたのが名前の由来と思われる。阿漕ヶ浦の東側には真砂山、西側には真崎貝塚が残っている。

2. 雨沢班

真崎十文字付近の班 大昔阿漕ヶ浦が海に繋がりが、その後汽水湖から沼に形を変えていく中で阿漕ヶ浦に周りの沢や小川から水が流れ込んでいた所に住み始めたのが由来と思われる。近くに真崎古墳群の一部として雨沢古墳が残っている。

3. 入班

真崎自治会集会所付近の班 ここも昔阿漕ヶ浦が海と繋がって一番奥の入江になっていて静かな所なので住み始めたのが由来と思われる。

4. 荒谷班

現在の村松小学校より東側の班 大昔村松小学校周辺は細浦の奥の方で海と繋がっていた。周りは小高い丘、山林で作物は作れないが木の実が豊富に採れた所。小学校付周辺は海に面し低い谷で周りは荒地その谷間に住み始めたのが由来になったと思われる。

5. 滝坂班

日本原電の社宅がある周辺 村松小学校周辺の低い谷地に向かって小高い丘になっていてそこから小さな滝が流れ込んでいてその周辺に住み始めたのが由来と思われる。

6. 根崎班

荒谷共同墓地周辺の班 大昔村松小学校周辺が海に繋がっていた頃小さな入り江に突出した「出崎」から根崎に転じたと思われる。出崎の高台に住み始めたのが由来と思われる。荒谷共同墓地周辺の高台から村松小学校周辺を見下ろす

と昔海に向かって突き出た地形が残っている。

このような所は水に恵まれ人が住みやすい地形のため集落ができ、遥か昔からその地形が集落の呼び名として引き継がれ現在の班名として残ってきたと思われる。



お二人の思い出

まる博研究員 山本 美恵子

「歴史と未来の交流館」で令和5年「照沼家文書の世界」そして東海村発足70周年記念「塙南可・千里展―むらをうつす―」を展示していました。

その主人公である故照沼信邦氏さんと故塙千里さんに私がお会いしたのは、ほんの一瞬の時でしたが、お二人とも強い印象を私に残してくれました。お会いするきっかけは平成18年頃、「東海村の文化財と自然を守る会」に参加させて頂き諸先輩方の後をくっついて現地見学にいったことでした。

ご自宅で照沼さんを後ろの方から拝見した時、「眼光鋭い！自力強い！丁髷結ったら時代劇に出てくる人みたい。年貢に苦しむ農民の陳情を受け、立ち向かう村役人みたい！」と思い、その印象は今もずっと変わリません。屋敷の書院の柱に残る「天狗党、諸生の争乱」の際につけられた刀傷と槍の跡、山村暮鳥の短冊。どれも強い印象です。でも、ご本人は「眼光鋭い」のに至って優しく、後日直接お話ししたときに私の質問に答えてくださり「天狗党が襲ってきたときは皆浜に逃げた」とか「塙場は茨城東病院の近くにある」とか教えてくださり気さくなお人柄でした。もうお一人塙千里さんもご自宅の座敷

に上がらせて、ふすまに筆で漢字が一面に書かれており、また、時代劇に出てくるようなおうちだと思わず緊張し普段味わえない雰囲気浸ったのを覚えています。

その後虚空蔵尊で説明を受けたときに山門を通り両側に2体の動物がいるが、片方は牛とすぐわかったが、もう片方を見たとき、「あつ猫」と思わず口に出してしまいました。咎められるかなと一瞬緊張したら、塙さんが「優しい顔をしているから猫に見えるよね。でもこれは寅なんだよ。」とあの柔和なお顔で教えて頂き、ホッとしました。虚空蔵尊に行くたび、「これは寅、猫じゃない」と思う度に塙さんの笑顔を思い出します。ちなみに他の虚空蔵尊のトラはどんな顔をしているのか興味を持ち、福島県の柳津虚空蔵尊を調べてみたら、なんと、牙をむき出しにして大きな口をあけながら今にも飛び掛かってきそうな石像でのんびりした風情の村松虚空蔵尊とは、真逆でした。

あの当時は、諸先輩の後を嬉々としてくっついていくのみで、お二人の功績や人物像を知る由もなかったのが、とても残念です。お二人の功績を知るにつけもったいろいろなことを教えて頂きましたし

お話に耳を傾けていたと思います。

そして、ふとした瞬間に見たもの、聞いたことがいつまでも心に残るという事があります。上記の照沼家住宅で見せて頂いた「天狗党が付けた刀、槍傷」がその一つです。そのころは天狗党という言葉の持つインパクトが鮮やかだったのかもしれない。その後TVの登山番組で「月居山の戦い」を知り興味を持ち月居山登山をしたり、東海村周辺の遺構や水戸市の「常盤共有墓地」「祇王寺」「赤沼牢屋敷」などを細々と尋ねる機会に恵まれています。最近では遺構だけではなく、活字で「天狗党・緒生派の乱」を読んでみようと思いい立ち、なるべく分かり易い本を選んで読むことを心掛けています。善悪を簡単に決めつけるのではなく、できるだけ事実を知りたいし、日本という国が大きいかじ取りを転換した幕末時代に否応なくその波に巻き込まれざるを得なかった人たちの様子を少しでも身近に感じたいと思います。

最後に今自分は何に興味があるのか考えてみたときに目標を決めるのではなく、その時々で自分の印象を大事にし心惹かれる事柄に向き合っていきたいと思っています。



本堂前の寅



本堂の屋根からにらみを利かせる寅

はなは咲く

まる博研究員 立川 義雄

これまで、普段何気なく歩いている散歩道、畑までの道、道端にある草や木を見てもただ通るだけだった。

それが博物館長講座に何回も参加することで見方が変わった。資料をもとに説明を聞き、写真を撮って観察し、データを整理することを通して、今日までに様々な草、野草、樹木等の名を覚えることができた。

ある日の散歩中、土手につる性の可愛い花が咲いているのを見て、家族が私に花の名前を聞いた。それは、ヘクソカズラで、「葉の匂いを嗅ぐと臭いよ。」と話す。

またある時には、知人がだいたい色に色付いたカラスウリの実を持っていたので、「中を開くと種が出てきます。その種は七福神の大黒天が持っている打ち出の小槌に似ている、財布の中に入れて置くと、お金が貯まるそうです。（安嶋館長の受け売り）」と答える。

そして、まる博研究員養成講座の長期生として参加する中では、フィールドワークのジオツアーで、石神城址公園付近の道端に生える変わった草を発見した方から質問され、コバンソウの名を紹介することができた。

普通に歩くと10分程度の道が、草や樹木

をじっくり観察し名前を言いながら歩くと30分ほどになる。植物への関心がいつもの道をより楽しくさせてくれる。

畑には、沢山の草が茂る。野草や草を刈り取り、ときには枯らして畑を耕すときにすき込む。スギナ、ドクダミ、アレチウリ、ハナニラ、イヌムギ、センダングサ…。これらは、枯らして深く埋めても、時がたてば芽を出す生命力がある。

植物と出会いは、一期一会である。博物館長講座「身近な実とタネ」で、マムシグサ類の赤い実を見たことがあった。そのため、次も実がつくのを楽しみにしていた。しかし、残念なことに道の両側が除草作業で刈り取られ、きれいな道に変わっていた。出会えなくても、そこから何かを考える。しばらくして、近所で十数年ぶりにウラシマソウの花を見つけることができた。いつどこで出会うか分からない。人に案内してもらった植物との出会い、自分で探し回る出会いは、ちょっとしたちがうものになる。

今日では、道や公園等を歩き、観察できることが運動の一貫であり、四季を問わず楽しみとなっている。これからも植物や自然の姿に元気をもらい、はな（花／人生の華）の咲く時を待ち、楽しみのある生活



ヘクソカズラ



カラスウリ

を送りたい。今をいっしんに生きる。出
来ることを精一杯やり切り、次の世代に託
す。与えられた環境の中で、どんな困難も



ウラシマソウ



コバンソウ

受け入れて生きる。植物と関わりながら
学ぶ生活には、人生のヒントがごろがっ
ている。

巳年と「蛇の轡」について

まる博研究員 飛田 公子

今年は、十二支の干支の巳年・へび年です。村松大神宮を訪れたとき、境内に小さな蛇を祀った座留神社（白蛇さま）の祠に遭遇しました。なぜ境内にあるのか、不思議に思い調べてみました。ご祭神は、サルタヒコの命（猿田彦命）。祭礼日は旧暦4月6日。

座留神様は「猿神様」の「サル」が永い間になまって「ザル」に変わったもので、本尊の猿田彦命をもじって呼ばれるようになったそうです。元々は、真崎の権現山にありました。ザル神様を祀った権現山には、この神の象徴で使い姫であったといわれる一匹の大きな蛇が住んでいて村に地震や洪水・津波・火事などの天変異変のある時は村人に大きな声で咆えて危険を知らせ大変崇め奉られていたそうです。

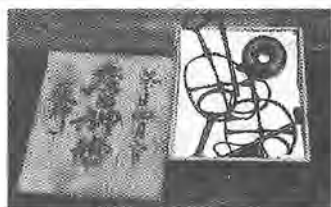


権現山古墳

このザル神を仕守っていたのが塙さんです。下野国、塙村（今の福島県東白河郡

塙町）の藩主の流れをくむ人で大変温厚で実直な信心深い人であったのでこの白蛇を自分の子どものように大事にし世話をし見守りました。塙さんはザル神様に朝の礼拝が済むと毎日白蛇をヨコダ（竹で編んだ四角の籠）に入れ馬の背に乗せて村松の海岸まで行き、広い砂浜で2時間ほど運動させるのが日課でした。ところがある年旧暦4月6日のこと、白蛇をいつものように海岸で運動させ帰ろうと馬のクツワに結び付けた鈴を鳴らしました。がどうしたと白蛇は戻ってきません。

白蛇の姿を再び見ることができなかつたそうです。それは慶長七年（1872年）佐竹氏が秋田に移封される少し前のことであつたそうです。人々は白蛇が佐竹氏を助けて道案内として秋田に行つたのであろうとこれまで徳を偲んで悲しみ惜しんだと言います。



クツワ 佐久間 (1989) より引用

その後白蛇のいなくなったザル神様は、権現山から大神宮の境内へ遷されて祀られ、毎年、この白蛇がいなくなった旧暦の四月六日を祭日として赤飯と白蛇名残りのクツワを

供えて祭りを行うことになったそうです。そしてこのクツワは「蛇の轡」と呼ばれて今でも塙さんの家で大切に保管されているそうです。

東海村古文書調査隊の一員として塙南可さん、千里さんについて学んでいた頃でしたので「蛇の轡」を塙千里さんが自宅の神棚の奥に祀っていたことが分かり150年前の伝説が目目の現実となった事は大変な驚

久慈川の野鳥たち

まる博研究員 田所 則夫

これは、私が、国道6号柿橋下から下流の竹瓦橋までの久慈川右岸約2km程を、1年間ほぼ毎日、同時刻に歩いて観察した記録です。半世紀前までは、この範囲には、きれいな小石の川原が広がっていましたが、今では、その上に泥が厚く堆積し、そこに雑草が繁茂し、歩くのも困難な状態となっています。しかし、現在は、川岸に歩道が作られ気持ちよく歩ける環境が整備されています。そこを歩くと、遠くの風神山や真弓山に細長い雲海がかかったり、川岸のクズの花にたくさんの種類のチョウがいたり癒されるひとときとなっています。今回は、そうした久慈川の自然の中で過ごす主な野鳥たちについて、その生態や疑問点等をまとめてみました。

(P 62・P 63 表1参照)

きです。歴史はつながっているのですね。巳年に巡り合った縁とロマンを感じました。

※クツワとは馬の口にはめる金具で手綱をつけて馬をあやつるのに用いるものです。

【参考文献】

佐久間勇『東海村そのあたり下ー村の民俗と伝説をたずねてー』（1989）ふるさと文庫

1 ウグイス

姿は見つけにくいですが、気になります。ウグイスは春告げ鳥とも言われ、春にきれいな声で鳴くイメージですがここ久慈川では、8月下旬まで鳴いています。

（1）ウグイスは、どうして夏まで鳴いているのか。

初音といえば、わざわざウグイスと断らなくとも、ウグイスがその年の春に初めて鳴く声のことです。東海村内久慈川原竹藪の初音は2/21でした。2025年は2/11が初音でした。それは、ホーと鳴く部分はなく、ホケキョ、ホケキョと小さな声で鳴き、まるで、地鳴きの続きのようで、さえずりには程遠いものでした。

その翌日は鳴かず、翌々日、今度は、また小さな声で、ホケキョと泣いた後、ケキョケ

キヨとこれも小さな声の谷渡りで、しかも1分近く鳴いていました。そしてさえずり最終は8/17でした。「茨城の野鳥」によれば、「県内では、夏は山地で繁殖し、冬は暖地に移動する。」とあります。(1999年)

また、茨城県鳥類繁殖分布調査報告2016・2021では東海村の範囲に繁殖のドットが落ちていようにも思われ、繁殖の可能性はあるようです。久慈川では

どうなのでしょう。さえずりとは「オスがメスを呼ぶ、あるいは求愛、加えてなわばり宣言の意味がある鳴き方」と定義されています。ウグイスの場合、オスが大きな声でさえずるのは強くて健康な証拠。メスに選ばれる決め手となります。つまりは、さえずりは繁殖を示すサインといえます。研究によればウグイスのオスは直径200m程の範囲でさえずり、縄張り宣言と花嫁募集を行う。メスがやってきてつがいになったかと思うと、また別のメスを求めてさえずりを続行。先のメスは1羽で巣作りから子育てまでを行う。

こうして、オスは6から7羽のメスとつがいになることもあるという。1羽のオスのなわばりの中でメスの数だけ、巣があることになる。メスは、子育てが成功してもしなくても、1回目の繁殖が終わると、別のオスのなわばりへ移動して、また、繁殖する。このため、メスが来そうな間、オスは長いこと鳴き続けるのだそうです。オスはさえずることばかりで、1羽でも多くのメスを呼ぶことしか頭にない。一方、メスは、ひたすら子育

てに当たる。オスは一夫多妻、メスは移り気な一夫一妻制という鳥なのです。巣を確認したわけではありませんが、断定はできませんが、久慈川では、夏の間、山地に移動せずに、繁殖している可能性があると考えられます。そう考えると、春から夏までの長い間鳴いているのが納得できる気がします。

(2) さえずりから地鳴きはどうなっているのか。

「ホーホケキヨ」から「チャッチャ、チャッチャ」へとほぼ同じ場所、ほぼ切れ目なく続いているので、同一個体が鳴き方を変えたと考えるのが自然な気がします。特に準備の鳴き方等の変化は全くなく、突然、鳴き方を変えたと思われる。

8/17初地鳴きがあったが、その後は、はつきりと確認できた地鳴きは、1/15となりました。その間、地鳴きは確認できませんでした。仮に夏場、山地に大部分が移動したとしても、冬季は戻ると思われますので、地鳴きが冬期間聞こえないのは不自然に思えます。夏場は子育てでさえずり、冬場は地鳴きをすると思っていましたが、実際はどうなのでしょう。地鳴きの意味は研究によると、「仲間同士の存在確認、飛び立つときのかけ声、飛んでいるときの声、群れの鳴き合い、警戒、威嚇、闘争等」とあります。つまり、地鳴きは小鳥の日常会話の声のこと。そうだとすると、気づかないだけで、秋から冬にかけてもこの地鳴きを聞き取りにくいがしていることが想像されます。

(3) ウグイスの谷渡りで人を威嚇する?

「ホーホケキヨ」の合間のケキヨケキヨ「ケキヨ」を谷渡りというのですが、どうも、私が近づくとそれに変わったように感じるものが何回ありました。カラスが近づいたときも谷渡りになったことがありましたが、人間を天敵と見なして、威嚇することがあるのでしょうか。研究によれば、威嚇は確かにあり、それは繁殖期のみで、応で、冬季はそうした。鳴き方はないので、なわばり宣言の意も考えられるとのこと。

ホーホケキヨが2秒足らずなのに対して谷渡りは、平均で30秒もかかることからとも言えるとのこと。ですから、やはり人間に対しても威嚇しているようです。

2 セツカ

夏には、アシ原の上を飛ぶ姿をいつも見ることができます。見つけやすい鳥です。茶色で、スズメより少し小さい感じがします。セツカは東海村では、10/1以降冬場は見かけないので、その間は南の暖かい地方に移動すると考えられます。それでは、この久慈川で何をしているのでしょうか。繁殖については、前述の繁殖分布調査では、確認されていません。この地へは、畑の麦や河原の草の丈も少し伸びた4月中旬頃、渡ってきます。2024年は4月20日、25年は4月12日です。それらの中に、枯れ草とクモの巣で固めて、深い壺型の巣を作るとのことです。繁殖期には、その上空を上下しながら飛び、上がるときは「ヒッヒッヒ」下がるとき

は「ジャッチャジャッチャ」と鳴き続けます。こうした光景が久慈川原のアシ原で多数見かけますので、巣は確認できていませんので確定はできませんが繁殖の可能性ががあります。

3 オオヨシキリ

夏、川岸のアシに止まって大きな声で鳴く姿を見ることがあります。

東海村には夏鳥として、水辺のアシ原に4月下旬に渡来し、アシのてっぺん近くで、「ギョギョシギョシギョシ・ケケシケケシ」とにぎやかに鳴きます。あまり鳴き声が大きいの、カエルが鳴いているのかと思う方もいるかもしれません。

研究によれば、オオヨシキリも一夫多妻とのことですが、繁殖期間は、7月中旬頃までとウグイスに比べて短いようです。鳴き声や姿だけで考えると、この地では7月中旬には、鳴かずかつ姿も見えないのでそのころ帰ると考えられます。繁殖しているかどうかは不明です。前述の調査でも、確認されていません。久慈川原で姿が見られるのは以外に短い、期間限定となります。

4 その他の野鳥たち

季節毎に多くの野鳥が訪れます。

観察できた記録をカレンダーにまとめました。

【参考文献】

『鳥の雑学事典』山階鳥類研究所著2004 日本実業出版社
『鳥のおもしろ私生活』ピッキオ編著1997 主婦と生活社
『鳥はなぜ鳴く?』ホーホケキヨの科学 松田道生著2019 理論社
『茨城の野鳥』望月和男解説1985 茨城新聞社出版センター
『野鳥観察を楽しむフィールドワーク』2023 藤井幹著 誠文堂新光社

7月			8月			9月			10月			11月			12月			2025年 1月		
上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
				8/13 さえずり 8/14 鳴かず 8/15 鳴く 8/17 初地鳴き															1/11 初音 (小声) 1/15 地鳴き	
				8/13 鳴く数 減る			9/18 全く 鳴かず		10/1 姿を見 かける (最後)											
7/4 鳴か ない	7/13 2~3 鳴く (終認)																			
		7/25 畑道で	8/8 畑道で	8/14 河川敷 グランドで			9/18 川原 姿見る (終認)													
										10/20 7羽初認 10/24 4羽 10/29 大量飛来 100							12/28 2羽 (終認)			
										10/20 5羽 初認				11/24 10羽 (終認)						
												11/4 カンム リカイ ツブリ 来る								
7/4 鳴か ない			8/5 鳴く数 少ない						10/6 さえずり 始めた											
							9/18 鳴く (最終 確認)													
									10/6 10羽	10/15 30羽	10/24 50羽 10/31 昼時は いない									

この間は留鳥なので川ではない別の場所で生活か。

←

→

レポート11 表1 私の久慈川の鳥観察カレンダー



	2024年 1月			2月			3月			4月			5月			6月		
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
ウグイス	← 地鳴きの期間 →					2/21 初音 (さえずり)							← さえずりの期間 →					
セッカ											4/20 初鳴き							
オオヨシキリ										4/27 初鳴き				5/22 3箇所で鳴く	6/1 いたるところで鳴く 6/4 いつもの場所で鳴かない	6/13 鳴く数減ってきた	6/22 鳴き声聞こえない	
ツバメ (夏鳥)										4/6 初認 自宅				5/22 自宅、営巣せず				
ツグミ (冬鳥)				2/7 ツグミ 2 川岸 ヤブ 初認				3/31 開けた場所で見かけない		4/12 川岸に複数確認								
マガモ																		
ヒドリガモ																		
カンムリ カイツブリ				2/8 カンムリ カイツブリ 2						4/13 カンムリ カイツブリ 1	4/27 カンムリ カイツブリ いる							
アマサギ													5/11 初認			6/16 姿見せる		
ホオジロ	1/14 冬でも鳴いている				2/15 小さなさえずり 鳴く											6/11 さえずり		
モズ			1/25 この冬 初高鳴き															
カルガモ	1/20 50羽、 3群			2/1 100羽						4/1 川に 10	4/13 川に 3		5/4 川に水鳥なし 5/6 6羽	←				

博物館長と歩く 植物観察会

写真撮影と植物メモ
まる博研究員

写真撮影協力
案内 交流館

山本美恵子
鶴るみ子
立川 義雄
島根 栄
安嶋 隆

1 はじめに

博物館長と歩く植物観察会は「交流館周辺や村内各地を歩いて植物を観察し、身近な自然環境に親しみ、郷土理解を深める。」ことを目標に、毎月第3土曜日の午前9時00分から11時に実施した。

2 各観察会の日時、観察テーマ、観察場所

※本文中の地図は電子地形図250000（国土地理院）を加工して作成した。

令和6年

● 4月20日（土）、桜の見分け方。船場集会所・東海村営農生活改善センターと船場稲荷神社

● 5月18日（土）、道ばたの雑草を区別する。石神城址公園周辺

● 6月8日（土）、雑木林の樹木とナラ枯れ。押延ため池

● 7月27日（土）、クロマツ林内の植物。豊岡なぎさの森

● 8月17日（土）、標本で外来植物を知る。中央公民館

● 9月21日（土）、水田雑草と外来植物。真崎ふれあいの森

● 10月19日（土）、実と樹皮から樹木の名前を知る。豊受

● 11月16日（土）、紅葉のしくみ。総合福祉センター「絆」

● 12月21日（土）、葉痕や冬芽から樹木の種類を知る。白

方コミセン周辺

3 観察会で心がけたこと

第1は「植物に親しむ」こと。

気になった植物や疑問に思ったことを聞いたり、お互いに教えあったり、あるいは雑談をしながら植物とともに親しむ。そして全員が参加者の1人であることを意識する。

第2には「五感」を使うこと。

・目で観て、葉の形態や花の構造を観察してみる。
・噛んでみて、果実の味や茎の苦みを感じる。
・手の感触で葉や茎のざらつきや毛の生え方を感じる
・嗅いでみて、花や葉の臭いの違いを感じる。

・時には耳を澄まして、草や木のそよ音に注意してみる。
第3には植物を知ることが歴史、民俗などを学ぶことに通じている。

・植物名の由来や花のつくりを知ると先人たちの生活や人と植物の関わり合いが思い浮ぶ。
・先人は食用、薬草、生活用具など、植物を日常生活の中でごく普通に利用していた。
・野外での観察から先人の生活の知恵を学んでみよう。

4 各月の観察内容と記録

● 4月20日（土）桜の見分け方

(1) コース 船場集会所と船場稲荷神社

(2) 観察内容

① 船場集会所と船場稲荷神社の桜

船場集会所の桜は昭和53年3月に結城市の日本花の会より、7品種約100本購入して植えられたという。集会所広場の大きく成長したサクラは地元住民の手で大切に守られている。船場稲荷神社ではシダレザクラとソメイシノが満開であった。



ここでは以下のような桜（品種を含む）を観察した。

ウコン（鬱金）、カンザン（関山）、キクザクラ（菊桜）、ギョイコウ（御衣黄）、シダレザクラ（枝垂れ桜はエドヒガンの園芸品種でベニシダレ、ヤエシダレ、ヤエベニシダレなどあり）、ソメイシノ（染井吉野はオオシマザクラ×エドヒガンの雑種）、フゲンゾウ（普賢象）など。



▲船場稲荷神社の桜



▲船場集会所の桜

②村内の桜を見る順序

村内の桜は2月に始まり5月まで多種類の桜を楽しむことができる。

2月カワヅザクラ→シダレザクラ→3月下旬オオシマザクラ→4月上旬ソメイヨシノ→4月下旬ヤマザクラ→5月八重桜→ウワミズザクラ、イヌザクラ。

③村内の桜は次の4種類が区別できれば指導者になれる

シダレザクラ→葉が展開しておらず、枝が垂れている。公園、個人宅に植えられている。

オオシマザクラ→緑の葉と真白い花が特徴。公園、学校、街路樹、雑木林に多い。

ソメイヨシノ→豪華な花で、花期に葉は展開していない。真っ白から後に少しピンク。学校、公園、街路樹などに多い。植えた場所から広がらない。

ヤマザクラ→緑や褐色の葉と白っぽい花。雑木林にオオシマザクラの花が終わった頃に咲き始める。

④観察した主な植物

イチヨウ（一葉）、ウコン（鬱金）、ウラシマソウ、エドヒガン、オオシマザクラ、カンザン（関山）、スズメノカタビラ、ソメイヨシノ、ドクダミ、ナガバジャノヒゲ、ヒイラギ、ヒサカキ、ヒノキ、ヤブラン、ヤマザクラ。



▲観察の様子

●5月18日（土）道ばたの雑草を区別する

(1)コース 石神城址公園周辺のあぜ道



(2)観察内容

①雑草とは

勝手に繁茂している植物の総称。雑草という植物の分類があるわけではなく、便宜上使用している呼び名。たとえばキキョウは昔は雑草、今は絶滅危惧種に指定されている。生える場所は水田、畑、果樹園、庭園、芝生、道ばたなど人家付近に多い。今回は農道付近を中心に観察を実施した。最近では外来植物の多くが雑草とよばれている。



▲用水路



▲用水路沿いの農道

②外来植物とは

もともとその地域に生息していなかったのに、人間の活動で他の地域から持ち込まれた生物や植物のこと。外来種が入ってくる原因はさまざまで、人間が意図的に持ち込む場合と、意図せずに自然と持ち込まれる場合がある。

③観察した主な雑草や外来植物

アオキ、アオツラフジ、アカツメクサ、アカメガシワ、イタドリ、イヌスギナ、イヌムギ、イボタノキ、ウバユリ、ウラシマソウ、ウワミズザクラ、エゴノキ、エノキ、オオイヌノフグリ、オニウシノケサ、オニノゲシ、オヤブジラミ、オランダミミナグサ、カキドオシ、カタバミ、カナムグラ、カニツリグサ、ガマズミ、カマツカ、カモガヤ、カラスノエンドウ、カラスムギ、クイモ、キブシ、キュウリグサ、クスマツメクサ、コブシ、コメツブツメクサ、シロダモ、シロツメクサ、スイカズラ、スイバ、スギナ、スズメノヤリ、セイタカアワダチソウ、セイヨウアブラナ、セイヨウカラシナ、セイヨウタンポポ、タチイヌノフグリ、タラノキ、チガヤ、ツタウルシ、ツメクサ、ツリバナ、テイカガサ、トキワハゼ、ドクダミ、ナガバヤブマオ、ナツツタ、ニガナ、ニワトコ、ナルデ、ノイバラ、ノダケ、ノビル、ノブドウ、ハコベ、ハナウド、ハハコグサ、ハルジオン、ハンノキ、ヒゴクサ、ヒメオドリコソウ、フキ、フジ、ブタナ、ベニシダ、ヘビノネゴザ、ヘラオオバコ、ホウチャクソウ、ホツタチカタバミ、マメグンバインズナ、ミズヒキ、ミゾイチゴツナギ、ミツバアケビ、ムラサキケマン、モミジイチゴ、ヤエムグラ、ヤブカラシ、ヤマウコギ、ヤマダマ、ヤマユリ、ヨモギ。



▲観察の様子

●6月8日(土) 雑木林の樹木とナラ枯れ

(1)コース 押延ため池いこいの森の散策コースを一周



▲観察ポイント

(2)観察内容

・コース内での①から⑦のポイントで観察を実施し、ナラ枯れが拡大していることを確認した。

①代表的な樹木

オオシマザクラ、ヤマザクラ、ウワミズザクラ、イロハモミジ、ヤマツツジ、ムラサキシキブ、コナラ、エゴノキ。

③コナラ林の植物

ヤマユリ、ノガリヤス、チゴユリ、タガネソウ、ナツツタ、モミジイチゴ、アカシデ、コナラ、タチドコロ、ウリカエデ、コバギボウシ、オカトラノオ、ホソバヒカゲスゲ。

④水田跡

キバナアキギリ、タガネソウ、ケチヂミザサ、ミゾシダ、ヤブコウジ、マンリヨウ、アマチャヅル、ヤブラン。

⑤水田跡

ヒメシダ、ヒメガマ、ガマ、セイタアワダチソウ、セリ、ミゾソバ、クサヨシ、イ、ア



▲観察の様子

レチギンギシ、アカバナ、イヌスギナ、ヤナギ類

⑥常緑樹の混じるコナラ林

シラカシ、コウヤボウキ、ネジキ、チゴユリ、タガネソウ、アカガシ、ヒサカキ、イナカギク、シラヤマギク、ヤマウルシ。

⑦外来植物

アカバナユウゲショウ、ブタナ、コマツヨイグサ、メマツヨイグサ、マメグンバイナズナ、セイヨウタンポポ、ナガミヒナゲシ、ウラジロチコグサ、キキョウソウ、イヌムギ、アメリカフウロ、ネズミムギ

●7月27日(土) クロマツ林内の植物

(1)コース 豊岡なぎさの森

(2)観察内容

豊岡なぎさの森は昭和52年に茨城県豊岡自然環境保全地域に指定された。その後、散策路が整備されたが、最近では維持管理が不十分で林内は樹木類が目立ってきている。

クロマツ林とアカマツ林の違いや主な種類を観察した。



①林内の代表的な植物



▲カワラナデシコ



▲ガクアジサイ



▲オニユリ



▲アジサイ



▲ナガバモミジイチゴ



▲フユイチゴ



▲アカマツ林



▲クロマツ林

② アジサイの学名裏話

シーボルトは日本の植物であるアジサイを愛し、『日本植物誌（フローラ・ヤポニカ）』には、日本で知り合った「オタキさん」という女性の名前からつけられたといわれる「Hydrangea otaksa」という学名でアジサイが紹介されている。

ただ、アジサイの学名はシーボルトが命名する以前に「Hydrangea macrophylla」という名前で発表されていたのでオタクサの名前は認められませんでした。

Hydrangea は「水の器・水瓶」という意味。果実の形が水瓶に似ていることから。

macrophylla は「大きな葉っぱ」という意味。



▲観察の様子



● 8月17日（土） 標本で外来植物を知る

(1) 場所 中央公民館

(2) 観察内容

押し葉標本の作成方法と外来植物の紹介。

押し葉標本の作成方法を標本の歴史や作成器具を含めて紹介し、参加者に標本作成体験を実施した。また東海村の外来植物を画像にて説明した。

① 歴史意義

標本を研究の素材として利用するようになったのはヨーロッパの本草学が最初。

本草学の長い歴史の上では比較的新しいことで、16世紀に入ってから。日本では、19世紀以後のこと。

押し葉標本の創始者はイタリアの本草学者、ルカ・ギニー（1490・1556）とされている。ヨーロッパでは、13世紀には乾燥させた花の色を保持する方法が存在したことから、もっと古い時代の押し葉標本が発見される可能性は残るという。

② 標本の意義

ある名前（学名）で呼ばれている植物は、どのような形態的特徴を備えているか、地球上のどこに分布しているか、というような情報はすべて証拠があつてこそ科学的な情報である。その証拠となるものが標本であり、植物学の場合、もっとも効率のよい保存方法として、乾燥して台紙に貼付した「さく葉標本」が国際的に採用されてきた。

③ 研究の証拠資料としての標本

研究成果を論文に発表する場合、材料に用いた植物の証拠標本を、公共の標本館に保存し、それを明記することが常識となりつつあり、多くの学術論文では論文受理のための条件としてあげている。

④ 同定の参考資料としての標本

植物の名前を調べる（同定する）ために、一般には図鑑類や文献などが用いられるが、標本となっている実物と比較すれば、より効率よく同定することができる。

⑤ 標本作成の手順

・ 現地で植物を採集（せんてい、根堀を利用）して、新聞紙に挟む（野冊）か、胴乱に入れる。
・ 帰宅したら吸収紙（新聞紙）の間に標本を挟んだ新聞紙を重ねて重石を載せる。

・ 乾燥↓吸収紙（新聞紙）で水分をとる。

・ 吸収紙の交換を2週間ぐらい続ける。乾燥器を使えば1〜2日で乾燥する。

・ 図鑑や文献で名前を調べる。

・ ラベルを入れて整理する。↓ビニール袋とナシ箱。

・ 時には標本台紙に貼る。↓標本添付器を使用。

⑥ 代表的な外来植物を標本と画像で紹介

アツミゲシ（ケシ科）、アメリカアゼナ（ゴマノハグサ科）、アメリカイヌホオズキ（ナス科）、アメリカオニアザミ（キク科）、



▲オオキンケイギク



▲アツミゲシ



▲ナガミヒナゲシ



▲オニハマダイコン

アメリカカシグサ（ミソハギ科）、アメリカキンゴジカ（アオイ科）、アメリカスズメノヒエ（イネ科）、アメリカセンダングサ（キク科）、アメリカカタバミ（キク科）、アメリカネナシカズラ（ヒルガオ科）、アメリカフウロ（フウロソウ科）、アレチウリ（ウリ科）、アレチギシギシ（タデ科）、アレチヌスビトハギ（マメ科）、イガオナミ（キク科）、イタチハギ（マメ科）、イチビ（アオイ科）、イヌカタヒバ（イワヒバ科）、イヌコモチナデシコ（ナデシコ科）、イヌムギ（イネ科）、エゾノギシギシ（タデ科）、オオイヌノフグリ（ゴマノハグサ科）、オオオナミ（キク科）、オオカヂシャ（ゴマノハグサ科）、オオカワヂシャ（ゴマノハグサ科）、オオキンケイギク（キク科）、オオケタデ（タデ科）、オオニシキソウ（トウダイグサ科）、オオフタバムグラ（アカネ科）、オオブタクサ（キク科）、オウゴン（キク科）、カタバミ（キク科）、オニハマダイコン（アブラナ科）、オランダガラシ（アブラナ科）、カキネガラシ（アブラナ科）、カギザケハコベ（ナデシコ科）、カクレミノ（ウコギ科）、カナリーキヅタ（ウコギ科）、カモガヤ（イネ科）、カラシナ（アブラナ科）、カワランジン（キク科）、キクイモ（キク科）、キシノウエ（アヤメ科）、キダチコマツナギ（マメ科）、キチジョウソウ（ユリ科）、キバナノマツバニンジン（アマ科）、クスダマツメクサ（マメ科）、クルマバザクロソウ（ザクロソウ科）、コシロノセンダングサ（キク科）、コスズメガヤ（イネ科）、コセンダングサ（キク科）、コニシキソウ（トウダイグサ科）、コバノセンダングサ（キク科）、コバンソウ（イネ科）、コマツヨイグサ（アカバナ科）、コメツブツメクサ（マメ科）、ゴウシュウアリタソウ（アカザ科）、シナダレスズメガヤ（イネ科）、シマスズメノヒエ（イネ科）、シラユキゲシ（ケシ科）、セイタカアワダチソウ（キク科）、セイタカハハコグサ（キク科）、セイバンモロコシ（イネ科）、セイヨウアブラナ（アブラナ科）、セリリョウ（セリリョウ科）、タカサゴユリ（ユリ科）、タチイヌノフグリ（ゴマノハグサ科）、ダンドボロギク（キク科）、チャボウシノシツベ（イネ科）、ツボミオオバコ（オオバコ科）、ツルドクダミ（タデ科）、ツルニチニチソウ（キョウチクトウ科）、ツルマンネングサ（ベンケイソウ科）、ナガバオモダカ（オモダカ科）、ナガバギシギシ（タデ科）、ナガミヒナゲシ（ケシ科）、ナヨクサフジ（マメ科）、ナンバンカラムシ（イラクサ科）、ニワゼキショウ（アヤメ科）、ハキダメギク（キク科）、ハス（スイレン科）、ハナナカススキ（イネ科）、ハリエンジュ（マメ科）、ハルザキヤマガラシ（アブラナ科）、ハルシャギク（キク科）、ハングショウ（ドクダミ科）、ヒメイワダレソウ（クマツヅラ科）、ヒメオドリコソウ（シン科）、ヒメマツバボタン（スベリヒユ科）、ヒメムカシヨモギ（キク科）、ヒルザキツキミソウ（アカバナ科）、ピロートモウズイカ（ゴマノハグサ科）、フッキソウ（ツゲ科）、

ブタクサ（キク科）、ブタナ（キク科）、ヘラオオバコ（オオバコ科）、ベニバナボロギク（キク科）、ホウキギク（キク科）、ホソバヒメミソハギ（ミソハギ科）、ボタンクサギ（クマツヅラ科）、マツバウンラン（ゴマノハグサ科）、マツヨイグサ（アカバナ科）、マルバコウ（ヒルガオ科）、ムギクサ（イネ科）、メマツヨイグサ（アカバナ科）、メリケンカルカヤ（イネ科）、ヤセウツボ（ハマウツボ科）、ヤナギハナガサ（クマツヅラ科）、ユウゲショウ（アカバナ科）、ヨウシュヤマゴボウ（ヤマゴボウ科）、ワルナスビ（ナス科）。



▲観察の様子

●9月21日（土）水田雑草と外来植物

(1) コース 真崎ふれあいの森周辺を一周



(2) 観察内容

休耕田に見られる水田雑草や外来植物を観察した。

① 水田雑草ってなに？

米作りで多くの時間を使って行われた「草刈り」は、稲の根に酸素を送り込むという目的もある重要な仕事であった。

雑草は水や養分を横取りして稲の成長を妨げる。高温多湿の日本では、すぐに雑草がはびこるため、米作りにかかる時間の半分近くが雑草取りと言えるほどであった。一方で、除草には雑草を取ると同時に、土を掻き混ぜることによって、根に酸素を送り込むという目的もあった。つまり、農家にとっては水田雑草は、最大の敵であったが、除草剤の普及に伴って、その多くが絶滅危惧植物になった。

② 外来植物ってなに？

人間の活動によって他の地域から存在していなかった地域へ持ち込まれた生物のこと（在来種…従来からその地域で生息・生育する）。

村内で目立つ外来植物には、アレチウリ、イタチハギ、イチビ、オオアレチノギク、オオアワダチソウ、オオオナモミ、オオカナダモ、オオキンケイギク、オオバタクサ、オニウシノケグサ、カモガヤ、キシヨウブ、シナダレスズメガヤ、セイタカアワダチソウ、ハリエンジュ、ハルジオン、ヒメジョオンなどがある。

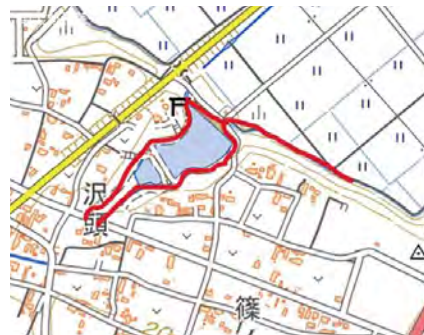
③観察した主な植物

アオキ、アカガシ、アカメガシワ、アキノウナギツカミ(雑草)、アキノエノコロ(雑草)、アズマネザサ、アメリカイヌホオズキ(外来)、アメリカセンダングサ(外来)、アメリカタカサブロウ(外来)、イボクサ(水田雑草)、エノキ、エノキグサ(雑草)、オオアレチノギク(外来)、オオオナモミ(外来)、オオバイボタ、オモダカ(水田雑草)、カラスザンショウ、キカシグサ(水田雑草)、キツタ、クサネム(水田雑草)、クズ(雑草)、クワクサ(雑草)、コアゼガヤツリ(水田雑草)、コツブキンエノコロ(雑草)、コナギ(水田雑草)、コバギボウシ、シケシダ、シナダレスズメガヤ(外来)、シラカシ(虫こぶ)、シロダモ(虫こぶ)、ススキ(雑草)、セイバンモロコシ(外来)、センニンソウ(雑草)、ツリフネソウ(雑草)、ニラ(外来)、ヌカキビ(水田雑草)、ハリエンジュ(外来)、ヒサカキ、ヒナガヤツリ(水田雑草)、ヒメクダ(水田雑草)、ヒヨドリジョウゴ、ブタナ(外来)、ベニシダ、ホラシノブ、ミズヒキ、ミゾソバ(水田雑草)、メヒシバ(雑草)、メリケンカルカヤ(外来)、ヤナギイノコヅチ、ヤブツルアズキ、ヤブラン。



●10月19日(土)実と樹皮から樹木の名前を知る

(1)コース 豊受皇大神宮周辺



(2)観察内容

①次の種類について、実と樹皮を比較してみた。

アカガシ、ガマズミ、キブシ、ザクロ、シロダモ、スダジイ、ハンノキ、ヒサカキ、ムラサキシキブ、ヤマモモ。



▲ムラサキシキブ



▲ムラサキシキブ



▲ハンノキ



▲ハンノキ



▲ヤマモモ



▲ヤマモモ



▲ヒサカキ



▲ヒサカキ



▲シロダモ



▲シロダモ



▲キブシ



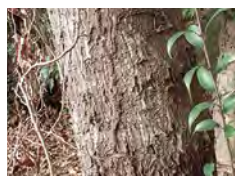
▲キブシ



▲アカガシ



▲アカガシ



▲スダジイ



▲スダジイ



▲ザクロ



▲ザクロ



▲ガマズミ



▲ガマズミ



② 次の植物について、ミニ知識として紹介した。

・ヌルデ（ウルシ科） 膠木・塩膚木

雄株と雌株がある。つけたときに出る白い汁を塗り物に使用する。ヤマウルシなどに比べるとかぶれにくい。果実の表面には塩分があり、鳥に好まれるという。昔は塩分補給に口に含んだ。虫こぶヌルデミミフシはタンニンに富んでいてお歯黒の材料になる。

・ツリフネソウ（ツリフネソウ科） 釣船草

萼片は3個で紅紫色の花弁状。上部の2片は小さく、1片は大きく後半部は急に細い管状の距になり、渦巻き状に巻く。花弁は紅紫色で5個あるが側方の大小2花弁がそれぞれ合着しているのので3個に見え、合着した花弁は下側に唇弁状に広がる。園芸品種はインパチェンス↓花言葉は短気、私にふれないで、『Impatient』（我慢できない）が語源。

・カラスウリ（ウリ科） 烏瓜

熟した赤い実をカラスが食べることから（諸説あり）。虫こぶはカラスウリクキフクレフシ。

種は打ち出の小槌に似ているため、お財布に入れるとお金がたまると言われている。

・トリカブト「正式にはツクバトリカブト」（キンポウゲ科） 烏兜

花のつくりは、青色の花弁のように見える部分は、がく片。上部の筒（ヘルメット）、側部2枚かが下部。花片は2つのイの字のようになる。花弁の柄の下には多数のおしべ。地上部と地下の母根（塊根、「烏頭（うず）」）はその年の秋に枯死するが、地下茎の先に子根（嬢根、「附子（ぶし、ぶす）」）ができる。不美人のことを「ブス」というが、これはトリカブトの中毒で神経に障害が起き、顔の表情がおかしくなったのを指すという説あり。

③ 観察した主な植物

アオキ、アカガシ、アキノノゲシ、アジサイ、アメリカイヌホオズキ、イヌタデ、イヌツゲ、ウツギ、エゴノキ、オオニシキソウ、オギ、カラスウリ、カントウヨメナ、ガガイモ、ガマズミ、キクイモ、キブシ、クスノキ、コナラ、サザンカ、サルスベリ、シダレザクラ（枝垂れ桜）、シダレヤナギ、シロダモ、スギナ、ススキ、スダジイ、セイタカアワダチソウ、タブノキ、チカラシバ、チャノキ、ツクバトリカブト、ツリフネソウ、テイカカズラ、ノビル、ノブドウ、ハンノキ、ヒガンバナ、ヒサカキ、ヒナタイノコヅチ、ヒノキ、ヘクソカズラ、マダケ、ミズヒキ、ミゾソバ、ムラサキシキブ、ムラサキツメクサ、メリケンカルカヤ、モウソウチク、モチノキ、モッコク、ヤブカラシ、ヤブツバキ、ヤブラン、ヤマグワ、ヤマハッカ、ヤマモモ、ユウガギク、ヨシ、ワレモコウ。



▲観察の様子

● 11月16日（土）紅葉のしくみ

(1) コース 総合福祉センター「絆」周辺の雑木林



(2) 観察内容

① 紅葉のしくみを説明した。

② 次の植物を採集し、模造紙に並べて比較してみた。

アオキ、アオハダ、アカガシ、アカシデ、アカメガシワ、イヌザンショウ、イヌツゲ、ウツギ、エゴノキ、エノキ、カラスザンショウ、キブシ、クサギ、クマシデ、クリ、コナラ、コブシ、コマユミ、サルトリイバラ、シラカシ、シロダモ、スギ、スダジイ、タラノキ、ツルグミ、テイカカズラ、トベラ、ヌルデ、ネズミモチ、ヒイラギ、ヒサカキ、フジ、ミツバアケビ、ヤツデ、ヤマウルシ、ヤマグワ、ユズリハ。



▲紅葉する樹木一覧

●12月21日(土) 葉痕や冬芽から樹木の種類を知る

(1) コース 総合福祉センター「絆」周辺



(2) 観察内容

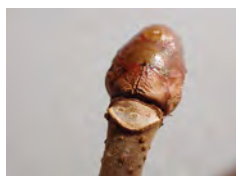
① 葉痕の説明

・葉跡は葉がついていた痕。木の種類によって、いろいろな形をしている。葉痕が大きいものは、葉も大きくて、複葉だったりする場合が多い。葉痕の中にある目や口にみえるものは、水や養分の通り道だった維管束の痕。樹種によっておおよそ数が決まっている。

② 観察した葉跡



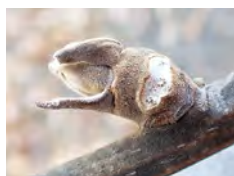
▲マユミ



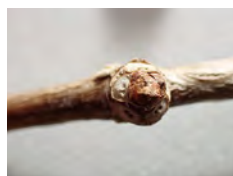
▲トチノキ



▲コナラ



▲オニグルミ



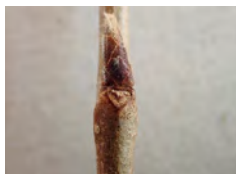
▲イチョウ



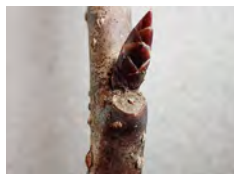
▲ミズキ



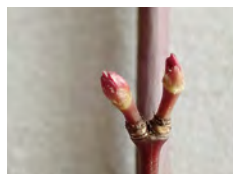
▲ハナミズキ



▲シダレザクラ



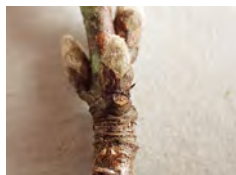
▲カワヅザクラ



▲イロハモミジ



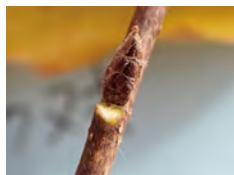
▲ムラサキシキブ



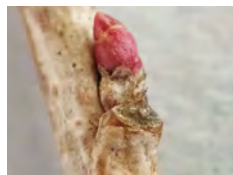
▲ハナモモ



▲ソメイヨシノ



▲クヌギ



▲ウワズミザクラ



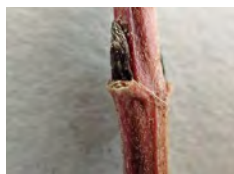
▲ヤマグワ



▲ブナ



▲タラノキ



▲クマノミズキ



▲エゴノキ



▲クリ



▲エノキ

③ 観察した主な植物

アオキ、アカガシ、イチョウ、イヌガヤ、イロハモミジ、ウワズミザクラ、エノキ、エビヅル、キブシ、クマノミズキ、クリ、クロマツ、コナラ、サネカズラ、スギナ、ノブドウ、ハゼノキ、フジ、マユミ、ムラサキシキブ、モチノキ、ヤツデ、ヤブツバキ、ヤマグワ

● 1月18日（土） ロゼット葉で冬越しする植物を
探す

(1) コース 交流館周辺



(2) 観察内容

ロゼット葉で冬越しする植物を探しながら、オオイヌノフグリやハシノキの花を観察した。

① 植物の葉が『バラの花びらのように放射線状に並んだ形状』を、ロゼット（英語で『rosette』）あるいはロゼット葉と呼ぶ。次のような植物を探した。

② オオイヌノフグリミニ知識

明治の初めにヨーロッパから日本に伝わってきた帰化植物。別名「星の瞳」。オオバコ科クワガタソウ（ベロニカ）属、ネモフィラはムラサキ科ネモフィラ属。花は葉腋ごとに1個ずつ。花冠は長さ1 cm内外で深く4裂。花は太陽の光によって開閉し、1日で落花。花の中央の1本がめしべ、その外側の2本がおしべ。

③ ハシノキの花ミニ知識

水に埋もれても育つため、水田の脇に並木状に植えて稲掛け（はざ架け）の梁に使ったことから「ハリノキ（梁の木）」と呼ばれ、それが転化してハシノキとなったとする説。

・開墾を意味する古語「墾（はり）」に由来するとする説がある。

④ ロゼット葉で見分けが難しいグループを葉を比較しながら観察した。

・ギシギシ類 ↓ ギシギシ スイバ ヒメスイバ ナガバギシギシ エゾノギシギシ
・雑草の代表 ↓ オオアレチノギク ヒメムカシヨモギ ハルジオン ヒメジョオン
・菜の花類 ↓ セイヨウアブラナ セイヨウカラシナ。



▲ハルジオン



▲セイタカアワダチソウ



▲エゾノギシギシ



▲アレチウリの実



▲ヒガンバナ



▲セイヨウカラシナ



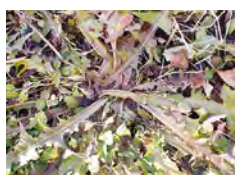
▲オオアレチノギク



▲カナムグラ



▲ヒメオドリコソウ



▲セイヨウタンポポ



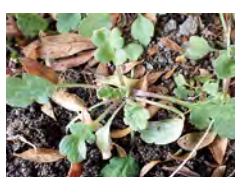
▲オオイヌノフグリ



▲ウラジロチチコグサ



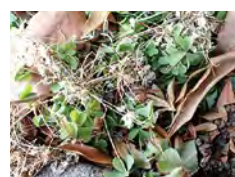
▲ヘラオオバコ



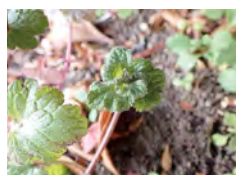
▲ナガミヒナゲシ



▲キツネアザミ



▲オッタチカタバミ



▲ホトケノザ



▲ノゲシ



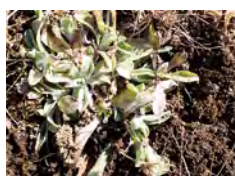
▲キュウリグサ



▲オランダミミナグサ



▲ヨモギ



▲ハハコグサ



▲スイバ



▲カラスノエンドウ

・タンポポ類↓カントウタンポポ セイヨウタンポポ

⑤ 観察した主な植物

アレチヌスビトハギ、ウラジロチコグサ、エゾノギシギシ、オオアレチノギク、オオイヌノフグリ、オオキンケイギク、オニタビラコ、オランダミミナグサ、カクレミノ、ガマ、キツネアザミ、キュウリグサ、ギシギシ、コセンダングサ、コナラ、シキザクラ（四季桜）、シロタモ、セイタカアワダチソウ、セイバンモロコシ、ソメイヨシノ、タチイヌノフグリ、タラノギ、ナガミヒナゲシ、ヌカキビ、ハンノキ、ブタナ、ヘラオオバコ、ベニシダ、ホトケノザ、マツカサスキ、メマツヨイグサ、ヤハズエンドウ、ヤブカラシ、ヤブツバキ、ヨモギ、雑種タンポポ。



▲観察の様子

●2月15日（土） 押しば標本作成方法

(1) コース 交流館内

(2) 観察内容

押し葉標本作成方法については令和6年8月実施の内容に同じ。今回は植物標本の楽しみ方を学習した。

① 植物標本の楽しみ方 観察記録を残そう

標本は実物資料としてたいへん重要なものですが、標本とあわせて観察記録や写真、スケッチなども上手に整理すれば貴重な資料になる。

・情報カード 標本ラベルの情報や野帳に記録した情報をカードに記録する。パソコンを使ってデータベースを作る。

・写真 デジタルカメラが必要です。

・スケッチ 白黒の牧野図鑑がおすすめです。

・デジタル植物図鑑 スキャナを使って、採集したばかりの新鮮な植物画像を取り込む。

・コピー標本

・生きもののマップ 観察した生きものを地図上に記録する。パソコンを使って自動的に生育地点を表示。

●3月22日（土） 春の植物

(1) コース 交流館周辺

(2) 観察内容

① 次の項目について観察した。

・セイヨウカラシナとセイヨウアブラナの区別

・ハンノキの雄花と雌花

・セイヨウタンポポは本物か？

・ヤマコウバシはいつ落葉する

・ソメイヨシの花芽

・ロゼット葉の違い↓ハルジオン、オオアレチノギク、ヒメムカシヨモギ、メマツヨイグサ、ブタナ、オオキンケイギクなど。

・タネツケバナは外来種のミチタネツケバナ

・ホトケノザとヒメオドリコソウ

・ゲンノシヨウコとアメリカファウロ

・カラスノエンドウの花の秘密

・花の色はピンクと濃いピンクの2色。↓上の花びらがピンク、下の花びらが濃いピンク。



・花は5枚の花びら。正面から見ると一番後ろにある花びらは大きな1枚で、中央に2枚の花びらが合わさって袋のようになったもの、その外側に小さな花びらが2枚。中央の大きな2枚の花びらのなかに雄しべと雌しべが入っている。

② 観察した主な植物

アズマネザサ、アメリカファウロ、イノモトソウ、イモカタバミ、イロハモミジ、ウラジロチコグサ、オオアレチノギク、オオイヌノフグリ、オオキンケイギク、オオシマザクラ、オッタチカタバミ、オニグルミ、オニタビラコ、オランダミミナグサ、カラシナ、ガマ、キツネアザミ、キュウリグサ、クズ、クヌギ、ケヤキ、コスミレ、コノテガシワ、コハコベ、コメツブツメクサ、シロタモ、シロツメクサ、スイカズラ、スギナ、スズメノカタビラ、スズメノヤリ、セイタカアワダチソウ、セイヨウアブラナ、ソメイヨシノ、タチイヌノフグリ、タネツケバナ、チチコグサ、ナガバギシギシ、ナガバヤブソテツ、ナガミヒナゲシ、ナツツバキ、ニワゼキショウ、ネジバナ、ノイバラ、ノビル、ノボロギク、ハルジオン、ハンノキ、ヒメガマ、フランスギク、ブタナ、ヘラオオバコ、ホトケノザ、マツバウンラン、ミチタネツケバナ、メマツヨイグサ、ヤエザクラ（八重桜）、ヤエムグラ、ヤハズエンドウ、ヤブカンゾウ、ヤブソテツ、ヤマコウバシ、ヤマザクラ、ヤマボウシ、ユキヤナギ、ヨモギ。



▲観察の様子

令和6年度 とうかいまるごと博物館 実績

No.	タイトル	日時	実施場所/集合場所	ジャンル	参加人数	主催
1	みんなですこやかウォーキング ※雨天中止	4月5日	ふれあいの森公園から新緑のコース	健康	0	東海村健康増進課
2	博物館長と歩く植物観察会「桜の見分け方」	4月20日	舟石川周辺	自然	17	東海村生涯学習課
3	J-PARC/ハローサイエンス「中性子と単結晶が導き出す分子の真の形」	4月24日	AQBRC/オンライン	科学	48	J-PARCセンター
4	歴史と未来の交流館GWフェア	4月27日～5月5日	歴史と未来の交流館	体験	3000	東海村生涯学習課
5	ゴールデンウィークイベント	5月3日～5月5日	原子力科学館	科学	1685	(公社)茨城原子力協議会
6	企画展『マンガdeひもとく生命科学のいま「ドッキン!いのちの不思議調査隊」』	5月8日～6月16日	原子力科学館	科学	1543	(公社)茨城原子力協議会
7	東海村史を読む「縄文時代・弥生時代の東海村」	5月12日	歴史と未来の交流館	歴史	2	東海村生涯学習課
8	博物館長と歩く植物観察会「道ばたの雑草を区別する」	5月18日	石神城跡周辺	自然	14	東海村生涯学習課
9	磯の生き物観察会	5月26日	平磯海岸	自然	65	東海村の環境調べ隊
10	J-PARC/ハローサイエンス「J-PARC加速器ビームパワー増強」	5月31日	AQBRC/オンライン	科学	42	J-PARCセンター
11	3館スタンプチャレンジ	6月1日～6月30日	原子力科学館 げんでん東海原子力館別館 歴史と未来の交流館	科学	270	(公社)茨城原子力協議会 日本原子力発電(株) 東海村生涯学習課
12	イギリス船員の常陸大津浜上陸と尊王攘夷論の形成	6月2日	歴史と未来の交流館	歴史	60	東海村生涯学習課
13	古文書講座「久慈川のながれと亀下村」	6月8日	歴史と未来の交流館	歴史	17	東海村生涯学習課
14	ホタル観察会1	6月8日	真崎コミセン周辺	自然	70	東海村生涯学習課
15	博物館長と歩く植物観察会「雑木林の樹木とナラ枯れ」	6月8日	押延憩いの森	自然	16	東海村生涯学習課
16	ウミガメのおはなし ～ウミガメの楽しいお話を聞いて、君もウミガメ博士になろう!～	6月9日	原子力科学館	科学	62	(公社)茨城原子力協議会
17	東海村史を読む「古墳時代と埴輪」	6月9日	歴史と未来の交流館	歴史	5	東海村生涯学習課
18	ホタル観察会2	6月22日	真崎コミセン周辺	自然	38	東海村生涯学習課
19	新川河口ゴミ拾い・生き物植物観察(大洗水族館職員派遣)	6月23日	新川河口	自然	20	東海村自然倶楽部
20	J-PARC/ハローサイエンス 「パワーアップしたJ-PARC長基線ニュートリノ振動実験」	6月28日	AQBRC/オンライン	科学	53	J-PARCセンター
21	水戸藩改革と天保検地	7月7日	歴史と未来の交流館	歴史	61	東海村生涯学習課
22	シェリーのネイチャーラボ vol.1「海岸の漂着物くらべ」	7月13日	歴史と未来の交流館	自然	5	東海村生涯学習課
23	アインシュタイン博士からの謎解き挑戦状	7月13日～8月31日	原子力科学館	科学	1529	(公社)茨城原子力協議会
24	東海村史を読む「古代の東海村・石橋駅家」	7月14日	歴史と未来の交流館	歴史	3	東海村生涯学習課
25	のぶちゃん先生と神谷博士率いるチーム・ゲタボンの「真空」って何だ教室	7月20日	歴史と未来の交流館	科学	70	とうかい子どもキャンパス
26	げんでん夏のスマイルフェア	7月20日～7月21日	げんでん東海原子力館別館	科学	600	日本原子力発電(株)
27	ナゾを解いて宝物を手に入れろ!謎解きミッション	7月20日～8月31日	歴史と未来の交流館	科学	740	J-PARCセンター 東海村生涯学習課
28	石ころ×考古学★ロココロジー「村松海岸にコロがる漆黒の宝石を追え!」	7月23日	村松海岸	自然	13	東海村生涯学習課
29	羊毛フェルトで小鳥ブローチをつくろう	7月24日	中央公民館 会議室4・5	自然	41	東海村の環境調べ隊
30	J-PARC/ハローサイエンス「検出器周りで活躍する超伝導磁石」	7月26日	AQBRC/オンライン	科学	36	J-PARCセンター
31	博物館長と歩く植物観察会「クロマツ林内の植物」	7月27日	豊岡なぎさの森	自然	14	東海村生涯学習課
32	夜の里山の虫の観察会	7月27日	真崎コミセン周辺 会議室AB	自然	32	東海村の環境調べ隊
33	ジェットコースターを走らせろ!超伝導コースター体験	7月27日	歴史と未来の交流館	科学	70	J-PARCセンター 東海村生涯学習課
34	宇宙から降り注ぐナゾの宇宙線を目撃せよ!	7月28日	歴史と未来の交流館	科学	26	J-PARCセンター 東海村生涯学習課
35	虫博士がやってくる!一博士たちの研究日記	8月1日	村立図書館	自然	35	東海村の環境調べ隊 東海村立図書館
36	かたむいてるのに倒れない!不思議なコマづくり【低学年対象】	8月1日	歴史と未来の交流館	科学	18	J-PARCセンター 東海村生涯学習課
37	かたむいてるのに倒れない!不思議なコマづくり【高学年対象】	8月2日	歴史と未来の交流館	科学	10	J-PARCセンター 東海村生涯学習課
38	のぶちゃん先生と高柳博士のおもしろビーム教室II イライラ棒選手権	8月3日	歴史と未来の交流館	科学	60	とうかい子どもキャンパス
39	昼の里山の虫の観察会	8月4日	真崎コミセン周辺 会議室AB	自然	31	東海村の環境調べ隊
40	幕末の分離政策と「皮多集団」の戦い	8月4日	歴史と未来の交流館	歴史	61	東海村生涯学習課
41	aqila先生のプレゼン教室で楽しく環境問題を考えよう!	8月7日	総合福祉会館 多目的ホール	環境	20	東海村の環境調べ隊
42	ナゾの巨大ワラ人形「大助人形」づくり	8月8日	白方コミセン	民俗	15	東海村生涯学習課
43	シェリーのネイチャーラボ vol.2「貝がらで絵を描こう」	8月9日	歴史と未来の交流館	自然	11	東海村生涯学習課
44	鉄道の名門校「岩倉高校」がやってくる!	8月4日、8月11日	歴史と未来の交流館	イベント	150	とうかい子どもキャンパス
45	博物館長と歩く植物観察会「標本で外来植物を知る」	8月17日	歴史と未来の交流館	自然	17	東海村生涯学習課
46	古文書講座「理科の教科書を読んでみよう!」	8月17日	歴史と未来の交流館	歴史	14	東海村生涯学習課
47	東海村史を読む「中世の東海村一城と武士団」	8月18日	歴史と未来の交流館	歴史	4	東海村生涯学習課
48	ハドロンでアクセサリをつくろう	8月21日	歴史と未来の交流館	科学	30	J-PARCセンター 東海村生涯学習課
49	サイエンスショー	8月22日	舟石川コミセン 会議室1・2・3	科学	56	東海村の環境調べ隊
50	東海村のサンショウウオ みんなでシンポジウム	8月25日	歴史と未来の交流館	自然	34	東海村自然倶楽部
51	ジェットコースターを走らせろ!超伝導コースター実験	8月27日	歴史と未来の交流館	科学	25	J-PARCセンター 東海村生涯学習課
52	大実験★生物の神秘!生命の設計図「DNA」を取り出そう	8月28日	歴史と未来の交流館	科学	33	J-PARCセンター 東海村生涯学習課
53	大実験★生物の神秘!生命の設計図「DNA」を取り出そう	8月29日	歴史と未来の交流館	科学	24	J-PARCセンター 東海村生涯学習課
54	J-PARC/ハローサイエンス「ハドロンをご存知か?」	8月30日	AQBRC/オンライン	科学	56	J-PARCセンター
55	幕末における村方騒動の激化ー西部高部村、南部鯉淵村ー	9月1日	歴史と未来の交流館	歴史	61	東海村生涯学習課

No.	タイトル	日時	実施場所/集合場所	ジャンル	参加人数	主催
56	ぐるぐる博士のモデルロケット教室	9月7日	中丸小学校	科学	3	とうかい子どもキャンパス
57	博物館長と歩く植物観察会「水田雑草と外来植物」	9月21日	真崎ふれあいの森	自然	9	東海村生涯学習課
58	東海村史を読む「中世の景観と村松」	9月15日	歴史と未来の交流館	歴史	7	東海村生涯学習課
59	J-PARC施設公開2024	9月28日	J-PARC	科学	980	J-PARCセンター
60	みんなですこやかウォーキング	10月4日	中丸 パワースポットと芋葉をめぐるコース	健康	22	東海村健康増進課
61	キノコ観察会	10月5日	真崎ふれあいの森・真崎コミセン 多目的ホール	自然	34	東海村の環境調べ隊
62	駅員のお仕事：駅員さんたちによる特別鉄道講座	10月5日	歴史と未来の交流館	イベント	40	東海村生涯学習課
63	昔の民具で脱穀体験	10月6日	歴史と未来の交流館	歴史	20	東海村生涯学習課
64	幕末水戸藩内乱（天狗・諸生の乱）と世直し一揆	10月6日	歴史と未来の交流館	歴史	65	東海村生涯学習課
65	古文書講座「東海村とスポーツの歴史」	10月12日	歴史と未来の交流館	歴史	5	東海村生涯学習課
66	JR水戸吹奏楽団によるスペシャルコンサート	10月12日	歴史と未来の交流館	イベント	50	東海村生涯学習課
67	特製の手作り望遠鏡製作＆月や土星の観察教室	10月12日	歴史と未来の交流館	科学	14	とうかい子どもキャンパス
68	東海村史を読む「近世の東海村―村の成立」	10月13日	歴史と未来の交流館	歴史	4	東海村生涯学習課
69	東海村でつどう大作戦2024	10月12日～10月19日	歴史と未来の交流館	イベント	4000	東海村生涯学習課
70	鉄道の魅力：のぶちゃん先生とく「ひたちなか海浜鉄道」	10月14日	那珂湊駅ホーム	イベント	60	とうかい子どもキャンパス
71	世界にひとつだけ！オリジナルプラレールづくり	10月19日	歴史と未来の交流館	イベント	100	東海村生涯学習課
72	博物館長と歩く植物観察会「実と樹皮から樹木の名前を知る」	10月19日	豊受皇大神宮	自然	16	東海村生涯学習課
73	シェリーのネイチャラボ vol.3 「ハザードマップ巡検」	10月20日	白方コミセン	自然	4	東海村生涯学習課
74	白方公園の自然観察と保護保全	10月20日	白方公園	自然	4	東海村自然倶楽部
75	講演会「茨城の鉄道史あれこれ」	10月27日	歴史と未来の交流館	歴史	28	東海村生涯学習課
76	みんなですこやかウォーキング	11月1日	押延・天神山 水と緑の里山コース	健康	24	東海村健康増進課
77	博物館長と歩く植物観察会「紅葉のしくみ」	11月16日	村松・絆周辺	自然	13	東海村生涯学習課
78	慶応期の治安状況と那珂湊打ちこわし	11月17日	歴史と未来の交流館	歴史	64	東海村生涯学習課
79	東海村および周辺地域の野鳥―撮影裏話―	11月23日	歴史と未来の交流館	自然	10	東海村生涯学習課
80	東海村史を読む「水戸藩の宗教改革と東海村」	11月24日	歴史と未来の交流館	歴史	4	東海村生涯学習課
81	天体観測会	11月24日	真崎コミセン 多目的ホール	自然	45	東海村の環境調べ隊
82	J-PARC/ハローサイエンス「石を調べて地球を知る～地下6371kmに広がる世界」	11月29日	AQBRC/オンライン	科学	59	J-PARCセンター
83	3館スタンプチャレンジ	11月30日～1月7日	原子力科学館 げんでん東海原子力館別館 歴史と未来の交流館	科学	533	(公社) 茨城原子力協議会 日本原子力発電(株) 東海村生涯学習課
84	シェリーのネイチャラボ vol.4 「鳥の鳴き声だーれだ？」	12月1日	歴史と未来の交流館	自然	4	東海村生涯学習課
85	みんなですこやかウォーキング	12月6日	石神 歴史ロマンの道コース	健康	20	東海村健康増進課
86	探鳥会 1	12月8日	石神コミセン周辺	自然	33	東海村の環境調べ隊
87	冬の星座と宇宙のひろがり＆星空観望会～土星食と冬の星座を見てみよう～	12月8日	原子力科学館	自然	49	(公社) 茨城原子力協議会
88	古文書講座「舟石川の地図をながめてみよう」	12月14日	歴史と未来の交流館	歴史	11	東海村生涯学習課
89	初めてのスケッチ教室	12月14日	歴史と未来の交流館	芸術	4	東海村生涯学習課
90	クリスマスイベント	12月14日、12月15日	原子力科学館	科学	903	(公社) 茨城原子力協議会
91	げんでんウィンターフェア	12月14日、12月15日	げんでん東海原子力館別館	体験	672	日本原子力発電(株)
92	東海村史を読む「幕末維新期の東海村」	12月15日	歴史と未来の交流館	歴史	6	東海村生涯学習課
93	J-PARC/ハローサイエンス「せかいほ"つづ"からできている～J-PARC入門」	12月20日	AQBRC/オンライン	科学	41	J-PARCセンター
94	博物館長と歩く植物観察会 葉痕や冬芽から樹木の種類を知る	12月21日	白方コミセン周辺	自然	12	東海村生涯学習課
95	親子星空観望会&ナイトミュージアム①	1月10日	原子力科学館	自然	44	(公社) 茨城原子力協議会
96	みんなですこやかウォーキング	1月10日	阿漕ヶ浦・虚空蔵堂コース	健康	29	東海村健康増進課
97	探鳥会 2	1月12日	阿漕ヶ浦周辺	自然	31	東海村の環境調べ隊
98	博物館長と歩く植物観察会「ロゼット葉で冬越しする植物を探す」	1月18日	歴史と未来の交流館	自然	15	東海村生涯学習課
99	東海村史を読む「近・現代の東海村」	1月19日	歴史と未来の交流館	歴史	5	東海村生涯学習課
100	白方公園の自然観察と保護保全	1月19日	白方公園	自然	12	東海村自然倶楽部
101	親子星空観望会&ナイトミュージアム②	1月24日	原子力科学館	自然	37	(公社) 茨城原子力協議会
102	塙千里歌会始	1月25日	歴史と未来の交流館	芸術	9	東海村生涯学習課
103	自然観察ツアーにご招待～野鳥の観察～	1月31日	久慈川周辺	自然	7	東海村自然倶楽部
104	J-PARC/ハローサイエンス「加速器大強度ビームの世界」	1月31日	AQBRC/オンライン	科学	55	J-PARCセンター
105	シェリーのネイチャラボ vol.5 「化石発掘体験」	2月8日	須和間置園付近	自然	20	東海村生涯学習課
106	探鳥会 3	2月9日	久慈川/河川敷周辺	自然	34	東海村の環境調べ隊
107	博物館長と歩く植物観察会「おしば標本作成方法」	2月15日	歴史と未来の交流館	自然	12	東海村生涯学習課
108	古文書講座「藤田東湖の正気歌」	2月15日	歴史と未来の交流館	歴史	18	東海村生涯学習課
109	ミュージアムパークの石塚先生による季節先取りの昆虫教室	2月22日	歴史と未来の交流館	自然	28	とうかい子どもキャンパス
110	J-PARC/ハローサイエンス「金属のストレスをみる」	2月28日	AQBRC/オンライン	科学	54	J-PARCセンター
111	げんでん春のぼかぼかテラちゃんフェア	3月1日、3月2日	げんでん東海原子力館別館	科学	552	日本原子力発電(株)
112	リニューアルオープン記念イベント	3月8日、3月9日	原子力科学館	科学	881	(公社) 茨城原子力協議会
113	講演会「電波でしらべる星のふるさとやブラックホール」	3月9日	原子力科学館	自然	65	(公社) 茨城原子力協議会
114	J-PARC/ハローサイエンス「見えない真空を見てみよう」	3月19日	AQBRC/オンライン	科学	46	J-PARCセンター
115	博物館長と歩く植物観察会「春の植物」	3月22日	歴史と未来の交流館周辺	自然	9	東海村生涯学習課
117	原子力科学館	通年	原子力科学館	科学	26946	(公社) 茨城原子力協議会
116	科学館クイズラリー	通年	原子力科学館	科学	2501	(公社) 茨城原子力協議会
118	科学館ひらがなラリー	通年	原子力科学館	科学	4215	(公社) 茨城原子力協議会
119	来て、見て、知って！げんでん東海原子力館別館は楽しいことがいっぱい！	通年	げんでん東海原子力館別館	科学	8685	日本原子力発電(株)
参 加 者 合 計					63314	



東海村
歴史と未来の交流館
Tokai Village Museum

館内のイベント情報や
ミニコラム「学芸員だより」など
随時、更新しています！

ホームページ

公式 X



 まる博ジャーナル

発行 令和7年3月31日
発行者 東海村教育委員会(東海村歴史と未来の交流館)
所在地 茨城県那珂郡東海村村松768番地38
電話 029-287-0851
印刷 大富印刷株式会社